

第十七條 別途部ノ取扱金ハ概テ左ノ種類トス

- 一 備荒儲蓄金
- 二 恩給基金
- 三 士族授産資本金
- 四 勸業委託金
- 五 衛生資金
- 六 富士川通船賦金
- 七 慈惠救済金

第十八條 前條ノ出納ハ第二章第三章ニ準據シ取扱フヘシ

第五章 雜部

第十九條 雜部ノ取扱金ハ概テ左ノ種類トス

- 一 現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ委託金
- 二 各種ノ保證金
- 三 出納吏ノ一時取扱金

第二十條 縣金庫ニ於テ納入ヨリ納付書ヲ添ヘ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ該書ニ接續シ該書ニ接續スル保管證ヘ年月日ヲ記入シ縣金庫及取扱主任者ノ印並ニ割印ヲ捺シ之ヲ領收證書接續ノ儘之ヲ納入ニ返付シ納付書ハ縣金庫ニ留置クヘシ

第二十一條 縣金庫ハ出納吏ヨリ拂込書ヲ添ヘ現金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ該書ニ接續シ保管證ニ年月日ヲ記入シ縣金庫及取扱主任者ノ印並ニ割印ヲ捺シ之ヲ出納吏ニ送付シ拂込書ハ縣金庫ニ留置クヘシ

第二十二條 縣金庫ハ引出切符ヲ持參シ現金仕拂ノ請求アルトキハ引出案内書ニ對查シ其金額ヲ交付スヘシ但現金交付ノ際引出切符ノ表面ニ年月日現金仕拂濟ノ旨ヲ記入シ置クヘシ

第六章 現金運轉

第二十三條 縣金庫ニ於テ領收シタル歳入金ハ縣廳出納吏ノ通達ニ依リ歳出ニ振替ヘ又ハ指定ノ縣金庫ヘ回金スヘシ但回金ニハ回金送付書ヲ添付スヘシ

前項ニ依リ歳出ヘ振替ヲナシ又ハ回金ヲナシタル縣金庫ハ振替通達書又ハ回金通達書接續ノ報告書ニ年月日ヲ記入シ縣金庫及取扱主任者ノ印ヲ捺シ當日ノ日計表ニ添付シ出納吏ニ送付スヘシ

第二十四條 前條ニ依リ回金ヲ受ケタル縣金庫ハ回金送付書ニ接續シ保管證及回金到達報告書ヘ年月日ヲ記入シ縣金庫及取扱主任者ノ印ヲ捺シ保管證ハ當日ノ日計表ニ添付シ之ヲ出納吏ニ送付シ回金到達報告書ハ回金ヲナシタル縣金庫ニ送付スヘシ

第二十五條 縣廳出納吏ノ通達ニ依リ歳出金ノ内ヨリ振替ヲナシ又ハ回金ヲナストキハ前二條

ノ例ニ依ルヘシ

第七章 帳簿及計算報告

第二十六條 縣金庫入左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 現金出納簿
- 二 歳入金内譯簿
- 三 歳出金内譯簿
- 四 別途金内譯簿
- 五 雜部金内譯簿

第二十七條 縣金庫ニ於テハ現金出納日計表ヲ調製シ其翌日之ヲ縣廳出納吏ニ送付スヘシ但各

廩所屬金庫ニ在テハ其所屬廩ヲ經由スヘシ

第二十八條 縣金庫ニ於テハ左ノ諸表ヲ調製シ翌月三日限り出納吏ニ差出スヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ委託金ニ對スル雜部金月計對照表ハ當該官吏毎ニ之ヲ調製シ當該官吏ノ指定期日ニ之ヲ差出スヘシ

- 一 歳入金月計對照表
- 二 歳出金月計對照表
- 三 別途金月計對照表
- 四 雜部金月計對照表

附則

第二十九條 此規程ニ掲クル計算書帳簿等ハ別冊様式ニ依ルヘシ

第三十條 此規程ハ明治三十一年度所屬ノ會計ヨリ施行ス

(別冊ノ要ス)

●告示第四十三號

明治三十一年四月一日

明治三十一年度縣廳及各廩所屬縣金庫左ノ通相定ム

廳 廩 名	取扱銀行又ハ人名	金 庫 位 置
靜 岡 縣 廳	靜岡三拾五銀行	靜岡市吳服町一丁目八番地
靜岡縣監獄署	同	同
賀茂郡役所	伊豆銀行	賀茂郡下田町九百五十七番地
田方郡役所	同	田方郡三島町六百九十二番地
駿東郡役所	沼津銀行	駿東郡沼津町城内四十六番地ノ三
富士郡役所	吉原銀行	富士郡吉原町四百七番地
庵原郡役所	清水銀行	安倍郡清水町清水受新田百二十番地
安倍郡役所	靜岡銀行	靜岡市吳服町二丁目二十八番地

相賀警察署	藤枝警察署	静岡警察署	江尻警察署	吉原警察署	沼津警察署	三島警察署	下田警察署	引佐郡役所	濱名郡役所	磐田郡役所	周智郡役所	小笠郡役所	榛原郡役所	志太郡役所
相賀銀行	共盛銀行	静岡銀行	東遠銀行	吉原銀行	御厨銀行	同	伊豆銀行	氣賀銀行	西遠銀行	中遠銀行	堀ノ内銀行	掛川銀行	東遠銀行	藤枝銀行
榛原郡相賀町福岡十五番地	志太郡藤枝町本九十三番地	静岡市吳服町二丁目二十八番地	庵原郡江尻町江尻四百八十番地	富士郡吉原町四百七番地	駿東郡沼津町上土二十番地	田方郡三島町六百九十二番地	賀茂郡下田町九百五十七番地	引佐郡氣賀町氣賀五百九十三番地	濱名郡濱松町傳馬百八番地	磐田郡見付町三百二十一番地	周智郡森町森二百五番地	小笠郡掛川町五百四十三番地	榛原郡川崎町靜波三十七番地	志太郡藤枝町市部五十二番地

掛川警察署	森町警察署	見付警察署	濱松警察署	氣賀警察署	松崎警察分署	稻取警察分署	熱海警察分署	伊藤警察分署	田中警察分署	御厨警察分署	大宮警察分署	島田警察分署	川崎警察分署	大須賀警察分署
掛川銀行	堀ノ内銀行	中遠銀行	濱松銀行	氣賀銀行	松崎銀行	齊藤鶴太郎	伊豆銀行	東浦銀行	三島銀行	南山銀行	大宮銀行	島田銀行	東遠銀行	横須賀銀行
小笠郡掛川町五百四十三番地	周智郡森町森二百五番地	磐田郡見付町三百二十一番地	濱名郡濱松町鍛冶九十四番地	引佐郡氣賀町氣賀五百九十三番地	賀茂郡松崎村松崎百七十番地	賀茂郡稻取村三百十番地	田方郡熱海町三百六十八番地	賀茂郡伊東村玖須美二百三番地	田方郡田中村大仁六十二番地	駿東郡御厨町御殿場四十三番地	富士郡大宮町大宮百六十二番地	志太郡島田町六百四十八番地	榛原郡川崎町靜波三十七番地	小笠郡大須賀村横須賀四百二十九番地

山名警察分署	袋井銀行	磐田郡山名町袋井百四十六番地
二俣警察分署	二俣百卅八銀行	磐田郡二俣町二百二十六番地
笠井警察分署	資産銀行	濱名郡笠井町百四十八番地
新居警察分署	濱松銀行	濱名郡濱松町鍛冶九十四番地
沼津監獄支署	沼津銀行	駿東郡沼津町城内四十六番地ノ三
濱松監獄支署	資産銀行	濱名郡濱松町傳馬百二十一番地
静岡縣尋常師範學校	掛川銀行	静岡市吳服町三丁目
静岡縣尋常中學校	同	同
韭山尋常中學校	伊豆銀行	田方郡韭山村四日市十八番地
濱松尋常中學校	濱松銀行	濱名郡濱松町鍛冶九十四番地

●甲第十號 明治三十一年三月廿九日 知事官房、内務部、警察部、監獄署、郡役所、警察署、警察分署、監獄支署、縣立學校

静岡縣物品會計規則左ノ通相定ム

静岡縣物品會計規則

第一章 總則

第一條 縣經濟ニ屬スル物品會計ハ總テ此規則ニ據ル但特別ノ須要ニ依リ本規則ニ準據シ難キモノアルトキハ特別物品會計規則ヲ設クルコトヲ得

第二條 本規則ニ於テ物品ト稱スルハ縣經濟ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其他一切ノ動産ヲ云フ

第三條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二ヶ月ヲ以テ一年度トス

第四條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度所屬ヲ區分スヘシ

第五條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品出納吏トシ左ノ吏員ヲ以テ之ニ充ツ但必要アルトキハ特ニ命スルコトアルヘシ

一 内務部第四課長

二 監獄署獄務課長

三 郡役所第二課長

四 警察署、警察分署、監獄支署、縣立學校其他ノ各所ニ於テハ調度主任上席者

第六條 内務部各課警察部監獄署ニ物品取扱主任一名若クハ數名ヲ置キ物品出納ノ事務ヲ取扱ハシム

第二章 出納

第七條 物品出納吏ハ部署局長ノ命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス但恒例ノ物品出納ハ物品出納吏限リ執行スルコトヲ得

第八條 物品ノ出納ハ消耗賣却亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品出納吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及其他物品出納吏ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第九條 物品出納吏ハ購入其他ノ事由ニヨリ物品ヲ接受シタルトキハ證憑書類ニ照シ調査納入シ又使用者ニ交付シタルトキハ領收證書ヲ徴スヘシ

第十條 交付済ノ物品使用ニ致ラスシテ不用ニ屬シタルモノアルトキハ受取人ヲシテ返納セシムヘシ

第三章 保管責任

第十一條 物品出納吏ハ物品ノ保管出納ニ就キ一切其責ニ任ス

第十二條 物品取扱主任ノ保管ニ係ルモノハ其保管者各自専用ニ係ルモノハ專用者其責ニ任ス

第十三條 物品出納吏ハ物品取扱主任ノ保管ニ係ルト専用者ノ保管ニ係ルモノトテ同ハス物品ノ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ任アルモノトス

第十四條 物品出納命令官ハ物品ヲ亡失毀損シタルモノアルトキハ其者ヲシテ事由ヲ詳記シタル書面ヲ差出サシメ之レカ類末ヲ精査シ其故意怠慢ニ係ルモノハ物品又ハ代價ヲ辨償セシム

ヘシ

前項ノ場合ニ於テ辨償ヲ命スヘキモノハ其理由ヲ付シテ本人ニ告知スヘシ

第十五條 物品出納吏ハ特ニ命セラレタル代理者ノ所爲ニ付テハ其責任ヲ免ル、コトヲ得

前項代理者ハ其代理スル所爲ニ付テハ物品出納吏タルノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス

第十六條 凡ソ貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ倉庫又ハ庫アル場所ニ藏置スヘシ

第十七條 使用中ノ物品ハ毎年一回物品出納吏ニ於テ其現品ヲ點檢スヘシ但必要ト見認ムルトキハ臨時點檢スルコトヲ得

第四章 計算帳簿

第十八條 物品出納吏ハ物品出納簿ノ結果ニヨリ毎年出納計算書ヲ調製シ年度後二ヶ月以内ニ出納命令官ノ檢閲ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第十九條 物品出納吏及物品取扱主任交替シタルトキハ互ニ受授ノ手續ヲ了シ出納ノ計算ハ繼續シテ後任者之ヲ取扱フヘシ但本條受授ノ手續ヲ了シタルトキハ双方連署ノ上其旨出納命令官ニ届出ヘシ但前任者死亡其他ノ事故ニヨリ自身引繼ヲナス能ハサルトキハ出納命令官ニ於テ特ニ代務員ヲ命シ引繼ヲナサシムヘシ

第二十條 物品出納吏及物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

- 一 備品明細簿
- 二 消耗品受拂簿

第二十一條 郵便切手ハ其使用者ニ於テ受拂簿ヲ設ケ日々郵便電信發送箇所及度數切手金額ヲ明記シ置クヘシ

第五章 雜則

第二十二條 不用ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ知事又ハ各府縣ノ指揮ヲ得テ處分スヘシ

第二十三條 此ノ規則ハ明治三十一年四月ヨリ施行ス
(審式零ス)

第三 縣稅徵收

◎縣令第十五號

明治二十九年一月廿六日

明治廿五年二月縣令第九號府縣稅徵收法施行細則縣會ノ議決ヲ經左ノ通改正來ル明治廿九年度ヨリ施行ス

府縣稅徵收法施行細則

第一條 縣稅徵收ノ命令ハ郡ニ在テハ郡長市ニ在テハ市長之ヲ發スルモノトス

第二條 町村ニ對シ發スル徵稅令書ハ第一號樣式ニヨリ各納稅人ニ對シ發スル徵稅令書ハ第二號樣式ニヨリ調製シ年稅ニ在テハ納期十五日前二月稅ニ在テハ納期十日以前ニ臨時收入ニ在テハ其時々之ヲ發スヘシ

第三條 町村長前條ノ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ第三號樣式ニヨリ徵稅傳令書ヲ調製シ各納稅人ニ交付スヘシ

第四條 町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シタル後其稅額ニ増減ヲ生シタルトキ増額ハ増額徵稅令書ヲ減額ハ減額通報書ヲ發スヘシ

第五條 各納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發シ又ハ徵稅傳令書ヲ交付シタル後納期前ニ於テ納稅者ニ異動アルカ又ハ稅額ニ増減ヲ生シタルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ更正スヘシ

第六條 徵稅令書徵稅傳令書及減額通報書ハ出納吏又ハ收入役ヲ經テ町村長又ハ各納稅人ニ交付スヘシ

第七條 市町村ニ於テ徵收シタル稅金ハ縣金庫ニ納付シ其保管證ヲ得テ出納吏ニ差出シ其領收證書ヲ受クヘシ

第八條 府縣稅徵收法第八條第四項滯納ノ報告ハ一周間内ニ之ヲ爲スヘシ但町村長ニ於テ督促令狀ヲ發シタルモノハ其顛末ヲ付記スヘシ

第九條 滯納處分ニヨリ出納吏税金ヲ收納シタルトキハ其項目金額年月日滯納人氏名ヲ町村長ニ通報スヘシ但欠損ニ歸シタルトキ亦全シ

(書式客ス)

●甲第七號

明治廿九年三月八日

郡役所、市役所、町村役場

明治廿九年二月縣令第十五號ヲ以テ府縣稅徵收法施行細則改正俟處市町村ニ於テハ尙ホ従前ノ書式ヨ依リ收入ニ關スル諸帳簿ヲ設備スル備ト心得ヘシ

●訓令甲第二十一號

明治二十二年三月廿九日

郡役所、戶長役場

地方稅歲入取扱順序別冊ノ通相定ム

(別冊)

地方稅歲入取扱順序

第一章 總則

第一條 一會計年度ニ屬スル地方稅歲入ハ第二條ヲ除キ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

第二條 地方稅歲入中地租制前半期分ハ特ニ開始以前ニ於テ收納ヲ爲スコトヲ得

第三條 一會計年度所屬地方稅歲入整理ノ爲メ翌年度五月三十一日マテ收納ヲ爲スコトヲ得

第四條 地方稅歲入決算後既往年度ノ追徵金ハ其徵稅令書ヲ發セシ年度ノ雜收入トシ之ヲ整理スルモノトス

第五條 地方稅歲入科目ヲ分テ款項目トシ第一號科目表ノ通り之ヲ定ム

第二章 郡役所

第六條 郡長ハ地方稅金ヲ徵收スルホハ總テ町村長ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

但公賣處分ニ依リ徵收スル稅金ハ現金ヲ郡役所ニ收入スルヲ得此場合ニ於テハ徵稅令書ヲ發セズ

第七條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別邊ク可ラサル場合ニ於テハ現金ヲ郡役所ニ收入スルヲ得此場合ニ於テハ即時其旨ヲ知事ニ報告スヘシ

第八條 郡長ハ納期ヲ豫定シタル年稅ハ納期ノ十五日以前日稅ハ納期ノ十日以前ニ徵稅令書ヲ發シ隨時納期ヲ定ムルモノハ其時々徵稅令書ヲ發スヘシ

第九條 郡長ハ町村長ニ對シ徵稅令書ヲ發スル時ハ徵收簿ニ依リ第二號書式ノ徵稅令書ニ町村長ノ氏名金員納期番號所屬年度科目納付先ヲ記入シ又其令書ニ接續スル上納書ノ正副トモ同一ノ記入ヲナシ(金員ヲ除ク)徵稅令書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官氏名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第

二號書式①印ノ如ク徵收簿ト割印シテ之ヲ町村長ヘ交付ス第七條ニヨリ現金ヲ收入スル時ハ
上納副書用紙ヲ交付セシ

第十條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル税金ヲ第六條但書ニヨリ郡役所ニ收入シタルトキハ別ニ其
領收證書ヲ製シ處分濟徵收ノ違書ト共ニ町村長ニ交付シテ納稅者ニ傳ヘシムヘシ

第十一條 第七條ニヨリ税金ヲ郡役所ニ納付セシメタルトキハ徵稅令書ニ領收ノ年月日ヲ記入
シ郡役所印ヲ捺シ其傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷シ該令
書ハ之ヲ納人ニ還付スヘシ

但内納不納ノ時町村長ニ對スル處務ノ順序ハ總テ郡役所爲換方ノ取扱ニ準スヘシ

第十二條 第六條但書及第七條ニ依リ税金ヲ郡役所ニ收入スルトキハ郡長ハ税金取扱主任官ヲシ
テ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル第三號書式ノ納付書ヲ添ヘ翌日マテニ現金ヲ爲換
方ニ納付セシムヘシ

第十三條 郡長ハ爲換方ヨリ毎日上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ徵收簿ニ照合シ該簿ニ
納濟ノ記入ヲナスヘシ

第十四條 郡役所ニ於テ税金ヲ徵收スル場合ニ於テハ現金ヲ收入シタル際即時ニ徵收簿ニ領收
濟ノ記入ヲナスヘシ

第十五條 郡長ハ徵稅令書發付ノ后其金額ニ増減アルトキハ増額ハ更ニ増額徵稅令書ヲ減額ハ
減額通報書ヲ町村長ニ發スヘシ

第十六條 郡長ハ税金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルトキハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其理由ヲ裏面
ニ記載シテ之ヲ町村長ニ交付スヘシ

第十七條 郡長ハ徵稅令書ノ水火盜難等ニ罹リ亡失シタル旨町村長ヨリ具申ヲ得タルトキハ未
納殘額ヲ調査シ其殘額ノ徵稅令書金額ノ右側ニ(金若干ノ内未納殘)ト記載シテ町村長ニ交付
スヘシ

第十八條 郡長ハ爲換方ヨリ上納副書分納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受ケタルトキ年
度又ハ科目(項)ノ誤記ヲ發見スルトキハ即時爲換方ニ照會シテ之レカ訂正方ヲ請求スヘシ

第十九條 郡長ハ毎月徵稅令書ノ發付額及徵收濟ノ金額ヲ一ヶ月毎ニ調査シ第七號書式ニ依リ
歳入報告書ヲ製シ翌月五日マテニ差立縣廳ニ送致スヘシ

但報告後誤記訂正ヲ要スルモノアルトキハ第八號書式ニヨリ訂正表ヲ以テ報告スヘシ

第二十條 郡長ハ爲換方ノ領收ヲ證シタル月分ヲ以テ第十九條ノ歳入報告書ヲ整理シ尙第八十
四條ニ依リ爲換方ヨリ送付セラレタル收入報告表金額ト照合シ之ヲ添付シテ差出スヘシ

第二十一條 郡長ハ地方稅歳入ノ過納若クハ誤納ニヨリ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ第九號

書式ニヨリ下戻請求書ヲ製シテ其下戻ヲ縣廳ニ請求スヘシ

但本條ノ下戻請求ハ第十九條ノ歳入報告ヲナシタル後ニ於テ請求スヘシ

第二十二條 郡長ハ縣廳ヨリ既納金拂戻手形ヲ受領シタルハ第十號書式ニヨリ領收證ヲ縣廳ニ發送シ手形ハ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徵スヘシ

第二十三條 郡長ハ町村長ニ於テ取纏メタル地方税金ノ内水火盜難若クハ他ノ事故ニ依リ缺損金補填ノ裁可ヲ受ケタルハ第二十一條第九號書式ニ準シ補填金請求書ヲ製シ縣廳ニ請求スヘシ

第二十四條 郡長ハ前條ノ補填金手形ヲ受領シタルハ第二十二條第十號書式ニ準シ其領收證ヲ縣廳ニ發送シ該手形ハ第十二條第三號書式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ爲換方ニ納付シ其旨ヲ町村長ニ通告スヘシ

第二十五條 郡長ハ納期後不納ノ財産公賣處分ヲナシ其代價不納金額ニ充サルカ又ハ買受人ナク若クハ代價不相當ノ爲メ財産官沒シ又ハ賦課ノ財産ナキ等ニテ缺損ニ歸スルハ其旨ヲ町村長ニ通報シ第十九條但書第八號書式徵稅額訂正表ヲ以テ其減額ヲ縣廳ヘ報告スヘシ

但缺損減額ハ事由ノ異ナル毎ニ記載シ他ノ減額報告書ト區別シ各通ニ調製スヘシ

第二十六條 郡長ハ地方税不納者旅行又ハ逃亡失踪シ其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノ同年度ヲ經過スルモ尙ホ本人歸籍セス又所在發見セス徵收ヲ完了セサルハ決算期限以前ニ於テ缺損ヲ知事ニ稟議シ裁可ヲ得タルハ直ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十七條 郡長ハ第二十五條ニヨリ減額報告シタル後同年度決算期限以前ニ於テ再營業出願ニヨリ前ノ不納金追徵スルハ更ニ徵稅令書ヲ發シ歳入報告書科目欄内ヘ其事由及最前徵稅額減額報告ノ年月日番號ヲ附記シテ報告スヘシ

但決算期限後ノ追徵金ハ雜收入ヘ編入報告スヘシ

第二十八條 郡長ハ地方税歳入ヲ翌年度五月三十一日限決算シ第十一號及第十二號書式ニヨリ決算書ヲ調製シ六月十日マテニ差立縣廳ニ送致スヘシ

第二十九條 郡長ハ地方税歳入ニ關スル諸帳簿ヲ第十三號第十四號及第十五號左ノ如ク調製シ每會計年度ニ依リ整理スヘシ

第三章 市役所

第三十條 市長ハ地方税金ヲ徵收スルハ總テ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第三十一條 市長ハ納期ヲ豫定シタル年税ハ納期ノ十五日以前月税ハ納期ノ十日以前ニ徵稅令書ヲ發シ隨時納期ヲ定ムルモノハ其時々徵稅令書ヲ發スヘシ

第三十二條 市長ニ於テ徵收シタル税金ハ翌日マテニ之ヲ縣廳爲換方ニ納付スヘシ

第三十三條 前條ノ如ク定ムト雖モ市長ニ於テ相當ノ保護法ヲ設クルハ納期前ニ限リ一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ市役所ニ留ムルコトヲ得

但保護法ヲ設クルハ其方法ヲ知事ニ具申スヘシ

第三十四條 市長ハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルトキハ一人別收納簿ニ依リ第五號書式ノ徵稅令書ニ市長及納稅者ノ氏名金員納期番號所屬年度科目ヲ記入シ又其徵稅令書ニ接續ノ領收證用紙ニ同一(金員ヲ)ノ記入ヲナシ徵稅令書ニ發付ノ年月日ヲ記入シ之ニ捺印シ第五號書式①印ノ如ク收納簿ト割印シテ之ヲ各納稅者ニ配付シ納稅者ヲシテ現金ニ徵稅令書ヲ添ヘ市役所ニ納付セシムヘシ

第三十五條 市長ハ各納稅者ヨリ稅金ヲ領收スルトキハ徵稅令書ニ接續シタル領收證用紙ニ金員及領收ノ年月日ヲ記入シ市長氏名下ニ捺印シ徵稅令書ト領收證ト接續ノ所へ②印ノ如ク割印シテ之ヲ切斷シ徵稅令書ヲ役所ニ留メ領收證ヲ納稅ニ交付スヘシ

第三十六條 市長ハ納期限前稅金ノ内納ヲサソコトヲ請フモノアルトキハ徵稅令書ニ内納ノ金額并ニ其領收年月日ヲ記入シ捺印シテ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續ヲナスヘシ但市長ニ於テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收證ヲ發スルヲ便宜トスルトキハ假領收證ヲ交付シ完納ノ際第三十五條ノ手續ヲナシテ假領收證ト交換スヘシ

第三十七條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル稅金ハ別ニ其領收證書ヲ製シ處分濟徵收ノ違背ト共ニ之ヲ納稅者ニ交付スヘシ

第三十八條 市長ハ第三十五條第三十六條及第三十七條ニ依リ徵收シタル稅金ハ取扱主任官ヲシテ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル第三號書式ノ納付書ヲ添ヘ現金ヲ縣廳爲換方ニ納付セシムヘシ

第三十九條 市長ハ徵稅令書發付ノ後其金額ニ増減アルトハ増額ハ其増額ノ徵稅令書ヲ發シ減額ハ更ニ徵稅令書ヲ製シ最前ノ分ト交換スヘシ

第四十條 市長ハ稅金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其理由ヲ裏面ニ記載シテ之ヲ納稅者ニ交付スヘシ

第四十一條 市長ハ爲換方ヨリ領收ヲ證シタル納付書ヲ受タルモ年度又ハ科目(項)ノ誤記ヲ發見スルハ即時爲換方ニ照會シテ之カ訂正方ヲ請求スヘシ

第四十二條 市長ハ毎月徵稅令書ノ發付額及納付濟ノ金額ヲ一ヶ月毎ニ調査シ第七號書式ニヨリ歳入報告書ヲ製シ翌月五日マテニ縣廳ニ送致スヘシ

但報告后誤記訂正ヲ要スルモノアルハ第八號書式ニヨリ訂正表ヲ以テ報告スヘシ

第四十三條 市長ハ爲換方ノ領收ヲ證シタル月分ヲ以テ前條ノ歳入報告書ヲ整理シ尙第八十四

條ニヨリ爲換方ヨリ送付セラレタル收入報告表金額ト照合シ之ヲ添付シテ差出スヘシ

第四十四條 市長ハ地方税歳入ノ過納若クハ誤納ニヨリ既納ノ税金下戻ヲ要スルホハ第九號書式ニ準シ下戻請求書ヲ製シ其下戻ヲ縣廳ニ請求スヘシ

但本條ノ下戻請求ハ第四十二條ノ歳入報告ヲナシタル後ニ於テ請求スヘシ

第四十五條 市長ハ縣廳ヨリ既納金拂戻手形ヲ受領シタルホハ第十號書式ニヨリ領收證ヲ縣廳ニ發送シ爲換方ニ於テ現金ヲ請取リ之ヲ納稅者ニ還付シテ領收證ヲ徴スヘシ

第四十六條 市長ハ地方税金ノ内水火盜難若ハ他ノ事故ニヨリ缺損金補填ノ裁可ヲ受クタルホハ第四十四條第九號書式ニ準シ補填金請求書ヲ製シ縣廳ニ請求スヘシ

第四十七條 市長ハ前條ノ補填金手形ヲ受領シタルホハ第四十五條第十號書式ニ準シ其領收證ヲ縣廳ニ發送シ該手形ハ第三十八條第三號書式ノ納付書ヲ添ヘ之ヲ爲換方ニ納付スヘシ

第四十八條 市長ハ納期後不納ノ財産公賣處分ヲナシ其代價不納金額ニ充サルカ又ハ買受人ナク若クハ代價不相當ノ爲メ財産官沒シ又ハ賦課ノ財産ナキ等ニテ缺損ニ歸スルホハ其旨ヲ帳簿ニ記入シ第四十二條但書第八號書式徵稅額訂正表ヲ以テ其減額ヲ縣廳ニ報告スヘシ

但缺損減額ハ事由ノ異ル毎ニ記載シ他ノ減額報告書ト區別シ各通ニ調製スヘシ

第四十九條 市長ハ地方税不納者旅行又ハ逃亡失踪シ其財産ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ

シ能ハサルモノ同年度ヲ經過スルモ尙本人歸籍セス又所在發見セス徵收ヲ完了セサルホハ決算期限以前ニ於テ缺損ヲ知事ニ稟議シ裁可ヲ得タルホハ直ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十條 市長ハ第四十八條ニヨリ減額報告シタル後同年度決算期限以前ニ於テ再營業出願ニヨリ前ノ不納金追徴スルホハ更ニ徵稅令書ヲ發シ歳入報告書科目欄内ヘ其事由及最前徵稅額減額報告ノ年月日番號ヲ附記シテ報告スヘシ

第五十一條 市長ハ地方税歳入ヲ翌年度五月三十一日限り決算シ第十一號及第十二號書式ニヨリ決算書ヲ調製シ六月十日マテニ縣廳ニ送致スヘシ

第五十二條 市長ハ地方税歳入ニ關スル諸帳簿ヲ第十六號第十七號及第十八號式ニ準シ調製シ每會計年度ニヨリ整理スヘシ

第四章 町村役場

第五十三條 町村長ハ郡長ヨリ地方税歳入ノ徵稅令書ヲ受タルホハ直ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ發シ税金ヲ取纏ムルモノトス

第五十四條 町村長ニ於テ取纏メタル税金ハ翌日迄ニ之ヲ郡役所爲換方ニ納付スヘシ

第五十五條 前條ノ如ク定ムト雖モ町村長ニ於テ相當ノ保護法ヲ設クルホハ納期前ニ限り一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之ヲ其町村役場ニ留ムルコトヲ得

但保護法ヲ設クルモノハ其方法ヲ郡長ニ具申シ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第五十六條 町村長ハ郡長ヨリ徵稅令書ヲ受ケタルキハ其町村一人別收納簿ニヨリ第六號書式ノ徵稅傳令書ニ町村長及納稅者ノ氏名金員納期番號所屬年度科目ヲ記入シ又其傳令書ニ接續ノ領收證用紙ニ同一(金員ヲ)ノ記入ヲナシ傳令書ニ發付ノ年月日ヲ記入シ之ニ捺印シ第六號書式①印ノ如ク收納簿ト捺印シテ之ヲ各納稅者ニ配付シ納稅者ヲシテ現金ニ傳令書ヲ添ヘ役場ニ納付セシムヘシ

第五十七條 町村長ハ各納稅者ヨリ稅金ヲ領收スルトキハ徵稅傳令書ニ接續シタル領收證用紙ニ金員及領收ノ年月日ヲ記入シ町村長氏名下ニ捺印シ傳令書ト領收ト接續ノ處ヘ②印ノ如ク捺印シテ之ヲ切斷シ傳令書ヲ役場ニ留メ領收證ヲ納稅者ニ交付スヘシ

第五十八條 町村長ハ納期限前稅金ノ内納ヲナサンコトヲ請フモノアルキハ徵稅傳令書ニ内納ノ金額并ニ其領收年月日ヲ記入シ捺印シテ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續ヲナスヘシ但町村長ニ於テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收證ヲ發スルヲ便宜トスルトキハ假領收證ヲ交付シ完納ノ際第五十七條ノ手續ヲナシテ假領收證ト交換スヘシ

第五十九條 町村長ニ於テ取纏メタル稅金ヲ納付スルトキハ郡長ヨリ受タル徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ニ第二號書式第一例ノ如ク金員年月日ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ

之ヲ現金ニ添ヘ爲換方ニ納付スヘシ

第六十條 町村長ハ取纏メタル稅金未タ徵稅令書ノ金額ニ滿タサルカ爲メ内納ヲナサントスルキハ第四號書式ノ分納書ニ式ノ如ク所屬年度科目ヲ其受タル徵稅令書ニ記載シタル如ク記入シ之ニ内納ノ金額及納付年月日ヲ記入シ記名捺印シテ現金並ニ徵稅令書(此時徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ハ白文ノマ)ト共ニ之ヲ爲換方ニ納付スヘシ

第六十一條 前條分納ノ場合ニハ徵稅令書ニ記載シタル納金ノ金額ニ滿ル迄ハ前條ノ手續ニヨリ最後完納ノ時ニ至レハ分納書ヲ用ヒス第二號書式第二例ノ如ク徵稅令書ニ接續シタル上納書ニ其納金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ爲換方ニ納付スヘシ

第六十二條 町村長ニ於テ稅金ヲ分納シタル後納期末日ニ至リ徵稅令書ノ金額ヲ完納スル能サルキハ徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ノ上納文ヲ朱書ヲ以テ第二號書式第三例ノ如ク改記シ不納報告書トナシ不納金額及年月日ヲ記入シ記名捺印シテ之ヲ(徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ハ白文ノマ)爲換方ニ送付スヘシ

第六十三條 前條ノ不納報告ヲナシタル後町村長ニ於テ稅金ノ上納ヲ取扱フコトアルトキハ第六十條ノ如ク第四號書式ノ分納書ヲ以テ爲換方ヨリ返付セラレタル徵稅令書ト共ニ現金

ヲ爲換方ニ納付スヘシ

第六十四條 徵稅令書發付ニ先チ成規ニ依リ即納又ハ納稅者ノ望ニ依リ上納スル場合ニ於テハ

町村長ハ其領收證書ヲ納稅者ニ交付シ郡長ニ報告シテ徵稅令書ノ發付ヲ請求スヘシ

第六十五條 前條ノ場合ニ於テ町村長ハ徵稅令書ヲ受ケタルトキハ其傳令書ヲ發セス第五十九條

ニ依リ之ヲ爲換方ニ納付スヘシ

第六十六條 町村長ハ郡長ヨリ徵稅令書ノ減額通報書ヲ得タルトキハ第二號書式第三例不納ノ例

ニ準シ上納書ニ減額ノ金員ヲ掲ケ減額報告書トナシテ爲換方ニ送付スヘシ

第六十七條 町村長ハ前條ノ場合ニ於テ不納減額共ニ報告ヲ要スルトキハ上納書ニ不納減額ヲ合

計シタル金員ヲ掲ケ不納並減額報告書トナシテ爲換方ニ送付スヘシ

第六十八條 町村長ハ水火盜難等ニ罹リ徵稅令書ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ郡長ニ具申シテ徵

稅令書ノ再發付ヲ請求スヘシ

第六十九條 町村長ハ地方稅歲入ノ過納若クハ誤納ニヨリ既納ノ稅金下戻ヲ要スルトキハ金員年

度科目納付年月日及事由ヲ具シテ之ヲ郡長ニ請求スヘシ

第七十條 町村長ハ郡長ヨリ稅金拂戻手形ヲ交付セラレタルトキハ其領收證書ヲ郡役所ニ發送

シ爲換方ニ於テ現金ヲ受取之ヲ納稅者ニ還付シ領收證書ヲ徵スヘシ

第七十一條 町村長ハ地方稅歲入ニ關スル諸帳簿ヲ第十六號第十七號及第十八號式ノ如ク調製

シ毎會計年度ニヨリ整理スヘシ

第五章 郡役所爲換方

第七十二條 爲換方ニ於テ町村長ヨリ地方稅金ヲ領收シタルトキハ其持參シタル徵稅令書ニ領收

ノ證ヲ記シ之ヲ町村長ニ交付ス第十二條及第三十八條ノ場合ニ於テハ納付書ニ領收ノ證ヲ記

シ還付ス

第七十三條 爲換方ハ各町村長ヨリ地方稅金ヲ領收シタルトキハ毎日上納副書ヲ其徵稅令書ヲ發

シタル郡役所ヘ送付ス郡役所若クハ市役所ヨリ領收シタルトキハ此限ニアラス

第七十四條 爲換方ハ町村長ヨリ現金ヲ上納書ニ添ヘ徵稅令書ト共ニ納付スルトキハ其令書ニ第

二號書式ノ如ク領收ノ年月日ヲ記入シ爲換方ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ所ヘ割印ノ後之ヲ切

斷シ其令書ハ町村長ニ還付ス

第七十五條 爲換方ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ

爲換方ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ所ヘ割印シテ

之ヲ切斷シ正書ニヨリテ帳簿ニ記入シ副書ハ即日徵稅令書ヲ發シタル郡役所ヘ送付ス

第七十六條 町村長ヨリ稅金ノ内納ヲナスタメニ分納書ヲ添ヘテ現金ヲ納付スルトキハ爲換方

ハ徵稅令書ノ裏面ニ第二號書式第二例ノ如ク内納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ町
村長ニ還付ス

第七十七條 爲換方ハ前條ノ手續ヲナシタル後ハ分納書ニ書式ノ如ク納済ノ年月日ヲ記入シ爲
換方ノ印ヲ捺シ正副接續ノ所ニ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡役所
ヘ送付シ正書ニ據リテ帳簿ニ記入ス

第七十八條 町村長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未完納ニ至ル時ハ爲換方ハ第二號書式第二例ノ
如ク徵稅令書裏面ニ記載シタル領收済ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ最後領收
ノ金額年月日ヲ記入シ爲換方ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書
ハ之ヲ町村長ニ還付ス

第七十九條 町村長ヨリ税金ノ分納ヲナシタル未徵稅令書ノ金額ヲ完納シ難キトキ其旨ヲ報告
シ來ルトキハ爲換方ハ第二號書式第三例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記シタル領收済ノ金額ヲ合計
シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ未書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ爲換方ノ印ヲ捺シ不納報告書ト
接續ノ所ヘ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ町村長ニ還付ス

第八十條 爲換方ハ前條ノ手續ヲナシタル後不納報告書正副書接續ノ所ヘ割印シテ之ヲ切斷シ
副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡役所ヘ送付ス

第八十一條 不納處分中上納ノ税金町村長ヨリ納付スルハ爲換方ハ第二號書式第三例ノ如ク
徵稅令書裏面ノ餘白ヘ納付金額年月日ヲ記入シ爲換方ノ印ヲ捺シ之ヲ町村長ニ還付ス幾回ニ

モ右ノ如キ收納アリテ餘地ナキニ至レハ第二號書式第三例ノ末ニアル雜形ニヨリ領收證箋ヲ
製シ金額年月日ヲ記入シ爲換方ノ印ヲ捺シ徵稅令書裏面ノ下端ニ貼付シ契印ヲ捺ス

第八十二條 前條ノ手續ヲ終ル後分納書取扱ノ手續ハ第七十七條ニ同シ

第八十三條 爲換方ハ郡役所若クハ市役所現金取扱主任官ヨリ現金ノ納付ヲ受クルハ第三號
書式ノ如ク納付書ノ正書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ副書ニハ納済ノ年月日ヲ記入シ共ニ爲換方
ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ所ヘ割印シテ之ヲ切斷シテ正書ハ之ヲ納付人ヘ還付シ副書ハ爲換方
ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ之ニヨリテ帳簿ニ記入ス

第八十四條 爲換方ハ毎月領收シタル收入金報告表ヲ調製シ翌月三日以内ニ徵稅令書ヲ發シタ
ル郡役所若クハ市役所ヲ經由シテ縣廳ニ送付ス

第六章 附 則

第八十五條 本順序ハ明治二十二年度ヨリ施行ス

但本順序ニ抵觸スル從前ノ違ハ明治二十一年度分ヲ限り廢止ス

第八十六條 本順序中市長町村長トアルハ市長町村長就職スル迄ノ間郡長戸長ニ於テ取扱フヘ

第八十七條 備荒儲蓄金ノ徴收モ本順序ニ準シ取扱フヘシ

(書式ハ凡テ容ス)

●甲第八號 明治二十四年二月廿五日

郡役所、市役所、町村役場

明治廿二年^三訓令甲第廿號一地方稅歲入取扱順序中市町村ニ於テ各納稅人ヨリ稅金ヲ領收スルハ其市町村收入役トシ市町村長ハ其領收證ニ捺印スヘシ

●甲第四號 明治二十四年二月十七日

郡役所、市役所、町村役場

明治二十三年^九法律第八十八號府縣稅徵收法第八條ニ據リ縣出納吏ノ發スル領收證交付手續左ノ通相定メ來ル廿四年度ヨリ施行ス

- 一 市町村收入役ハ各納稅人ヨリ稅金ヲ領收シタルキハ明治廿二年^三訓令甲第廿一號地方稅歲入取扱順序ニヨリ領收證ヲ各納稅人ニ交附スヘシ(二十四年甲第七號ヲ以テ修正)
- 一 町村長ハ徵稅令書ニ現金ヲ添ヘ爲換方ヘ預入レタルキハ其徵稅令書若クハ分納書ヲ郡長ニ差出シ郡長ハ是レニ金額領收ノ年月日ヲ記入シ記名捺印ノ上町村長ニ交附スヘシ
- 一 郡長ハ前項ノ記入ヲ爲スニ當リ余白ナキキハ領收證ヲ製シ是ヲ貼付スヘシ
- 一 府縣徵收法第七條ニヨリ郡長ノ發スル徵稅令書式ハ地方稅歲入取扱順序第五號書式ニ準シ調製スヘシ

●乙第十九號

明治十九年三月十九日

各 郡

地方稅中營業稅雜稅臺帳樣式別冊ノ通相定候條明治十九年度ヨリ施行スヘシ此旨相違候事

(別冊)

地方稅臺帳調製心得

- 一 商業會社工業會社稅臺帳ハ第一號樣式ニ準據スヘシ
- 一 陸運會社陸運店廻酒店卸賣商仲買商小賣商雜商質屋兩換屋爲換店古着古金古道具類商旅籠屋温泉宿料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店湯屋理髮人雇人受宿遊藝師匠遊藝隊人相撲行司俳優間藝妓遊技場人寄席稅臺帳ハ第二號樣式ニ準據スヘシ
- 一 職工漁業採藻筏乘捕鳥稅臺帳ハ第三號樣式ニ準據スヘシ
- 一 市場稅臺帳ハ第四號樣式ニ準據スヘシ
- 一 演劇興行稅臺帳ハ第五號樣式ニ準據スヘシ
- 一 水車紺屋稅臺帳ハ第六號樣式ニ準據スヘシ
- 一 乘馬稅臺帳ハ第七號樣式ニ準據スヘシ
- 一 屠宰稅臺帳ハ第八號樣式ニ準據スヘシ
- 一 漁業稅中籠臺帳ハ第九號樣式ニ準據スヘシ
- 一 煙火稅臺帳ハ第十號樣式ニ準據スヘシ
- 一 船車稅ハ臺帳ヲ調製スルニ及ハス國稅臺帳ヲ兼用スヘシ
- 一 臺帳ハ一町村限リ同種目ノモノヲ順次之ヲ例記シ每町村ニ見出ヲ付シ所轄限リ一冊トナスヘシ

- 但シ戸數人員ノ多キモノハ適宜之ヲ分冊シ又少キモノハ他ノ種目ト合冊トナスモ妨ナシ
- 臺帳ハ年税ニ係ルモノハ毎前(後)半期月税上リ高税ニ係ルモノハ毎月町村末ニ一町村ノ計冊尾ニ郡計ヲ附シ計査ノ便ニ供スヘシ
- 鑑札番號ハ一種目一町村毎ニ第一號ヨリ起シ順次之ヲ記入シ廢棄轉業又ハ他町村へ轉住ノモノハ之ヲ朱消シ番號ハ缺號ト爲シ置クヘシ
- 臺帳ハ年々通シテ之ヲ用フヘシ
- 様式ニ掲載シタル事項ノ外郡役所ニ於テ特ニ掲載ヲ要スル事項アルトキハ適宜欄畫ヲ増設シ之ヲ掲載スルモ妨クナシ
- 臺帳ノ用紙ハ常用野紙以テ之ニ充ツルモ妨クナシ

(様式零ス)

●訓令乙第二十五號 明治二十二年五月十日

郡 役 所

地方税并備荒公儲金賦課徴收ノ義ハ收稅部ニ於テ取扱來リ候處今回右事務ヲ第一部ニ移シ候條從前收稅長又ハ收稅部宛ニテ差出タル件ハ自今第一部長又ハ第一部ニ宛テ差出スヘシ

第四 縣稅滯納處分

甲第五號 明治三十一年二月十日

郡役所、市役所、町村役場

縣稅徵收並ニ滯納處分取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 縣稅滯納處分ノ爲メ財產差押ヲ爲ストキハ國稅徵收法第十一條ノ證票ハ縣稅徵收命令ノ委任ヲ受ケタル命令者之ヲ發スヘシ
前項ノ證票ハ左ノ如シ

用紙厚紙縱二寸五分横一寸五分

第何號		裏
縣稅滯納者財產差押證票		官(職)氏名
表		

第二條 國稅徵收法第九條其ノ他ニ掲クル收稅官吏ノ事務ハ郡長又ハ市長之レヲ取扱フヘシ但郡長ハ便宜町村長ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ又遠隔セル町村ニ在テハ其ノ事務ノ全部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三條 町村長ハ前條但書ノ命令ヲ受ケタルトキハ國稅徵收法第三章ノ規定ニ依リテ處理シ完了ノ上ハ其顛末ヲ詳記シ郡長ニ申報スヘシ

第四條 滯納處分費ノ納金ハ郡役所ニ於テ處分スルモノハ縣稅雜收入トシ市役所町村役場ニ於テ處分スルモノハ各其ノ經濟ニ收入スヘシ

第五條 國稅徵收法等廿四條ノ物品買上代金ハ事由ヲ詳記シ郡長又市長ハ縣廳ニ之ヲ請求シ町村長ハ郡長ニ請求スヘシ

●乙第三號 明治十八年一月二十三日

各 郡

地方稅ヲ納ムルモノ納稅期限前逃亡等ニテ右期限ヲ過キ歸籍セス税金不納ノモノハ明治十二年本縣乙第百六號達第四項ニ據リ處分スヘキノ處其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ納期後三十日內ニ一旦損失ヲ申出他日本人歸籍又ハ所在發見シタルハ每期ニ保ル不納稅ヲ追徵候儀ト可心得此旨相達候事(明治十八年乙第五十一號ヲ以テ更正)

●丙第七十七號 明治十八年九月十日

郡 町 村

民事裁判上身分限財產處分ノ場合ニ限り郵便切手四枚以上聯續セサル者ト雖も買戻ノ請求ヲナスコトヲ可得旨明治十八年四月本縣丙第廿八號ヲ以テ相達候處諸税金(戶數)不納者ニシテ財產公賣ノ場合ニ於テモ右ニ準據シ買戻ノ請求ヲナスコトヲ得ヘシ此旨相達候事

●達第七號 明治二十年二月三日

郡 役 所

租稅不納ノ爲メ地所建物船舶ノ公賣處分ニ着手スルトキ又ハ其公賣處分ヲ取消シタルトキハ速

ニ其旨公賣財產所在地ヲ管轄スル登記所へ通報スヘシ

但地方稅其他モ本文ニ據ルヘシ

●達第十一號 明治二十年一月二十九日

郡 役 所、 戶 長 役 場

本年二月一日ヨリ登記法實施ニ付テハ租稅不納者公賣ニ附スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無ハ其時々登記所ニ取調方ヲ照會スヘシ

但地方稅其他モ本文ニ據ルヘシ(明治廿年達第廿八號ヲ以テ但書追加)

●達第廿八號 明治二十年十一月二十六日

郡 役 所、 戶 長 役 場

租稅不納ニ係ル物件ニ關シ賣買讓與等總テ所有移轉ニ就キ登記ノ有無ハ其時々登記所ニ取調方ヲ照會スヘシ

但地方稅其他モ本文ニ據ルヘシ

●訓令甲第四十三號 明治二十一年十二月二十一日

郡 役 所、 戶 長 役 場

租稅及地方稅其他不納ニ係ル物件公賣處分ニ際シ債主ノ有無登記所へ照會及ヒタルトキハ登記法第九條ノ記入有無ヲモ取調回答可有之等今般別紙ノ通司法大臣ヨリ登記所へ指令相成タルニ付此旨心得ヘシ(別紙略ス)

●訓令甲第四十四號 明治二十一年十二月二十一日

郡 役 所、 戶 長 役 場

租税及地方税其他不納ニ係ル物件公賣ノ際登記法第九條ノ配入アル場合ニ於テハ其取扱方左ノ通心得ヘシ

- 第一 不納ニ係ル物件ニ登記法第九條ノ配入アルハ一應其権利者ヘ未納税アル旨ヲ通告シ權利者之ヲ辨納セサルニ於テハ公賣ヲ行フモノトス但其際登記取消方ヲ裁利所ヘ照會スヘシ
- 第二 公賣決行後代金ニ剩餘ヲ生スルトキハ該剩餘金ハ郡役所ニ於テ之レヲ預リ置其旨裁利所ヘ通知シ同所ノ照會ニ依リ之レヲ處分スヘシ

第五 年金恩給等

●丙第百號

明治十七年九月二十七日

郡 町 村

舊海軍退隱令ニ據リ退隱料并扶助料ヲ受クル者其金額授受ノ節自今戸長ノ證セル本人生存者(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領證書ヲ差出シ右證書引替ニ該金額授受候條此旨相違候事

但退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前願出ヘシ前願出ヘシ若其期ヲ過ル者ハ仍ホ元所在ノ地ニ於テ交付スヘシ

●丙第百二十三號

明治十七年十二月二十五日

郡 町 村

明治八年第四十八號公達陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭案并ニ其家族扶助概則ニ依リ扶助料ヲ受クル者其金額授受ノ節自今戸長ノ證セル本人生存者(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領證書ヲ差出シ右證書引替ニ該金額授受候條此旨相違候事

但扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前願出ヘシ若其期ヲ過ル者ハ仍ホ元所在ノ地ニ於テ交付スヘシ

●丙第十五號

明治十八年二月十七日

郡 町 村

明治八年四月四太政官第四十八號達陸軍武官傷痍扶助及死亡之者祭案并其家族扶助概則及同年八月官第四百四十八號達海軍退隱令ニ據リ給與可相成扶助料及退隱料ハ自今毎年一月四月七月十月ニ前三ヶ月分ノ金額ヲ交付候條此旨相違候事

●丙第廿七號

明治十九年四月六日

郡 町 村

陸海軍恩給令並官吏恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其受領ノ權利消絕ニ至リ又ハ轉籍及改姓名等本人ニ異動ヲ生スルトキハ速ニ届出サスヘシ他管下ニ寄留ノ者ハ其旨本籍戸長ヨリ速ニ可届出此旨相違候事

但陸軍武官傷痍扶助概則並海軍退隱令ニ依リ退隱料ヲ受クル者モ本文ニ準ス

●郡第八號

明治二十三年四月六日

郡 役 所

明治廿三年度以降年金恩給ノ受領者ハ當廳ヨリ直チニ送金スヘキニ付テハ其郡下居住ニ係ル該受領者ノ年金證若クハ恩給證書及ヒ生存證書ヲ其渡期日毎檢閲シ異動ノ有無當廳ヘ報告スヘシ

●縣令第六十三號 明治二十五年十二月廿日

小學校教員恩給基金收納規則左ノ通相定ム

小學校教員恩給基金收納規則

第一條 市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條第二項ニ依リ市町村ヨリ納ムヘキ金員ハ(國庫ヨリ年功加俸ヲ受クルモノアル)第三項ノ納期毎ニ監督官廳ヘ納付スヘシ(二十九年縣令第三十一號ヲ以テ改正)

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條第三項ニ依リ市町村立小學校正教員ヨリ納ムヘキ金員ハ(國庫ヨリ年功加俸ヲ受クルモノアル)俸給支給ノトキ市町村長ニ於テ之ヲ差引第三項ノ納期毎ニ第二號書式ノ仕譯書ヲ添付シ市長ハ縣廳ヘ町村長ハ郡役所ヘ納付スヘシ(同前)

市町村又ハ市町村長ヨリ縣廳又ハ郡役所ヘ納付スヘキ第一項第二項ノ金員ハ左ノ四期ニ區分シ每期三ヶ月分ヲ取纏メ其期ノ翌月十日迄ニ納付スヘキモノトス(全前)

第一期	四月	五月	六月
第二期	七月	八月	九月
第三期	十月	十一月	十二月
第四期	一月	二月	三月

第二條 市町村長ハ納金領收證書ヲ市町村立小學校正教員ニ交付スヘシ

縣廳又ハ郡役所ハ納金ヲ受クルトハ出納吏領收證書ヲ市町村又ハ市町村長ニ交付スヘシ(全前)

第三條 郡長ハ恩給基金納額彙帳ヲ備ヘ置キ納入金ヲ調査スヘシ

第四條 (二十九年縣令第三十一號ヲ以テ削除)

第五條 全前

第六條 過誤納金ノ下戻ヲ要スルトキハ市町村長ハ縣廳ニ請求スヘシ但シ町村長ハ郡役所ヲ經由スヘシ

第七條 市町村長ハ市町村立小學校正教員疾病又ハ國濟旅行若クハ私事ノ故障等ニ依リ其俸給額ノ支給額ニ異動ヲ生シタルトキハ其異動ヲ生シタル月ノ翌月三日迄ニ市長ハ縣廳町村長ハ郡役所ヘ其事由ヲ通知スヘシ

第八條 此規則ハ明治廿六年一月一日ヨリ施行ス

第一號書式 (明治二十九年縣令第三十一號ヲ以テ削除)

第二號書式

明治何年第何期分小學校教員恩給基金納付仕譯書

一金何程

何市何村立小學校正教員納金

内譯

一期納金額	每納月金額	月	俸	額	學校名及職名	正教員氏名
〇五四〇	〇二八〇		一八〇	〇〇〇	某校訓導兼校長	何
〇三六〇	〇二二〇		一〇〇	〇〇〇	某校訓導	何
〇三〇〇	〇一六〇		〇〇〇	〇〇〇	某校訓導	何
〇二六七	〇一〇七	四月分	〇六〇	〇〇六	某校訓導	何
		五月分	〇〇〇	〇〇六		某

但何某何年四月十日月俸何回何々拜命ニ付四月十一日ヨリ同三十日迄二十日分四月分俸給金六圓六拾六錢六厘五六兩月分全額

備考 一期中教員新任轉任退職休職又ハ疾病旅行若クハ私事ノ故障等ニヨリ月俸ヲ支給セサル月若クハ月俸ヲ支給セサル月ニアリテ納金額ニ差異ヲ生シタルトキハ一名毎但書ニ其旨記載スヘシ

右之通り有之候也

市町村長氏名印

第三號書式 (二十九縣令第卅一號ヲ以テ削除)

●郡第一號 明治三十一年三月九日

郡役所

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料ノ受領者ハ當廳ヨリ直ニ送金スヘキニ付テハ其郡下居住ニ係ル該受領者ノ退職料證書又ハ扶助料證書ヲ其渡期月毎ニ檢閲シ異動ノ有無當廳ヘ報告ス

ヘシ

第六 給與及諸費

●郡第四號 明治廿六年一月十二日

郡役所、縣立學校

郡書記及學校職員ノ俸給支給方ハ明治廿五年^{十二}大藏省令第十一號文官俸給支給細則ヲ適用シ其支給定日ハ毎月廿一日ト心得ヘシ(明治三十年郡第三號ヲ以テ修正)

●四第二三四八號

明治三十一年四月

郡役所、警察署、監獄支署、縣立學校、測候所

驛傳院、知事官房、内務部、警察署、監獄署

静岡縣備員俸給支給規則左之通り改正シ明治三十一年四月ヨリ施行ス

但備員俸給支給ニ關スル從前ノ違等ハ總テ廢止ス

静岡縣備員俸給支給規則

第一條 備員ノ俸給ハ月俸ト日給トニ拘ハラス毎月末日

休日ニ當ルハ^{休日ニ當ルハ}ニ於テ支給スルモノトス但^{ハ概上ケ}

解備及ヒ死亡等ノ場合ニ在テハ其際支給ス

第二條 月俸ノ備員解備ノ^ルハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ支給スルモノトス

第三條 日給ノ僱員出勤セサルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外當日ノ俸給ヲ支給セサルトノトス

- 一 賜暇日(出願許可ニ係ルモノハ包含セズ)
 - 二 忌引及父母ノ祭日
 - 三 傳染病豫防法ノ爲メ出勤スル能ハサルハ
 - 四 公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ肄養スルトキ
- 前項一乃至三ニ當ルモ其前後トモ出勤セサルトハ俸給支給ノ限外トス

第四條 豫備後備ノ軍籍ニアル僱員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトハ其翌日ヨリ解隊出勤スル前日迄俸給ヲ停止スルモノトス

第五條 前各條及特ニ規定アルモノノ外文官俸給支給ニ關スル規則ヲ準用スルモノトス

●四第二五四六號 明治三十一年四月廿五日 内務部

土木工事出張員旅費月額支給規則左ノ通り改正シ明治三十一年四月ヨリ施行ス

土木工事出張員旅費月額支給規則

第一條 測量又ハ土木工事施行監督ノ爲メ擔任區域ヲ定メ出張ヲ命シタルモノハ通常旅費ヲ支給セズ本規則ノ定ムル所ニ依リ月額旅費ヲ支給ス

第二條 月額旅費ヲ分ツテ四級トス即チ左表ノ如シ

月額旅費等級表

官等	一級	二級	三級	四級
判任官 十二圓以上	二十二圓五十錢	二十一圓	十八圓	十五圓
同 十二圓未満	十九圓五十錢	十八圓	十五圓	十二圓
雇	十六圓五十錢	十五圓	十二圓	九圓

第三條 左ノ場合ニ於テハ一級月額ヲ支給ス

- 一 測量主任トシテ出張ヲ命シタルトキ
- 二 三郡以上ノ受持區ヲ定メ主幹トシテ常時出張ヲ命シタルトキ

第四條 左ノ場合ニ於テハ二級月額ヲ支給ス

- 一 三郡未満ノ受持區ヲ定メ主幹トシテ常時出張ヲ命シタルトキ
- 二 土木工事施行監督ノ爲メ二區域以上ノ擔任ヲ定メ出張ヲ命シタルトキ

第五條 左ノ場合ニ依テハ三級月額ヲ支給ス

- 一 測量副主於トシテ出張ヲ命シタルトキ
- 二 一郡以上ノ受持區ヲ定メ常時出張ヲ命シタルトキ

三 土木工事施行監督ノ爲メ一區域擔任トシテ出張ヲ命シタルトキ

第六條 左ノ場合ニ於テハ四級月額ヲ支給ス

一 繼續ニ係ル道路河川改修工事施行監督ノ爲メ出張ヲ命シタルトキ

二 一道一川又ハ其一部分若クハ一郡未滿ノ受持區ヲ定メ常時出張ヲ命シタルトキ

第七條 擔任區域ノ一端靜岡市ヲ距ル一里未滿ナルトキ又ハ靜岡市ノ受持區域内ニ在ルトキハ第六條ノ場合ヲ除クノ外各相當級ノ次級月額ヲ支給ス

第八條 第三條乃至第六條ニ係ル擔任區域内又ハ受持區域内ニ在テハ假令他ノ用務ニ從事スルモ第十二條ノ場合ヲ除クノ外ハ總テ月額日當ノ外支給セス

第九條 第四條第五條第二項第三項第六條ノ場合ニ於テ其擔任ノ用務ノ爲メ擔任區域内ニ於テ測量ニ從事スルモ各其條ニ定ムル月額ノ外支給セス

第十條 擔任區域宿泊地ヨリ擔任區域外ヘ出張ヲ命シタル場合ニ於テ陸路六里以上瀛車十哩以上ナルトキハ通常旅費ヲ支給ス

但本文路程未滿ト雖モ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス前項ノ場合ニ於テハ擔任區域ヲ出發シ擔任區域ヘ歸着スル迄ヲ一旅行トシテ打切計算スルモノトス

第十一條 縣廳ヨリ擔任區域ヘノ往復及甲擔任區域ノ用務ヲ了リテ擔任區域ヘ移ルノ日ハ通常

旅費ヲ支給ス

同時ニ二區域以上ヲ擔任スル場合ニ於テ各擔任區域ヲ往復スルモノハ其最近大字ノ距離陸路三里以上瀛車五哩以上ヨリ車馬賃瀛車賃ヲ支給ス

第十二條 擔任區域内ト雖モ上官ノ隨行又ハ縣參事會員若クハ他廳吏員ノ同行ヲ命シタルトキハ通常旅費ヲ支給ス

第十三條 出張日數一ヶ月ニ滿タサルトキハ月額ヲ三十分シ之レヲ日數ニ乘シ支給スルモノトス

財第四〇號 明治廿四年三月三十一日

明治十七年本縣乙第二十六號達及明治廿二年三月訓令乙第十號ハ本年三月三十一日限り廢止ス但宿直又ハ徹夜勤務使役ノ者ニハ左ノ賄料ヲ給與シ又特別用ノ文具ハ備置キ使用セシムルコトヲ得

宿直 郡書記以下備ニ至ルマテ一夜金五錢小使ハ金參錢五厘ヲ給ス

徹夜勤務賄料 郡書記以下備ニ至ル迄一夜金七錢五厘小使ハ金六錢ヲ給ス

但宿直ノモノハ別ニ賄料ヲ給セス

●乙第九拾五號 明治十七年十二月二十六日 各 郡

揭示場諸費其他費途請求方左ノ通可相心得此旨相達候事

- 一 揭示場諸費ハ仕拂ノ前任譯書相添伺出許可ヲ得テ請求スヘシ
- 一 郡役所修繕費ハ仕拂ノ都度仕譯書相添請求スヘシ
但金五圓以上ハ從前ノ通伺出ツヘシ
- 一 浦役場及難破船諸費ハ從前ノ通り

第七 貨幣

●告第三十三號

明治十七年二月十二日

損傷紙幣交換ノ義本年三月一日ヨリ各地國庫金取扱所及大藏省爲換方ニ於テ取扱候條同所へ持
參引換候儀ト可相心得此旨告示候事

第七編 農商工

第一 農事

●縣令第四十八號

明治廿八年八月二十二日

農會規則左ノ通相定ム

農會規則

- 第一條 農會ハ町村農會郡農會縣農會ノ三種トス
- 第二條 農會ノ組織ハ左ノ各項ニ依ル
 - 一 町村農會ハ其區域内田畑所有者及農業者ヲ以テ組織ス
但土地ノ狀況ニ依リ數町村組合一農會ヲ設ケ又ハ大字限リ若クハ町村内便宜ノ區劃ニ
依リ農會ヲ設クルコトヲ得
 - 二 町村農會ヲ設ケタルトキハ其區域内田畑所有者及農業者ハ總テ之ニ加入スヘシ
但田畑反別ニ反歩以下ノ所有者及農業者ハ此限ニアラス
 - 三 郡農會ハ郡行政區域ニ依リ郡内町村農會(本條第一項但書ノ農會ヲ指シテ包含ス以下全レ)ヲ以テ組織シ縣農會ハ縣内
郡農會ヲ以テ組織ス
 - 四 前各項ノ外各農會ハ創立委員會又ハ評議員會ノ評決ヲ以テ農業上學識經驗又ハ功勞名望
アル者ヲ推選シテ特ニ會員トナスコトヲ得
 - 五 郡農會ハ郡内總町村ノ三分二以上ニ於テ町村農會成立シタルトキ、縣農會ハ縣内三分二
以上ノ郡ニ於テ郡農會成立シタルトキハ之ヲ設クルコトヲ得
 - 六 郡農會ヲ設ケタルトキハ郡内町村農會縣農會ヲ設ケタルトキハ縣内郡農會ハ總テ之ニ加
入スヘシ
- 第三條 農會ハ會則ヲ作り町村農會ニアリテハ郡長ノ認可ヲ受ケ郡農會及縣農會ニアリテハ知
事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ改正追加スルトキ亦同シ

第四條 農會々則ニ掲クヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 農會ノ區域名稱及事務所位置
- 一 農會ノ目的
- 一 役員ノ任期及其權限
- 一 會議ニ關スル規程
- 一 費用ノ賦課徵收及支出方法
- 右ノ外必要ト認ムル事項

第五條 農會ハ左ノ役員ヲ設ケ其人員ハ會則ニ掲クヘシ

會長 副會長 幹事 評議員 書記

第六條 農會々長、副會長、幹事ハ各農會評議員會ニ於テ會員中ヨリ選舉ス（廿九年縣令第六十號ヲ以テ改正）

第七條 農會評議員ハ町村會員ニアリテハ其會員郡農會ニアリテハ町村農會評議員縣農會ニアリテハ郡農會評議員ニ於テ各其會員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第八條 會長ハ農會ヲ代表シ會務ヲ統理シ外部ニ對シ通信往復ヲ爲シ評議員會ヲ招集シ議案ヲ發付シ其議決ヲ執行スルモノトス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ第九條又ハ第十條ニ掲ケタル事項ノ調査施行及評議員會ニ發付スヘキ議案ヲ調製其他諸般ノ事務ヲ分掌スルモノトス

第九條 町村農會及郡農會ニ於テ調査講究シ又ハ施行スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 農事摸範場又ハ試驗場等ヲ設クルコト
- 二 種苗交換會農談會品評會等ヲ開設スルコト
- 三 肥料ノ改良ヲ圖ルコト
- 四 勤儉貯蓄ノ實行ヲ圖ルコト
- 五 信用組合等ヲ設ケ各農家經濟上共濟ノ方法ヲ立ツルコト
- 六 力農者獎勵方法ヲ設クルコト
- 七 農具肥料等共同購入ノ方法ヲ設クルコト
- 八 農牛馬賣買上ノ弊害ヲ調査シ之カ矯正方法ヲ立ツルコト
- 九 共有林場ヲ改良シ區劃ヲ立テ植樹開墾等之カ利用ヲ圖ルコト
- 十 重要農產物改良ノ爲メ便宜傳習所ヲ設置スルコト
- 十一 改良ノ農具若クハ耕耘施肥方法等ヲ調査試驗シテ其利害得失ヲ研究シ之ヲ會員ニ報告シ其他調査講究又ハ通信ニ依リテ得タル事項ニシテ農業上有益ト認ムルモノハ之ヲ編纂シテ會員ニ頒ツコト
- 十二 農事ニ關スル統計表ヲ調製スルコト
- 十三 農事ニ關シ官廳等ノ諮問ニ答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルコト

第十條 縣農會ニ於テ調査講究シ又ハ施行スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 縣内農業上百般ノ利害得失ヲ調査講究シ農事ノ改良進歩ヲ圖ルコト
- 二 學識經驗アル者ニ囑托シ諸般ノ調査又ハ巡回講話等ヲ爲サシムルコト
- 三 種苗交換會農談會品評會等ヲ開設スルコト
- 四 縣下各農會ノ統計表其他調査講究又ハ施行セシ重要ノ事項ハ勿論廣ク農業上有益ノ通信報告等ヲ蒐集編纂シ之ヲ其會員ニ頒ツコト
- 五 農事ニ關シ官廳ノ諮問ニ答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルコト

第十一條 農會ハ其事務ニ屬スル事項ノ調査又ハ施行上必要ナルトキハ評議員會ノ決議ヲ以テ臨時若クハ常設ノ委員ヲ設クルコトヲ得其組織及執務規程等ハ評議員會ニ於テ議決シ本規則

第三條ニ準據シ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 農會ハ毎年一回其評議員會ヲ開キ經費ノ決算及事務成績ノ報告ヲ受ケ及翌年度經費ノ豫算及課出方法ヲ議決シ役員及委員ヲ選舉シ其他必要ノ事項ヲ議決スヘシ

前項ノ議決ハ町村農會ニアリテハ郡長ニ報告シ郡農會及縣農會ニアリテハ知事ニ報告スヘシ

第十三條 農會ニ關スル費用ハ總テ會員(本規則第二條第四ニ依リ推選セラレタル會員ヲ除ク)ノ負擔トス

但縣農會ノ費用ハ郡農會ノ負擔トシ郡農會ノ費用ハ町村農會ノ負擔トス

附則

第十四條 既設ノ町村農會勸業會又ハ郡農會勸業會ニシテ其會則本規則ニ牴觸スルモノハ其會議ニ於テ之ヲ改正シ會長ヨリ本規則第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 町村農會ヲ組織スルニハ所轄郡長ニ於テ其町村内田畑所有者及農業者ヲシテ十名以内ノ創立委員ヲ選定シ創立委員會ヲ開キ會則ヲ作ラシメ其會長ヨリ本規則第三條ノ手續ヲ爲サシムヘシ

但本文創立委員ハ數町村組合一農會ヲ組織スルトキハ每町村ヨリ各五名以内トシ大字限リ若クハ町村内便宜ノ區劃ニ依リ農會ヲ組織スルトキハ七名以内トス

第十六條 郡農會ヲ組織スルニハ郡内既設町村農會評議員會縣農會ヲ組織スルニハ縣内既設郡農會評議員會ニ於テ各一名ノ創立委員ヲ互選シ創立委員會ヲ開キ會則ヲ作り其會長ヨリ本規則第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

◎縣令第十九號 明治廿八年三月八日

畦畔改良費貸與規則左ノ通相定ム

畦畔改良費貸與規則

第一條 畦畔改良獎勵ノ爲メ勸業資金ノ利子ヲ以テ其工事費ニ對シ豫算十分ノ七以内ヲ貸與ス但里道河川及ヒ敷巾六尺以上ノ用悪水路并土地買上費設計費等ハ包含セス

第二條 貸與ハ一區畫全縣ノ共同工事ニシテ摸範トナル可キモノニ限ル

第三條 貸與金ハ各郡ニ豫算ヲ置ク

但期限内出願ナキキ又ハ豫算ニ殘餘アルトハ他郡ニ流用スルコトアル可シ

第四條 貸與金ハ貸與ノ翌年度ヨリ起算シ無利子五ク年賦トス其年賦金ハ左ノ割合ニヨリ返納

スヘシ

貸與金百圓ニ對スル返納ノ金額率

初 年	返納金拾圓	二 年	返納金拾五圓
三 年	返納金貳拾五圓	四 年	返納金貳拾五圓
五 年	返納金貳拾五圓		

第五條 貸與金ヲ出願スルモノハ關係者ノ協議ヲ以テ三名以上ノ委員ヲ設ケ別紙甲號願書雛形

ノ事項ヲ具シ郡役所ヲ經由シ毎年一月三十一日マテニ當廳へ出願許可ヲ受クヘシ

第六條 貸與金ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ豫定ノ期限内ニ工事ニ着手セサルトキハ許可ノ効

ヲ失フモノトス

但其年度内ニ着手スヘキ確實ノ目的アルモノハ其理由及着手期日ヲ定メ本條有効期限内ニ

更ニ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 貸與金ハ工事成功ニ至リ下附ス

但設計ヲ變更シ工費ヲ減シタルトハ貸與金額ヲ減スルコトアル可シ

第八條 工事成功ノ上ハ圖面ヲ製シ新舊筆數并反別比較表ヲ添へ町村役場及郡役所ヲ經由シ當廳

ニ届出ヘシ

第九條 貸與金ヲ請求スルトキハ關係者ノ委任狀ヲ添へ別紙乙號書式ノ證書ヲ當廳へ差出スヘ

シ

第十條 返納金ハ毎年三月二十日限所轄郡役所へ納付シ其旨直ニ當廳へ報告スヘシ

第十一條 睦眸改良委員ヲ變更スルトキハ其新舊委員連署シ關係者ノ委任狀ヲ添へ町村役場及

所轄郡役所ヲ經由シ當廳へ届出ツヘシ

第十二條 貸與願書ハ當廳受理月日ノ順序ヲ以テ許可スルモノトス

(甲號雛形)

睦眸改良費拜借願

- 一 郡町村字地種地目反別
- 一 筆數
- 一 工事設計書及工費豫算書
- 一 工事着手及成工豫定ノ年月
- 一 經費賦課徵收方法
- 一 貸與金返納方法

右ハ今般私共外何十名協議ノ上聯帶ノ責任ヲ以テ畦畔改良工事實施候ニ付金何圓當明治何年
度ヨリ五ヶ年賦無利子ヲ以テ御貸與奉願候御届ノ上ハ本規則遵守可致候條御許可被成下度
別紙圖面相添此段奉願候也

年月日

郡町村字番地

畦畔改良委員 何 之 謹 印
委員連署

知 事 宛

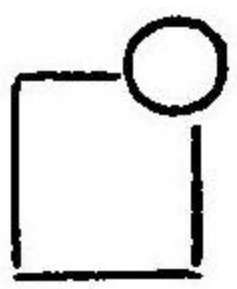
前書之通相違無之候也

年月日

町村長 何 之 謹 印

(乙號雛形)

借入金証



一金何圓 但無利子明治何年度ヨリ全何年度迄五ヶ年賦

此返納金内譯

明治何年度 金 何 圓

明治何年度 金 何 圓

明治何年度 金 何 圓

明治何年度 金 何 圓

明治何年度 金 何 圓

右ハ今般畦畔改良費トシテ拜借之義出願候處御届相成金何圓正ニ落手仕候ニ付テハ關係者
聯帶ノ責任ヲ以テ年賦金前書ノ通り毎年三月二十日限リ無相違上納可仕候後証如件

郡町村字番地

畦畔改良委員 何 之 謹 印
委員連署

年月日

知 事 宛

●達第十九號 明治二十年四月廿五日

郡 役 所

勸業資本金ヲ貸下タル事業ハ總テ其景况實地検査ヲ遂ケ毎年一月ヨリ十二月迄ノ分翌年一月廿
日限リ別紙雛形ニ依ヒ取調書差出スヘシ尤モ主務吏員派出之上臨時検査スルコアルヘシ

但明治十三年十二月本縣乙第六十一號達廢止ス

(雛形容々)

●乙第七號 明治二十七年五月十二日

郡役所、市役所

米麥作柄及收穫本縣へ報告ノ節増減ノ歩合ヲ算出スルニハ最近五箇年ノ平均ヲ以テ平年ノ收穫
ト見做シ計算スヘシ

明治廿三年月十二本縣乙第廿號ハ廢止ス

●甲第四十六號 明治十六年五月二十九日

農具貸與規則別紙ノ通り相定候條此旨布達候事

(別紙)
農具貸與規則

第一條 農具貸與ノ主義ハ本邦從來各地ニ施用セル農具若クハ新發明ノ器械并和洋折衷品ノ管下ニ適スヘキモノヲ貸與シ漸次農具ヲ改良シ農業ノ進歩ヲ謀ルモノトス

第二條 貸與ヲ分ツテ二種トス

- 一 試驗ノ爲メ特ニ使用ヲ命スルモノ
- 二 人民ノ願ニ依テ貸與シ試驗セシムルモノ

第三條 拜借ヲ願フモノハ普通ノ手續ヲ以書面ヲ出スヘシ

第四條 拜借許可受クシモノハ左ノ書式ニ準ヒ證書ヲ認メ請取方本縣勸業課へ申出ツヘシ

農具拜借ノ證

- 一 何々 何箇(或ハ何箇)
- 但原價何程 同
- 一 何々 同
- 同 同
- 一 何々 同

同

以下何器アルモ之ニ準ス

右ハ(何々ニ付)本日ヨリ來明治何年何月迄滿ニケ年間無料拜借仕候ニ就テハ農具貸與規則ヲ遵奉シ大切ニ使用試驗可任依テ拜借證書如件

年月日

何國何郡何村	何	之	誰印
拜借人	何	之	誰印
何國何郡何村	何	之	誰印
保證人	何	之	誰印

縣令宛

第五條 貸與ノ年限ハ拜借證書面ノ年月日ヨリ滿ニケ年間トス尤モ其事業ノ大ナルモノハ繼續貸與スルヲアルヘシ

但從前貸與ノ分明治十五年六月三十日以前ニ係ルモノハ本年七月一日ヨリ更ニ滿一ケ年明

治十五年七月一日以後ニ係ルモノハ此際本文ニ準シ所分ヲナスヘシ

第六條 運搬ニ係ル諸費ハ都テ拜借人ノ負擔タルヘシ

但甲拜借人定期ノ年限ヲ經テ乙拜借人へ直ニ貸與スルトハ其運搬ニ係ル諸費ハ乙拜借人ノ負擔タルヘシ

第七條 使用上不了解ノ事アラハ本縣勸業課へ質問シ充分ノ試驗ヲ爲スヘシ

第八條 試驗ノ得失ハ少クモ年二回無遺漏本縣勸業課ヘ報告スヘシ

第九條 鐵鑄又ハ腐蝕等ノ生セサル様常ニ取扱上注意スヘシ

第十條 許可ナクシテ他人ヘ貸與スルヲ許サス

第十一條 毀損品アルルハ速ニ修繕ヲ爲スヘシ尤モ時宜ニヨリ毀損ノ儘返納セシムルヲアルヘシ

但修繕ニ係ル諸費ハ拜借人負擔タルヘシ

第十二條 災害又ハ盜難等ニ罹ルルハ拜借人ヨリ相當ノ代價ヲ辨償セシム此場合ニ於テハ其旨速ニ届出ツヘシ

第十三條 貸與中時々主務官吏ヲ派遣シ其實況ヲ觀察セシムヘシ

第十四條 試驗ヲ怠リ或ハ本則ニ違背スルモノハ直ニ返納セシムヘシ

●縣令第五十號 明治廿九年五月二十六日

明治廿九年三月法律第十七號ニ依リ害蟲驅除豫防規則左之通相定ム

但明治廿七年八月縣令第四十七號田圃害蟲豫防規則廢止ス

害蟲驅除豫防規則

第一條 明治二十九年法律第十七號害蟲驅除豫防法ニ依リ害蟲ノ種類ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 螟蟲 メイノコ 一名ヨコバエ
- 一 浮塵子 ウツトムシ 一名ツトムシ
- 一 葉捲蟲 アザノコ 一名ツトムシ
- 一 貼蠶 アザノコ 一名ツトムシ
- 一 地蠶 アザノコ 一名ツトムシ

第二條 第一條ノ害蟲驅除豫防方法ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

螟蟲 (稻田ヲ害ス)

- 一 燈火若クハ篝火ヲ點シ母蛾ヲ誘殺スルコト
- 一 捕蟲網(網布製ノ摺)ヲ以テ母蛾ヲ捕獲スルコト
- 一 枯穂ヲ拔取ルコト
- 一刈株ヲ截斷スルコト
- 一 螟卵ヲ除去スルコト
- 一 浮塵子 一名ヨコバエ(全上)
- 一 油類ヲ水面ニ滴下シ溺殺スルコト
- 一 燈火若クハ篝火ヲ點シ誘殺スルコト
- 一 葉捲蟲 一名ツトムシ(全上)
- 一 捕殺スルコト
- 一 捕蟲網ヲ以テ蛾蝶ヲ捕獲スルコト

貼 蜥 (茶桑ヲ害ス)

- 一 燒殺若クハ捕殺スルコト
- 地 蠶 (雜穀蔬菜種等ヲ害ス)
- 一 田畑ノ周圍ニ溝ヲ穿テ驅除スルコト
- 一 蛹ヲ拾ヒ取ルコト
- 一 蟲ノ潜伏セル株ヲ 取り燒棄スルコト
- 一 根際ニ潜伏スル原蟲ヲ拾ヒ取ルコト

第三條 害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ該田畑作人ハ之ヲ市町村長ニ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ其狀況ヲ急報スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ害蟲ノ種類郡市町村名被害農作物ノ種類被害見積反別被害ノ狀況等ヲ急報スヘシ

害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ害蟲田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキ

本規則第一條ニ掲クル種類以外ノ害蟲發生シタルトキ 蟲類以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキ

第五條 害蟲發生シタルトキハ其市町村長ヨリ直ニ隣接市町村ニ急報スヘシ

第六條 害蟲ハ其卵蛹等ノ時ニ於テ之カ採集捕獲等ヲ爲シ平常周密ナル驅除豫防ヲ要スルヲ以テ各町村(土地ノ情況ニヨリ便宜)町村内(大字又ハ數大字)ノ耕作人ハ害蟲豫防組合ヲ設ケ規約ヲ作り施行スヘシ

但町村農會成立セル土地ニ在テハ該農會ニ於テ委員ヲ設ケ組合規約ニ代ルヘキ規定ヲ設ケ本條害蟲豫防組合ノ事務ヲ施行スルコトヲ得

前項組合ノ規約及町村農會ニ於テ定メタル規定ハ町村ニアリテハ郡長ヲ經市ハ直チニ知事ニ届出ツヘシ其規約又ハ規定ヲ變更セシトキ亦同シ

第七條 郡市長ハ毎年市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ヲ別記表式ニ依リ翌年三月末日マテニ知事ニ報告スヘシ

第八條 明治二十七年八月縣令第四十七號ニ依リ設立シタル田圃害蟲豫防組合ハ改メテ組織ノ手續ヲナスヲ要セスシテ本規則第六條ノ組合トシテ存続スルコトヲ得其規約ハ當廳へ届出後變更ナキモノハ此際改メテ届出ツルニ及ハス

(別記)

害蟲驅除豫防報告様式

害 蟲 名 何 郡 市

被害市町村ノ數	同上農作物ノ種類	同上見積反別	此平年收穫高	被害ニ付見積減收高	驅除豫防ニ係ル市町村費	同上夫役ノ數	同上郡費補助額	同上地方稅補助額
---------	----------	--------	--------	-----------	-------------	--------	---------	----------

●乙第八號 明治廿九年五月廿六日 郡役所、市役所

明治廿九年五月縣令第五十號害蟲驅除豫防規則發布候ニ付テハ左ノ通心得ヘシ

一本規則第三條ノ急報ヲ受ケタルトキハ害蟲ノ狀況及驅除期限ノ見込ヲ具シ知事ニ報告スヘシ

一本規則第四條ノ場合ニ於テハ驅除期限並人夫賦課方法等ニ就キ意見具申スヘシ
一害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ鄰接市町村ニ於テ同時ニ驅除ヲ行フテ必要トスルトキハ其驅除期限並各市町村ニ付人夫賦課方法等併テ意見ヲ具申スヘシ

●丙第二號 明治二十九年五月廿六日 郡役所、町村役場

本年法律第十七號ヲ以テ害蟲驅除豫防法公布ニ據リ本年五月縣令第五十號ヲ以テ害蟲驅除豫防規則發布候ニ付其未タ設ケナキ町村ニシテ町村農會ノ成立セサル土地ニ於テハ速ニ組合ヲ設ケ規約ヲ作り施行セシムヘシ

●縣令第十一號 明治二十八年二月廿日 米穀改良組合規則

第一條 米作地所有者米作人米穀商及精米營業者ハ郡ハ其區域ニ依リ市ハ隣接郡ニ合併シ組合

明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號
明治二十九年五月縣令第五十號

ヲ設ケ之ニ加入スヘシ

但創立委員會又ハ組合ハ當廳ノ認可ヲ經テ米作地ニ反歩以下ノ所有者及米作人ヲ組合員外トナスコトヲ得

第二條 山林原野畑宅地ヲ以テ土地ノ大部分ヲ占メ米作地僅少ナル市町村ニ在リテハ市町村長ヨリ其事由ヲ具シ當廳ノ認可ヲ受ケ前條組合員タルヘキ者ト雖モ組合ニ加入セサルコトヲ得但町村長ヨリノ具申ノ場合ニハ左ノ書類ヲ添フヘシ

- 一 山林畑宅地ノ各反別地價調
- 一 米作人住所氏名各箇ノ米作地反別調
- 一 町村畧圖

第三條 米作地所有者及米作人ニシテ他ノ組合區域内ニ住居スル者ハ其所有地又ハ米作地所在ノ組合ニ加入スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其地所遠隔不便ニシテ自カラ組合ニ關スル權利義務ヲ行フコトヲ得サルトキハ其加入セル組合區域内ニ代理人ヲ置キ其人名ヲ組合事務所ヘ届置ヘシ其代理人ヲ變更スルトキ亦全シ

二 組合區域以上ニ米作所有地又ハ自作地ヲ有シ若クハ之ヲ借受米作スル者ハ其所在各組合ニ加入スルモノトス

第四條 組合ノ組織ニ付テハ米作地所有者米作人米穀商及精米營業者中ヨリ創立委員ヲ設ケ委

員會ヲ開キ規約ヲ議定シ該會長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ常廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 組合ニ於テ施行スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 稻種ヲ撰擇スルコト
- 一 米穀乾燥及精製方ヲ完全ナラシムルコト
- 一 米穀貯藏法ヲ完全ナラシムルコト
- 一 俵裝樹量ヲ一定スルコト
- 一 米穀精製上ノ弊害ヲ矯正シ米俵ノ調査ヲ完全ナラシムルコト

第六條 前條ノ外尙組合ニ於テ漸次企劃實行ヲ要スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

但町村及農會設置ノ郡ニ於テハ本條ノ事業ヲ農會ニ於テ施行スルモ妨ケナシ

- 一 試驗苗代場及試驗田ヲ設置シ種子播種栽培肥料等試驗ノコト
- 一 蟲害豫防驅除法實行ノコト
- 一 改良農具實驗ノコト
- 一 牛馬耕排水法畦畔改良普及ノコト
- 一 溜池及用水路新設改良ノコト
- 一 此他米作改良進歩上必要ノ事項

第七條 組合員ハ組合規約ニ定ムル方法ニ依リ米穀ノ検査ヲ受クヘシ組合員ニシテ米穀ヲ賣却

スルトキハ毎俵其組合ニ於テ定メタル荷票ヲ貼付スヘシ

第八條 組合ハ縣組合ヲ設ケ其事務所ヲ静岡市ニ置クヘシ其組織權限等ニ付テハ各組合長及組合未設郡市下ノ委員創立委員トナリ委員會ヲ開キ縣組合規約ヲ議定シ該會長ヨリ常廳ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 縣組合ハ縣内四分ノ三以上ノ郡市ニ於テ組合成立シタルトキハ之ヲ設クルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ組合未設郡下米作地所有者米作人米穀商及精米營業者ハ縣組合ヘ加入スヘシ

第十條 縣組合ハ組合未設郡市下ノ組合員ニ對シ本規則第七條組合規約ニ代ルヘキ検査ノ方法其施行ノ手續同條第二項ニ依リ毎俵貼付スヘキ荷票及其貼付ノ方法ヲ定メ常廳ノ認可ヲ受ケ施行スヘシ

第十一條 組合ノ機關一時成立ヲ欠ク等ノ場合ニ於テ組合規約ヲ實行スルヲ得サルトキハ縣組合ニ於テ其實行方法ヲ規定シ常廳ノ認可ヲ受ケ施行スヘシ

第十二條 組合員ハ組合及縣組合ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スヘシ
但小作米ノ検査ニ係ル費用ハ地主ノ負擔トス尙此他規約ヲ以テ米穀商及精米營業者ノ負擔ニ制限ヲ設ケ且小作人ヲシテ一切ノ負擔ヲ免レンシムルコトヲ得

第十三條 組合及縣組合同規約ニ掲クヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所位置
- 一 組合ノ目的(本規則第五條第六條並其施行方法及本規則第七條ノ檢査方法)
- 一 役員ノ選舉法及其權限
- 一 會議ニ關スル規程
- 一 組合員出入ニ關スル手續
- 一 費用ノ賦課徵收及支出方法
- 一 違約者ノ處分ノ方法

右之外必要ト認ムル事項

第十四條 組長及縣組長ハ各其會議ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ公選シ該會長ハ組合ニアリテハ所轄郡市役所及縣組合ヲ經縣組合ニアリテハ直接當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十五條 組合會議ノ開閉期日及其場所ハ前以テ所轄郡市役所へ届出縣組合會議ノ開閉期日及場所ハ同様當廳へ届出ツヘシ

第十六條 組合及縣組合ハ前々年度ノ事蹟(米穀販賣組合人員及賦課ノ状況等)及費用決算表ヲ毎年四月組合ハ所轄郡市役所へ縣組合ハ當廳へ報告スヘシ

第十七條 本規則第一條第三條第一項第三項第七條第九條第二項ニ違背シタルモノハ貳圓以上

五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 組合規約及縣組合同規約ヲ更正加除セントスルトキハ各其會議ニ於テ議員全數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ議決シ該會長ハ組合ニアリテハ所轄郡市役所及縣組合ヲ該縣組合ニアリテハ直接當廳ノ許可ヲ受クヘシ

附則

第十九條 本規則第四條ノ創立委員ハ戶數ノ多寡ニ應シ各市町村(組合町村ハ組合ヲ以テ一町村ト見做スヘシ)ロリ一名乃至三名所轄郡市長之ヲ定メ各町村長ハ其町村内市長ハ其市内米作地所有者米作人(第一條及第二條)米穀商及精米營業者ヲシテ郡長指定ノ期日迄ニ委員ヲ公撰セシメ郡長へ報告スヘシ其當選ハ投票多數ニ依ル

委員會ハ郡長之ヲ招集シ半數以上ノ委員出席スルトキハ會議ヲ開キ其議決ハ過半數ニ依ル委員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第二十條 本規則第八條縣組合委員會ハ知事之ヲ招集シ其會議ハ前條第二項ノ例ニ依ル組合未設ノ郡ニ係ル縣組合創立委員ハ所轄郡長ニ於テ其郡下ノ米作地所有者米作人米穀商及精米營業者ノ内ヨリ二名ヲ公選セシメ縣廳ニ報告スヘシ其當選ハ投票多數ニ依ル

第二十一條 本規則ニ該當スル既設ノ組合ハ此規則第四條創立委員公選ノ手續ヲ爲ヌヲ要セス

組合會議ニ於テ直ニ規約ヲ議定シ會長ヨリ所轄郡役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
第二十二條 本規則ハ明治廿八年四月一日ヨリ施行ス

但本規則第七條ノ規定ハ明治廿八年ノ新穀ヨリ施行スルモノトス

●農第二〇號 明治二十七年七月二十日

各郡長宛

米麥等種子ヲ精選スルノ必要ナルハ勿論ノ處各自ニ之ヲ行フハ其手數ヲ厭ヒ兎角行ハレ難キ情
況アルニ付自今各町村農會場又ハ社寺學校其他便宜ノ場所ニ於テ日時ヲ定メ各農家ヲシテ播種
用ノ種子ヲ持參セシメ老農ニ依囑シテ適當ノ選種ヲ爲サシメ候様農會勸業會等(該會場之町村ノ選
定町村長及老農等)
ニ訓諭シ之カ實行ヲ計ラルヘシ

●農第五一八號 明治二十七年四月七日

各郡長宛、内務部長通牒

御郡下ニ於テ廿六年米麥作試驗候モノ有之候ハ、參考ニ供度義有之候間別紙ニ準シ御取調來五
月三十日迄ニ御報道相成度命ニ依リ此段及照會候也

追テ右成績表ノ義爾來毎年十二月廿日限り報道相成度此旨申添候也

(別紙零ス)

●諭告 明治三十一年五月廿二日

昨年浮座子ノ稻田ニ發スルヤ縣下各郡到ル處其害ヲ被ラサルナク驅除ノ周到ナラサリシモノハ

殆ント一粒ノ秋收ヲ見ル能ハザルノ慘狀ニ陥ラタルモノナキニ非ス九月九日ノ暴風雨ハ災害
ノ劇甚ナリシカ爲メ多少蟲害ノ跡ヲ窺フニ至リシト雖モ一般ノ狀態ニ依リテ打算スルハ浮
座子ノ蝕害ニ依リテ秋收ヲ減シタルコト實ニ三割ヲ下ラス時價ニ依リ其價額ヲ算スレハ三百萬
圓ノ外ニ出ツ目下米穀缺乏シテ其價格暴騰シ細民ノ將ニ困蔽ニ陥ラントスルモノ亦々之レカ一
因由タラントス豈ニ畏レテ而シテ警メサルヘケンヤ

文化未タ開ケサルニ方リテハ蟲害ヲ以テ一種ノ天災ト誤認シ人力ノ能ク防遏スヘキモノニ非ス
トシテ徒ニ其慘害ヲ逞ウスルニ委テシモノアリシモ今ヤ文運大ニ進ミ豫防驅除ノ道漸ク開發シ
入力ヲ以テ之ヲ防遏スルハ取テ難事ニ非ス况ンヤ法律命令ニ依リ實施セサルヘカラサルモノア
ルニ於テヤ

客年冬期ハ寒弱ク雪少ク浮座子越年ノ便宜多カリシニ依リ本年ハ該蟲ノ繁殖ヲ容易ナラシムヘ
キ傾向アレハ稻田下種ノ初ヨリ常ニ之レカ警戒ニ怠ラス特ニ農會及蟲害豫防組合等ノ團體ニ於
テハ相互ニ誘掖戒飭シテ團體組織ノ目的ヲ貫徹スヘク各農家ニ嚴肅ハ法律命令ヲ遵守シ且本縣
農事巡回教師若クハ其他學術經驗アルモノ、指導ニ從ヒ孜孜トシテ豫防驅除ノ道ヲ盡シ以テ客
年ノ慘害ヲ再ヒセサルコトヲ期スヘシ

第二 牧畜

●乙第四十六號

明治十六年十月四日

各 郡

牧場存廢ノ景況左ノ雜形ニ據リ調製ノ上來ル十一月三十日限リ可差出尤モ牧場無之郡ハ其旨同日迄ニ可申出此旨相違候事(雜形省ク)

但雜形ニ掲ル事項中變換若シクハ増減等有之節ハ本文ノ手續ニ準シ毎年十二月廿五日限リ

届出ヘシ

●乙第四號

明治十五年一月十七日

各 郡

牛馬羊豚改良名稱ノ義是迄一定ノ唱呼無之ヨリ兎角區々ニ涉リ調査上不都合不抄候間爾來別紙ノ通唱呼相定メ候條都テ右ニ準據統計フヘシ此旨相違候事

(別紙)

牛馬羊豚雜種名稱

- 何種 一回雜種
- 全 二回雜種
- 全 三回雜種
- 全 四回雜種
- 全 五回雜種

例言

内國種ノ牝ニ純粹洋種ノ牡ヲ配シテ得タルモノヲ和洋何々一回雜種ト言ヒ一回雜種ノ牝ニ洋種ノ牡ヲ配シテ得タルモノヲ和洋何々二回雜種ト言フ以下三回四回五回ハ之ニ倣ヒ六回ニ至ツテ何々改良種ト稱ス

内國種ノ牝ニ血統ノ正確ナルサル洋種ノ牡ヲ配シテ得タルモノハ單ニ和洋何回雜種ト稱ス(十五年乙第廿四號追加)

牝牡洋種ニシテ假令ハ短角種ノ牝ニ「アボン」種ノ牡ヲ配シテ得タルモノ、如キハ洋種何々何回雜種ト稱ス

種類ノ正確ナルサル洋種ノ牝牡ヨリ得タルモノハ單ニ洋種ト稱ス

假令ハ一回雜種ノ牝ニ内國種ノ牡ヲ配シ又ハ二回雜種ノ牝ニ一回雜種ノ牡ヲ配シテ得タルモノ、如キ退却雜種ト言フ

雜種ハ都テ種牡ノ種類ヲ唱フルモノトス

●縣令第三十一號

明治三十一年四月十日

種牡取締規則左ノ通相定ム

但明治十八年甲第廿二號廢止ス

種牡牛取締規則

第一條 牡牛ヲ種付ニ使用セントスルモノハ本縣ニ願出テ認許書ヲ受クヘシ

第二條 種牡牛ノ資格ヲ定ムルコト左ノ如シ

一年齡滿三歲以上

二躰尺四尺以上

三強壯ニシテ骨格及性質善良ナルモノ

四惡癖又ハ遺傳病ナキモノ

第三條 第一條ノ認許書ヲ受クント欲スルモノハ願書ニ獸醫ノ診斷書ヲ添付シ町村役場又ハ市役所ヲ經テ本縣ニ差出スヘシ

第四條 種牡牛認許書ノ有効期限ハ滿一ケ年トス種牡牛疾病又ハ事故ニ依リ種付ニ使用スルヲ得サルニ至リタルトキハ速ニ認許書ヲ返納スヘシ

第五條 種牡牛所有者ハ帳簿ヲ製シ交尾ノ年月日頭數及牝牛所有者ノ住所氏名ヲ明記スヘシ

第六條 牝牛所有者又ハ管理人ニ於テ種牛ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡牛所有者ハ之レカ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 認許書ヲ毀損亡失シ若クハ轉居改氏名ヲナシタルトキハ其書換又ハ再渡ヲ願出ヘシ

第八條 種牡牛ヲ賣買讓與シタルトキハ其旨ヲ記シ双方連署ヲ以テ認許書ノ書換ヲ願出フヘシ

第九條 種牡牛斃死シ若クハ他管下ノ者へ賣渡又ハ讓渡シタルトキハ速ニ認許書ヲ添へ其旨届

出ヘシ

第十條 獸醫ハ第三條ニ依リ種牡牛ノ診斷ヲ請フモノアルトキハ第二條ノ資格ニ違フコトナキヤテ診按シテ診斷書ヲ作り交付スヘシ

第十一條 種牡牛ヲ牽出シ種付ヲナストキハ認許證ヲ携帯スヘシ

當該官吏又ハ牝牛所有者ヨリ認許證ノ閱覽ヲ求ムルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 常應ハ毎年一回以上主務官吏ヲシテ種牡牛ノ狀況牝牛ノ成績及第五條ノ帳簿ヲ檢査セシム

前項ノ場合ニ於テ種牡牛所有者又ハ管理人ハ其檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 第一條ニ違背シタルモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

(書式)

種牡牛認許願

郡市町村大字番地族籍職業

所有者 何

某

一牡牛			
種類	和種	洋種	和洋雜種
出生	何年何月		
躰尺	何尺何寸何分		

毛色 何色
產地 何府縣何國何郡市村町又ハ何々
右種牡牛ニ使用致度候間認許書御下付相成度此段相願候也

右

年月日

何

某

印

知事宛

●縣令第廿八號 明治卅一年四月三日

種牡馬檢査施行規則左之通相定ム

種牡馬檢査施行規則

第一條 種牡馬ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ作り町村役場又ハ市役所ヲ經テ願出ツヘシ

第二條 種牡馬ノ檢査ハ毎年一回之ヲ行フ其期日及場所ハ一ヶ月前告示ス

第三條 檢査合格ノ種牡馬ニハ左臀部ニ第二號式ノ烙印ヲ施シ其所有者ニ第三號書式ノ證明書ヲ下付ス

第四條 種牡馬檢査法施行細則第六條ノ場合ニ於テハ町村役場又ハ市役所ヲ經テ其證明書ヲ返納シ第四號式ノ烙印ヲ受クヘシ

種牡馬斃死シ若クハ盜難ニ罹リタルトキハ前項ノ例ニ依リ速ニ證明書ヲ返納スヘシ

第五條 種牡馬所有者又ハ管理人ハ第五號式種付簿及第六號式ノ產駒成績表ヲ調製記載スヘシ

第六條 第二條ノ檢査ニ當リ其種牡馬疾病又ハ止ムヲ得サル事故ニテ檢査場ニ牽出シ難キ時ハ二名以上ノ保證ヲ以テ其旨檢査員ニ申出ツヘシ

第七條 種牡馬ハ傳染病若クハ遺傳病ニ罹リ又ハ惡癩アル牝馬ニ配合セシムヘカラス

附則

第八條 第二條ノ告示期限ハ本年ニ限り一ヶ月以内ニ告示スルコトアルヘシ

第一號書式

種牡馬檢査願

種類

一何毛牝馬

何年何月生

右惡癩遺傳病等無之強壯善良ナルモノニ有之候ニ付種付ニ供度候間御檢査ノ上證明書御下付被下度此段相願候也

年月日

郡市町村番地族籍職業
馬匹所有者 何

某 印

知事宛

第二號式

第三號式

表面

種牡馬證明書

郡市町村番地
所有者 何 某

番號	種類	毛色	名號	躰尺	年齡	產地	特徵	血統

右種牡馬タルコトヲ證明ス

表面

明治年月日検査
 明治年月日検査
 明治年月日検査
 明治年月日検査
 明治年月日検査

知事印

明治年月日検査

注意

種牡馬検査法令施行細則及本規則ヲ摘要ス

第四號式

第五號書式

種牡馬種付簿

種	類	年	毛	躰	特	產	種	付	郡市	所有者姓名

合計 何頭

内譯

内國種 何頭
 洋種 何頭
 何回雜種 何頭

備考

本簿ハ一種牡馬毎ニ作ルヘシ

第六號書式

產駒成績表

種類	牝	牡	毛色	產地	特徵	生年月日	血統	父母毛色	種類	年齢	郡市	町村	所有者姓名	牝馬管理

合計何頭 何頭
 内國種 何頭
 洋種 何頭
 何回雜種 何頭
 備考
 本表ハ一種牡馬毎ニ作ルヘシ

第三 蠶 絲

●縣令第二十二號 明治二十六年三月十七日
 蠶絲業取締規則左ノ通相定ム

蠶絲業取締規則

第一章 總 則

- 第一條 此規則ニ於テ蠶絲業者トアルハ養蠶者蠶種及生絲製造者桑樹栽培者繭蠶種生絲屑物業桑桑苗販賣者ヲ總稱ス
- 第二條 蠶絲業ニ從事スルモノハ組合ヲ設ケ之ニ加入ス可シ
 但養蠶者ノ原種紙二分五厘以下ヲ飼養シ桑培者ノ桑樹二百株未満ヲ栽培シ各自用ニ供スルモノハ組合ニ加入セサルモ妨ナシ(明治三十一年縣令第十三號ヲ以テ本條但書中削除訂正)
- 第三條 組合ノ設置ハ郡市區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡市區内ニ於テ蠶絲業者少數ナルトキハ近隣郡市區内ノ同業ト合併スルコトヲ得
- 第四條 組合ノ名稱ハ静岡縣何郡市蠶絲組合ト稱スヘシ
- 第五條 組合員ハ必ス證據ヲ携帯スヘシ
- 第六條 組合員又ハ組合ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 社名若シハ組名ヲ以テ組合員タルモノハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシム可シ
- 第八條 組合員ハ組合及取締所ノ規約ヲ遵守シ其費用ヲ負擔スヘシ費用負擔ノ割合及ヒ徵收方

法ハ規約ニ於テ定ムヘシ

第九條 組合内便宜ノ地ニ事務所ヲ設ケ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理ス可シ

但土地ノ便宜ニ依リ出張所ヲ設クルコトヲ得

第十條 蠶絲業組合取締所ヲ靜岡ニ設ケ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監督ス可シ

第十一條 組合委員又ハ取締議員ノ數ハ組合員ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ム可シ

第十二條 議員ノ任期ハ二ク年トス補缺議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ル可シ

第十三條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ互選ス可シ

第十四條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名ハ縣廳ヘ届出ツヘシ

第十五條 組合又ハ取締所ノ規約ハ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 組合又ハ取締所ノ役員ヲ撰定シタルトキハ其族籍氏名ヲ縣廳ヘ届出ツ可シ

第十七條 役員中不適任ト認ムルモノアルトキハ縣廳ニ於テ改撰ヲ命スルコトアル可シ

第十八條 削除(明治三十一年縣令第十三號ヲ以テ除ク)

第二章 組合

第十九條 組合ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ組合内各小區ニ在テ區内ノ事務ヲ處辨シ組長ハ事

務所ニ在テ組合一切ノ事務ヲ處辨スヘシ

第二十條 委員ハ各區内ノ組合員之ヲ撰定シ組長ハ委員ノ投票ヲ以テ組合員中ヨリ撰定スヘシ

第二十一條 組長並ニ委員ハ時々組合員ノ事業ヲ巡檢シ専ラ業務ノ改良及其發達ヲ圖ル可シ

第二十二條 組合ノ議員ハ委員ヲ以テ之ニ充テ組合規約ハ會議ニ於テ之ヲ定ム可シ

第二十三條 違約者處分ハ規約ニ依テ組長之ヲ行フ取締所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルト

キハ其旨取締所ニ通知ス可シ

第二十四條 組合ノ規約ハ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ムヘシ

但土地ノ情况ニ依リ加除増減スルコトヲ得

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 一 業務ノ改良發達ヲ圖ル事項
- 一 弊害ヲ矯正スル事項
- 一 蠶桑ノ病毒豫防驅除ニ關スル事項
- 一 繭生絲檢査ニ關スル事項
- 一 荷造并ニ賣買ニ關スル事項
- 一 役員委員撰舉ノ方法及其職務權限
- 一 役員給料及旅費日當ニ關スル事項
- 一 會議ニ關スル事項
- 一 組合員加入退去ノ手續

- 一 經費賦課徵收支出並決算ニ關スル事項
- 一 違約者處分ノ方法
- 一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三章 取締所

第廿五條 取締所ニハ事務員ヲ置キ取締所規約ニ於テ定メタル一切ノ事務ヲ處辨スヘシ

第廿六條 事務員ハ取締所會議員ノ投票ヲ以テ各組合員中ヨリ撰定スヘシ

第廿七條 取締所ノ議員ハ組合委員ノ投票ヲ以テ各組合員中ヨリ選定シ取締所規約ハ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第廿八條 事務員ハ常ニ内外蠶絲業上ノ實況ニ注意シ各組合ノ業務ヲ總理スヘシ

第廿九條 削除(明治卅一年縣令第十三號ヲ以テ削除)

第三十條 取締所ノ規約ハ左ノ事項ニ準シ之ヲ定ム可シ

- 一 取締所位置
- 一 各組合ノ氣脉ヲ聯通スル方法
- 一 内外蠶絲業ノ實況ヲ調査シ及之ヲ報告スル方法
- 一 取締所會議員及役員撰舉ノ方法
- 一 會議ニ關スル事項
- 一 蠶生絲檢査ニ關スル事項(明治卅一年縣令第十三號ヲ以テ削除訂正)

- 一 規則ニ違背シタル蠶生絲處分ノ方法(前同上)
- 一 違約者處分ノ方法
- 一 經費賦課徵收支出及決算ニ關スル事項
- 一 組合員證票蠶生絲標章ニ關スル事項(明治卅一年縣令第十三號ヲ以テ削除訂正)
- 一 組合費用ノ大綱
- 一 其他取締所會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第四章 蠶種製造販賣者及養蠶者削除(明治三十一年縣令第十三號ヲ以テ削除)

- 第卅一條 削除(前同上)
- 第卅二條 削除(前同上)
- 第卅三條 削除(前同上)
- 第卅四條 削除(前同上)
- 第卅五條 削除(前同上)
- 第卅六條 削除(前同上)
- 第卅七條 削除(前同上)
- 第卅八條 削除(前同上)
- 第卅九條 削除(前同上)

第四十條 削除(前同上)

第四十一條 削除(前同上)

第四十二條 削除(前同上)

第五章 製絲營業者并繭生絲商

第四十三條 生絲ニ不正ノ重量ヲ附シ賣買スルヲ得ス

第四十四條 提造島田造折返造等ハ生絲ヲ扱返サスシテ其儘改造賣買スルヲ得ス

第四十五條 一捆ハ勿論一總若クハ一把中其否混淆等ノモノヲ製造賣買スルヲ得ス

但等級ヲ區分シテ一捆トナシタルモノハ此限ニアラス

第四十六條 繭ハ春夏秋冬若クハ黃白ノ種類又ハ太陽殺蒸殺燥殺等混淆シタルモノヲ賣買スルヲ得ス

第四十七條 削除(明治廿九年縣令第三十八號ヲ以テ削除)

第四十八條 本則第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條ニ背キタル繭生絲ハ取締所ニ於

テ規約ニ依リ處分セシム

第六章 罰則

第四十九條 削除(明治三十一年縣令第十三號ヲ以テ削除)

第五十條 本則第二條第四十三條ニ違背シタルモノハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス(明治二十

九年縣令第三十八號及同三十一年縣令第十三號ヲ以テ本條中削除訂正)

(明治三十一年縣令第十三號ヲ以テ第一號以下雜形削除)

◎縣令第二拾九號 明治卅一年四月六日

蠶種検査實施手續左之通相定ム

蠶種検査實施手續

第一條 蠶種検査法施行細則第一條ノ屆書ハ所轄市役所町村役場ヲ經由スヘシ

第二條 蠶種製造者ハ製造場ヲ定メ第一號雛形ノ標札ヲ其門戸ニ掲クヘシ

第三條 蠶種製造者原種ノ掃立ヲ終リタルハ速ニ第二號雛形ニ據リ所轄蠶種検査所ニ届出ヘシ

前項届出後其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ速ニ所轄蠶種検査所ニ届出ヘシ

第四條 蠶種製造者蠶種検査法施行細則第七條ニ依リ繭ノ撰別及量定ヲ終リタルトキハ第三號

雛形ノ表ヲ調製シ検査員臨檢ノ際之ヲ差出スヘシ

蠶種検査法施行細則第十六條ノ場合ニ於テハ検査人種繭證明書ニ前項ノ表ヲ添付スヘシ

第五條 検査員蠶種検査法施行細則第十條及第十二條ノ検査合格證印ヲ押捺スルトキハ全時ニ

自己ノ檢印ヲ添フヘシ

第六條 蠶種製造者蠶種検査法施行細則第十條ノ検査證印ヲ受ケントスルハ第四號雛形ノ検査請求書ト共ニ本手續第十二條ノ検査手数料ヲ郡ニ在テハ郡役所市ニ在テハ縣廳ニ納ムヘシ
 (明治三十一年縣令第四十一號ヲ以テ改正)

第七條 郡役所ハ前條ノ検査手数料ヲ領收シタルトハ検査請求書ニ檢印シ翌日迄ニ之ヲ所轄蠶種検査所ニ送付スヘシ(同上)

第八條 原種蠶紙一枚ノ框數ハ二十八蛾區トシ各框圓環ノ内徑ハ一寸三分以上タルヘシ

第九條 原種用ノ母蛾ハ紙袋ニ入レ之ヲ蠶紙各框ノ番號順ニ綴リ置クヘシ

第十條 原種ハ其製造ニ供用シタル母蛾ヲ添ヘ第五號雛形ノ検査請求書ヲ附シ九月一日ヨリ全月十五日迄ニ所轄蠶種検査所ニ差出スヘシ(明治三十一年縣令第四十一號ヲ以テ改正)

蠶種検査所ハ差出人ヲ立合ハシメ毎蠶種ヲ其製造ニ供用シタル母蛾ト引合ハセ預リ證ヲ交付スヘシ

第十一條 蠶種製造者検査済ノ告知ヲ受ケタルトキハ蠶種検査所ニ出頭シテ蠶種ヲ受取り其預リ證ヲ返納スヘシ

第十二條 蠶種検査ノ手数料ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ徴收ス

- 一 原種 一 蛾區ニ付 金一厘

- 一 製絲用種 一枚ニ付 金一錢五厘

第十三條 既納ノ検査手数料ハ蠶種并ニ蛾躰ノ亡失毀損其他ノ事故ニ依リ検査ヲ受ケサル場合ニ於テモ之ヲ還付セス

第一號 雛形 六寸

蠶種製造人

何郡(市)町(村)大字番地

何之誰

第二號 雛形 蠶兒插立屆

種類	名稱	插立蛾數	插立月日	上取月日	插立月日
春蠶	何々	何蛾	月 日	月 日	月 日
夏(秋)蠶	全	全	全	全	全

右及御届候也

年月日

何郡(市)町(村)大字番地

蠶種製造人

氏名印

蠶種検査所宛

第三號 雛形

收購量及蠶種製造高見込表

何郡(市)町(村)大字番地

蠶種製造人

氏名

種類名	何	何	何	何	何	何	何	何	何
掃立蛾數	何	何	何	何	何	何	何	何	何
種繭樹量	何	何	何	何	何	何	何	何	何
除去繭樹量	全	全	全	全	全	全	全	全	全
原種用種	何	何	何	何	何	何	何	何	何
原種用種	何	何	何	何	何	何	何	何	何
製造糸用種	何	何	何	何	何	何	何	何	何
發蛾見込	何	何	何	何	何	何	何	何	何
月	何	何	何	何	何	何	何	何	何
日	何	何	何	何	何	何	何	何	何
日	何	何	何	何	何	何	何	何	何

第四號 雛形 原種(製糸用種)検査請求書

種類名	何	何	何	何	何	何	何	何	何
原種春(夏秋)蠶	何	何	何	何	何	何	何	何	何
製糸用種春(夏秋)蠶	何	何	何	何	何	何	何	何	何
検査手数料	何	何	何	何	何	何	何	何	何
圓	何	何	何	何	何	何	何	何	何
錢	何	何	何	何	何	何	何	何	何
厘	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右御検査相成度検査手数料納付此段請求候也
年月日

何郡(市)町(村)大字番地

蠶種製造人

氏名印

第五號 雛形 原種母蛾検査請求書

名稱	何	何	何	何	何	何	何	何	何
春蠶	何	何	何	何	何	何	何	何	何
夏(秋)蠶	何	何	何	何	何	何	何	何	何
枚	何	何	何	何	何	何	何	何	何
枚	何	何	何	何	何	何	何	何	何
枚	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右御検査相成度此段請求候也
年月日

何郡(市)町(村)大字番地

蠶種製造人

氏名印

蠶種検査所宛

●告示第四拾九號 明治三十一年四月十二日

蠶種検査所ノ名稱位置及管轄區域左ノ如シ

名稱	位置	管轄區域
静岡縣下田蠶種検査所	賀茂郡下田町	賀茂郡一圓
全 三島蠶種検査所	田方郡三島町	田方郡一圓
全 御殿場蠶種検査所	駿東郡御厨町御殿場	駿東郡一圓
全 大宮蠶種検査所	富士郡大宮町	富士郡一圓
全 江尻蠶種検査所	庵原郡江尻町	庵原郡一圓
全 静岡蠶種検査所	静岡市	安倍志太二郡静岡市一圓
全 掛川蠶種検査所	小笠郡掛川町	榑原小笠周智三郡一圓
全 見付蠶種検査所	磐田郡見付町	磐田郡一圓
全 濱松蠶種検査所	濱名郡濱松町	濱名郡一圓
全 氣賀蠶種検査所	引佐郡氣賀町	引佐郡一圓

●告示第五拾號 明治三十一年四月十二日

蠶種検査所明治三十一年五月一日ヨリ開始ス

●告示第八拾五號 明治三十一年六月十九日

濱名郡立蠶業學校ノ製造蠶種ハ明治三十年法律第十號蠶種検査法第十八條ニ據ルコトヲ承認ス

第四 紙業

●縣令第二十一號 明治二十六年三月十六日

紙業組合規則左ノ通相定ム

紙業組合規則

第一條 此規則中紙業者トアルハ三椏楮園ヲ所有シ三椏皮三椏種苗ヲ賣却スルモノ紙(原料ノ何カ)又ハ製紙原料ヲ製造スル者及之ヲ仲買又ハ販賣スルモノヲ總稱ス

第二條 紙業者ハ品位ヲ精良ニシ製紙ノ種類ニヨリ寸法枚數ヲ一定ニシ量目ノ制限ヲ定メ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ郡市(註郡縣合 坊クナシ)ノ區畫ニ依リ組合ヲ設置シ其組合ニ加盟スヘシ

但其營業ノ種類ニ依リ組合ニ加入スベカラサル理由アルモノハ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 三椏楮及製紙ニ不正ノ重量ヲ付シ販賣スヘカラス
三椏皮三椏種苗楮皮楮苗紙及原料荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及栽培人製造人若クハ取扱人ノ住

所姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ販賣スヘシ

第四條 組合ノ名稱ハ静岡縣下何郡市紙業組合ト稱スヘシ

第五條 組合ハ郡市内便宜ノ地ニ組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ出張所ヲ設クルコトヲ得

第六條 組合委員及取締所議員ハ此規則ノ範圍内ニ於テ規約及豫算ヲ議シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキモ亦全シ

第七條 組合及取締所ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
- 二 製造ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
- 三 製造及販賣上ノ弊害ヲ矯正スル方法
- 四 役員撰擧法及權限
- 五 會議ニ關スル規程
- 六 荷物檢査規程
- 七 職工徒弟ニ關スル規程
- 八 加入者及退去者ニ關スル規程
- 九 違約者處分ノ方法
- 十 經費賦課徵收支出ノ方法

十一 前各項ノ外必要トナス事項

第八條 組合ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第九條 組合ハ其規約ヲ以テ價格賃錢及賣買手数料等ヲ一定シ又ハ取引先ヲ制限スルコトヲ得ス

第十條 組合員ハ組合及取締所ノ規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スヘシ

第十一條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ實ニ任セシムヘシ

第十二條 組合事務ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ撰定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互撰スヘシ

但組長ヲ撰任シ又ハ改撰シタルトキハ縣知事ノ認可ヲ受ク委員ヲ撰任又ハ改撰シタルトキハ其都度届出ツヘシ

第十三條 組長ハ委員ト協議シ部内組合ノ取締ヲ爲シ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十四條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十五條 組合員ハ必ス其組合ノ證ヲ携帯スヘシ

第十六條 紙業組合取締所ハ静岡市ニ設クヘシ

- 第十七條 取締所ニハ事務員若干名ヲ置キ取締所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ
- 第十八條 取締所事務員ハ會議ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選定シ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十九條 取締所會議ノ議員ハ各組合委員ニ於テ組合員中ヨリ選定スヘシ
- 第二十條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ事務員組合委員タルヲ得ス
 - 一 全業ヲ營ミ三ヶ年ヲ經サルモノ
 - 二 丁年未滿ノモノ
 - 三 瘋癲白痴ノモノ
 - 四 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ
 - 五 商業及農工商ヲ妨害スル罪信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ又ハ其他ノ罪ヲ以テ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ滿期後又赦免後三ヶ年ヲ經過セザモノ
 - 六 公權剝奪若クハ公權停止中ノモノ
 - 七 組合規則ニ背キ又ハ違約處分ヲ受ケ一ヶ年ヲ經過セサルモノ
- 第廿一條 取締所會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議ノ開閉期日ハ縣知事ニ届出ツヘシ
- 第廿二條 縣知事ハ取締所會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第廿三條 事蹟(組合員數產額)及經費決算報告ヲ毎年四月縣廳ニ届出ツヘシ
- 第廿四條 第三條第十條第十五條ニ違背シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第廿六條 此規則ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

第五 水 産

●甲第六十一號 明治十九年五月三十一日

漁業組合規則左ノ通り相定ム

漁業組合規則

- 第一條 漁業水産動物植物採捕並ニ從事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ其組合ニ加盟スヘシ(明治廿三年縣令第四十三號及二十六年縣令第五十九號ヲ以テ改正ス)
- 但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ組合ヲ要セサルコトアルヘシ
- 第二條 組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ増進スルヲ目的トスヘシ
- 第三條 組合ハ左ノ二類トス
 - 第一類 捕魚採藻海流藻若クハ地引網、採心太草、海苔採收ノ類各種種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ
 - 第二類 河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ
- 第四條 前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ
- 第五條 組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所ノ位置
 - 二 組合ノ目的
 - 三 役員撰擧法及權限
 - 四 會議ニ關スル規定
 - 五 加入者及退去者ニ關スル規定
 - 六 違約者處分ノ方法
 - 七 費用ノ徵收及賦課法
 - 八 捕魚探藻ノ季節ヲ定ムル事
 - 九 漁具漁法及探藻ノ制限ヲ立ツル事
 - 十 漁場區域ニ關スル事
 - 十一 水産物製造並ニ荷造等改良ニ關スル事(二十六年縣令第五十九號ヲ以テ追加)
 - 十二 前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
- 第六條 漁業組合取締所ヲ靜岡ニ設ク各組合(河沼ノ組合ハ此限リニ非ス)ヲ統轄スヘシ(明治二十三年縣令第四十三號ヲ以テ改正)
- 第七條 組合及取締所ノ規約ハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ(同上)
- 但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ
- 第八條 二府縣以上ニ涉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ
- 但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ

- 第九條 二府縣以上ニ涉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ク其他ハ毎府縣事務所支部ヲ置クヘシ
- 但支部ハ組合ノ事情ニヨリ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得
- 縣令第三十九號 明治二十八年六月廿二日
- 明治廿二年十一月縣令第八十九號漁業取締規則左ノ通改正ス
- 漁業取締規則
- 第一條 漁具ハ總テ漁業組合格約ニ規定シ當廳ノ認可ヲ受ケタルモノニ非サレハ使用スルコトヲ得ス
- 但河川池沼ニ於テ使用スル漁具ハ此限リニアラス
- 第二條 試験ノ爲メ一時使用スル漁具ハ第一條ノ規定ニ依ラス時期ヲ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第三條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ從來ノ慣行ニ依リ組合外ノ者漁業採介、採ヲ營ムトキハ其地組合格約ニ遵フヘシ
- 第四條 漁業組合設置ノ漁場ニテ於遊樂若クハ自用ノ爲メ捕魚採介、採ヲ爲ス者ハ漁業ニ關スル法令ハ勿論尙其他組合格約ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第五條 第一條第三條第四條ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第六條 從來漁業組合規約ニ規定セスシテ使用セル漁具ハ本年九月三十日迄ニ其地漁業組合ニ於テ該規約ニ規定シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

●縣令第五十一號 明治二十六年七月一日

眞珠貝蛤貝及蚶貝漁獲取締規則

眞珠貝蛤貝及蚶貝漁獲取締規則

第一條 蛤貝及蚶貝漁場ニ於テハ其幅一寸五分以下ノモノヲ漁獲スヘキ漁具ヲ使用スルコトヲ禁ス

但蚶貝ヲ主トスル漁場ニ於テハ其地漁業組合ノ議決ニ依リ當廳ノ認可ヲ經テ本條ノ制限ヲ一寸マテ減スルコトヲ得

第二條 眞珠貝漁場ニ於テハ其幅二寸五分以下ノモノヲ漁獲スヘキ漁具ヲ使用スルコトヲ禁ス

第三條 眞珠貝ノ漁場ハ駿河國清水灣トシ蛤貝蚶貝ノ漁場ハ同灣及遠江國濱名湖トス
但各漁場ノ區域ハ其地漁業組合ニ於テ議決シ當廳ノ認可ヲ經テ更ニ之ヲ限定スルコトヲ得

第四條 此規則ニ依リ使用スルヲ得ヘキ漁具ノ種類ハ其地漁業組合ニ於テ議決シ當廳ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

第五條 第一條第二條ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第九十五號 明治二十九年十二月廿七日

打瀬網使用規則左ノ通相定ム

打瀬網使用規則

第一條 打瀬網一名帆引網及類似ノ漁具ハ本規定ニ據ルノ外使用スルヲ得ス

第二條 打瀬網ノ使用ハ從來使用ノ慣行アル漁場ニシテ其漁業組合町村地先限リトス

第三條 打瀬網使用ノ期節ハ毎年三月四月及七月以降十月マテトス

第四條 打瀬網及類似ノ漁具ヲ使用セントスルトキハ其使用ノ時期ヲ漁業組合規約ニ規定シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 第一條ニ違反シタルモノハ二日以上五日以内ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

附則

第六條 本則ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

明治十九年三月甲第二十九號布達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●縣令第二十九號 明治三十年五月二十日

漁業開始並再興ニ關スル出願手續左ノ通相定ム

第一條 從來漁業ヲ營マサル沿海町村若クハ大字限リニ於テ漁業ヲ開始シ又ハ從前ノ慣行ニ依リ之ヲ再興セントスルトキハ其願書ニ漁場ノ位置區劃方位間數等ヲ詳記シタル圖面ヲ添ヘ町村役場及郡役所ヲ經由シテ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 町村役場ニ於テ前條ノ願書ヲ受付タルトキハ町村長ハ其町村及漁業者總代(漁業者總代ハ正當ノ委任ヲ受ケタルトキ)ノ故障有無ヲ審查シ他ニ關係町村アルトキハ其町村長ノ意見ヲ聞キ願書ニ關係書類ヲ付シ尙其意見ヲ副申シ進達スヘシ

第三條 郡役所ニ於テ第一條ノ願書ヲ受付ケタルトキハ其地漁業組合ニ諮問シ其答申書ヲ添付シ意見副申ノ上當廳ヘ進達スヘシ

●縣令第三十號 明治廿八年四月十七日

河川湖海池沼等ニ於テ鰻登尾二匁以下ノモノヲ捕獲若クハ販賣シ又ハ毎年二月一日ヨリ五月三十一日迄鮎ヲ捕獲若クハ販賣スルコトヲ禁ス犯ス者ハ二日以上十五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五

拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス(廿八年縣令第廿八號ヲ以テ修正)

但明治十六年九月甲第七十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

●縣令第二十八號 明治廿七年四月十五日

水産繁殖保護ノ爲メ毎年十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄潜水器ヲ使用シ鮑ヲ捕獲スルコトヲ禁ス犯スモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

但明治十八年甲第九十二號廢止ス

●縣令第廿六號 明治二十八年三月廿九日

鮑貝ハ堅長曲尺三寸以下ノモノヲ採收及賣買スルコトヲ禁ス犯ス者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

●縣令第十六號 明治二十年二月十六日

河中ニ籠ヲ設ク漁業ヲナサントスルモノハ所轄郡役所ヘ願出許可ヲ受クヘシ

但明治十六年六月本縣甲第五十五號布達ハ廢止ス

●甲第八十七號 明治十年九月十八日

捕魚採藻ノ爲メ海川面所用之籠ニ付テハ退々公布ノ旨モ有之候處右ハ一般其地ノ舊慣ニ依リ營

業差許候尤税金賦課ノ義ハ退テ可相違候條右營業ノ者へ無洩可相違候事

●甲第六號 明治十一年一月十八日

十年本縣甲第八十七號ヲ以テ捕魚採藻ノ爲メ海川面所用ノ義ハ其地ノ舊慣ニ依リ營業差許候旨及布達候處舊慣ノ文義ヲ誤リ無謂故障申立候向モ有之候哉ニ相聞候得共右布達セシ現時ノ習慣ニ因リ營業差許候趣意ニ候條此旨更ニ布達候事

●甲第九十一號 明治十三年六月廿五日

本年本縣甲第八十八號ヲ以テ漁業稅採藻稅徵收規則改正布達候處該營業之義ハ總テ其地舊來ノ區域及慣例ニ據リ候儀ト可相心得此旨布達候事

●甲第五十六號 明治十七年五月二十七日

河川溝渠等ニ於テ諸魚捕獲ノ爲メ毒流ト稱シ柿澁山椒等ヲ放流候者有之哉ノ趣右ハ水產物繁殖上妨害不少義ニ付自今不相成候條此旨布達候事

●縣令第十三號 明治三十年二月十七日

海苔採場及養蠶場取締規則

第一條 海灣湖口ニ於テ海苔採及養蠶業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ具ヘタル願書ニ圖面

海苔採場及養蠶場取締規則

ヲ添ヘ關係町村役場數町村ニ關係スルモヲ經由シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

但接續シタル場所ニ就キ出願スルトキハ連署ニテ願書ヲ差出スヘシ

- 一 出願場所ノ字名若クハ俗稱及最近ノ郡町村大字名
- 一 營業期限及季節

圖面ニ記載スヘキ事項ハ概テ左ノ如シ

- 一 出願場所ノ形狀及間數
- 一 陸地ノ不動物跡ヲ以テ基點トシ其基點ト出願場所ノ標點トノ距離

第二條 關係町村長前條ノ願書ヲ受付シタルトキハ其町村ノ故障ノ有無ヲ審査シ他ニ關係町村アルトキハ其町村長ノ意見ヲ聞キ支障有無共願書ニ與番シ關係町村長ニ於テ支障ノ意見アルトキハ其意見書ヲ添付シ所轄郡役所ヲ經由シテ縣廳ヘ進達スヘシ

第三條 海苔採場及養蠶場營業期限ハ五ヶ年以内トス

第四條 許可ヲ得タル海苔採場及養蠶場ニ於テ正當ノ事由ナク一ヶ年以上營業ヲ爲ササルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス

第五條 許可ヲ得タル海苔採場及養蠶場ヲ變更擴張若クハ他人ニ讓與セントシ又ハ滿期ニ至リ尙引續キ營業ヲ爲サントスルトキハ第一條ノ手續ニ依リ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 許可ヲ得タル海苔採場及養蠶場ハ賣買又ハ貸渡若クハ質入寄入等擔保ノ目的ニ供スル

コトヲ得ス

第七條 許可ノ場所ニ於テ季節ニ至リ海苔採及養蠶場ヲ建設セントスルトキハ十五日以前ニ縣廳へ届出テ其季節ヲ經過シタルトキハ之ヲ撤去スヘシ

第八條 海苔採場及養蠶場ハ其許可ヲ得タルトキハ其位置ノ四隅ニ標杭ヲ建設スヘシ

但敷人相接続シタル場所ニ於テ許可ヲ得タルトキハ其接続區域ノ周圍ニ標杭ヲ建設スヘシ

第九條 許可ヲ得タル海苔採及養蠶營業者ニシテ轉居改氏名又ハ廢業ヲ爲シタルトキハ十日以内ニ關係町村役場ヲ經テ縣廳へ届出ツヘシ

第十條 海苔採場及養蠶場ハ許可ノ年限中ト雖公益上其場所ノ必要生シタルトキハ縣廳ハ何時ニテモ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十一條 第一條第五條第六條第七條第八條ニ違反シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處シ尙其情狀ニ依リ許可ヲ取消スコトアルヘシ

附則

第十二條 本則ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

第六 山林

●縣令第五十一號

明治廿七年九月廿三日

民有山林組規則左ノ通相定ム

民有山林組規則

第一條 山林ヲ所有スル者ハ其地形ニ依リ毎町村又ハ數町村聯合シ適宜地區ヲ劃シ組合ヲ設クヘシ

但土地ノ情況ニ依リ町村内ヲ分割シ又ハ他ノ町村若クハ其幾部分ト聯合シテ組合ヲ設クルコトヲ得

第二條 組合ハ森林ノ保護繁殖ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

第三條 組合ノ組織ハ山林所有者中ヨリ創立委員ヲ設ク其規約ヲ作り當廳ノ認可ヲ受クヘシ其委員ハ各町村又ハ大字ヨリ三名乃至五名宛選出シ委員ノ議決ハ出席者ノ過半数ニ依ルモノトス

第四條 山林ヲ所有スル者ハ總テ其地ノ組合へ加入スヘシ

但他ノ山林ト接続セサル僅少反別ノ山林ハ組合ニ於テ適宜制限ヲ設ク當廳ノ認可ヲ經テ之ヲ員外ト爲スコトヲ得

第五條 組合區域外ニ居住スル山林所有者ニシテ自ラ組合ニ關スル權利義務ヲ行フコトヲ得サル事情アル者ハ山林所在地ニ代理人ヲ置キ其人名ヲ組合長ヘ届出ヘシ

第六條 組合區域内ニ山林ヲ所有スル者ハ員外ニ屬スルモノト雖第八條第八ノ發火虫害ノ豫防方法ニ付テハ其山林所在地ノ組合規約ヲ遵守スヘシ

第七條 組合ニハ組合長及山林取締人ヲ置クヘシ
但其人名ハ所轄郡役所ヘ届出ヘシ

第八條 組合規約ニ掲クヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所位置
- 二 組合ノ目的
- 三 組合市町村名字又ハ區劃
- 四 用材薪炭木輪伐ノ方法
- 五 伐木シタル跡地又ハ荒蕪ノ山野ニ植樹ノ方法
- 六 種苗植樹副産物改良等ノ方法
- 七 水源涵養土砂打止風潮除等國土保安林及魚寄林保護ノ方法
- 八 發火、盜伐、虫害等ノ豫防方法
- 九 役員ノ撰舉方法及其權限
- 十 會議ニ關スル規定

十一 組合員出入ニ關スル手續

十二 費用ノ徵收支出及賦課方法

十三 違約者處分方法

右ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項

第九條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立又ハ合併セントスルハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 組合事務所ニハ組合ノ人員并植字反別伐採反別等ヲ記載シタル帳簿ヲ備ヘ置クヘシ

第十一條 組合長ハ組合ノ收支豫算決算其他組合會員決議事項ノ要領ヲ記シ毎年四月限リ所轄郡役所ヘ報告スヘシ

第十二條 第四條ニ依リ組合員タルヘキ者ニシテ其組合ヘ加入スルコトヲ拒ミ又ハ山林所有者ニシテ第六條ニ違背シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 従前山林組合準則ニ據リ設立セシ山林組合ニシテ其區域ニ依リ存續セシトスルモノハ本則第三條ノ手續ヲ爲スヲ要セス直ニ其組合會ニ於テ規約ヲ議定シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 本組合規則ハ明治廿八年四月一日ヨリ施行ス

●告示第三百三十一號 明治三十年十二月廿八日

本縣下ニ於ケル從來ノ風致林及禁伐林ハ別冊ノ通

俱別冊ハ郡市役所町村役場ニ配付ス

(別冊ハ省ク)

●縣令第十七號 明治三十一年二月二十五日

森林開墾出願手續左之通り相定ム

森林開墾出願手續

第一條 明治三十年四月法律第四十六號森林法第六條ニ依リ森林開墾ノ許可ヲ受ケントスルモノハ郡市町村大字地番地目林種樹種反別ヲ詳記シ所屬町村役場郡市役所ヲ經テ願書ヲ提出スヘシ前項願書ニハ四隣地番地目等ヲ示シタル圖面ヲ添付スヘシ

第二條 郡市長第一條ノ願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ付シテ進達スヘシ

●縣令第三十二號 明治三十一年四月廿六日

森林法施行細則第十一條ニ依リ森林内ニ火入ノ許可ヲ警察官ニ請ハントスルモノハ願書ニ地名地番、反別、境界及延燒豫防法防火線ニ依ルモノハ其職員及構遣人力ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ提出スヘシ

●告示第八十號 明治三十一年六月八日

御料林ニ接續スル民林ヲ伐採セントスルトキハ着手以前伐採者ヨリ所轄御料局靜岡支廳出張所

ハ其旨届出ツヘシ

第七 銀行會社

●甲第三十八號 明治二十六年十一月廿一日

郡役所、市役所、町村役場

銀行並ニ貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續左ノ通り心得可シ

一 銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラズ一定ノ場所ヲ設ケ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ貯蓄銀行ニ在リテハ之ヲ設置スルノ認可ヲ得タル上ニ開業期日及印鑑ヲ銀行ニ在リテハ其名稱營業所開業期日及印鑑ヲ主務大臣宛届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ(三十年甲第十八號ヲ以テ改正)

一 貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ主務大臣ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

●甲第十九號 明治廿七年六月十日

郡役所、市役所、町村役場

自今銀行事業ヲ營ム會社ヨリ差出ス資本増減ノ認可申請書ニハ資本増減ノ理由及ヒ其拂込拂戻ノ期日方法等總會ノ決議案ヲ具シタル參考書ヲ添付セシムヘシ
但各人ハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載セシムヘシ

●甲第二十號 明治廿七年七月三日

郡役所、市役所、町村役場

銀行事業ヲ營ム會社ニシテ登記ヲ受ケタルトキハ其事項及年月日ヲ記シタル届書ヲ主務大臣宛
ヲ以テ當廳ヘ差出サシムヘシ

但既ニ登記ヲ受ケタルモノハ此際其登記事項及ヒ年月日ヲ本文ニ因リ届出サシムヘシ

●甲第四號 明治廿九年一月廿九日 郡役所、市役所、町村役場

私立銀行ノ財産目錄貸借對照表ノ義ハ銀行條例第四條ノ規定ニ依リ公告スヘキハ勿論ノ處高一
右ノ手續ヲ爲サス自然等閑ニ附スルニ於テハ不都合ニ候條客年下半季分ハ勿論向後ハ渾テ公告
ヲ爲シタル新聞紙ヲ當廳ヘ差出サシムヘシ

●甲第十七號 明治二十九年十月一日 郡役所、市役所、町村役場

明治二十六年五月農商務省令第十一號第三條ニ該當スル株式会社アルトキハ速ニ其事項ヲ具申ス
ヘシ

●甲第二十一號 明治廿六年六月廿五日 郡役所、市役所、町村役場

明治二十六年五月一日大藏省令第七號銀行條例施行細則第十八條乃至第二十二條ニ該當スルモ
ノアルトキハ其事由ヲ具シ直ニ當廳ヘ報告ス可シ

第八 度量衡

●告示第五十九號 明治二十五年十二月廿八日

明治廿四年八月農商務省令第十一號度量衡施行規則第一條ニ據リ常置檢定所ヲ本縣廳内ニ設置ス

●告示第八十一號 明治三十年八月六日

明治三十年七月農商務省令第十一號度量衡法施行規則第一條ニ據リ常置檢定所ヲ濱名郡濱松町濱
名郡役所内ニ設置ス

●縣令第二十號 明治二十八年三月十三日

度量衡取締規則左ノ通改正ス

度量衡取締規則

第一條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ其營業ノ種類及氏名ヲ記載シタル標札ヲ營業所ノ戸
外ニ掲クヘシ

第二條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ其營業ニ係ル帳簿ヲ備ヘ置キ製作修覆輸入買入若ク
ハ販賣シタル度量衡器ノ形狀物質種類個數價格及年月日ヲ記載スヘシ

但買入ニ依ルモノハ其製作者又ハ輸入者ノ住所氏名ヲ附記シ其販賣ニ係ルモノハ販賣者ニ
販賣シタルモノト使用者ニ販賣シタルモノトヲ區別シ販賣者ニ販賣シタルモノハ其販賣者

ノ住所及氏名ヲ附記スヘシ

第三條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ別紙様式ニ據リ前年四月一日ヨリ其年三月三十一日ニ至ル一ケ年間ノ營業實況表ヲ調製シ毎年四月十五日迄ニ當廳ヘ報告スヘシ

但桿秤ノ取緒及錘絲ヲ修覆シタル箇數ハ別ニ之ヲ取調營業實況表ニ添付スヘシ

第四條 度量衡器製作者修覆者及販賣者ハ其免許狀受領後六十日以内ニ開業セサルモノ又ハ開業後休業三十日以上ニ及フモノハ其事由ヲ當廳ヘ届出ヘシ

第五條 度量衡法施行規則第四十一條ニヨリ桿秤ノ取緒錘絲ニシテ金屬ニアラサルモノ、修覆ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル届書ヲ差出スヘシ其營業ヲ廢止シタルトキハ其旨十日以内ニ届出ヘシ(明治三十一年縣令第一號ヲ以テ改正)

- 一 修覆場ノ位置
- 二 修覆セントスル桿秤ノ種別
- 三 秤架ノ種類個數
- 四 分銅ノ種類個數
- 五 營業開始ノ年月日

第六條 度量衡法施行規則第四十四條ノ届書ニハ所有者ノ職業住所氏名物質種類年號番號秤量及差狂ト認ムル點ヲ詳記スヘシ

但年號ハ明治二十六年一月以前ノ製作ニ係ルモノハ除ク

第七條 當該吏員(檢定官吏警察官市長町村長)ハ度量衡器製作場修覆場販賣所及使用者ノ營業所其他必要ト認ムル場所ニ臨檢シ度量衡ニ關スル物件ノ調査ヲナスコトアルヘシ
前項臨檢ノ吏員ハ證票ヲ携帯スヘシ

但警察官ハ此限ニアラス

第八條 當該吏員ニ於テ檢定ヲ要スヘキモノ若クハ差狂アリト認ムルモノハ其販賣使用ヲ停止シ若クハ檢定ヲ受ケシメ又ハ修覆ヲ命スルコトアルヘシ

附則

第九條 本規則ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス明治二十六年二月縣令第十五號度量衡取締規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(舊式器ス)

●甲第三號 明治二十八年三月十三日

郡役所、市役所、町村役場

明治二十八年三月縣令第二十號度量衡取締規則ニ依リ市長町村長ハ左ノ心得ニ據ルヘシ
度量衡取締心得

第一條 市長町村長ハ其市町村内ニ於クル度量衡器ノ取締ヲ行ヒ毎年二回以上臨檢スヘシ

第二條 市長町村長ハ其市町村内ニ於クル度量衡器營業者ノ名簿ヲ製シ營業種別免許年月日ヲ記載シ並ニ設計書寫ヲ備ヘ置キ爾後異動アル毎ニ之ヲ訂正スヘシ

第三條 市長町村長ハ當廳ヨリ交付シタル度量衡取締主任ノ證書ヲ保管シ若シ紛失毀損シタルトキハ其事由ヲ詳記シ再交付ヲ請求スヘシ

但市町村更迭ノ際其都度前任者ノ證書ヲ添ヘ後任者ヨリ請求スヘシ

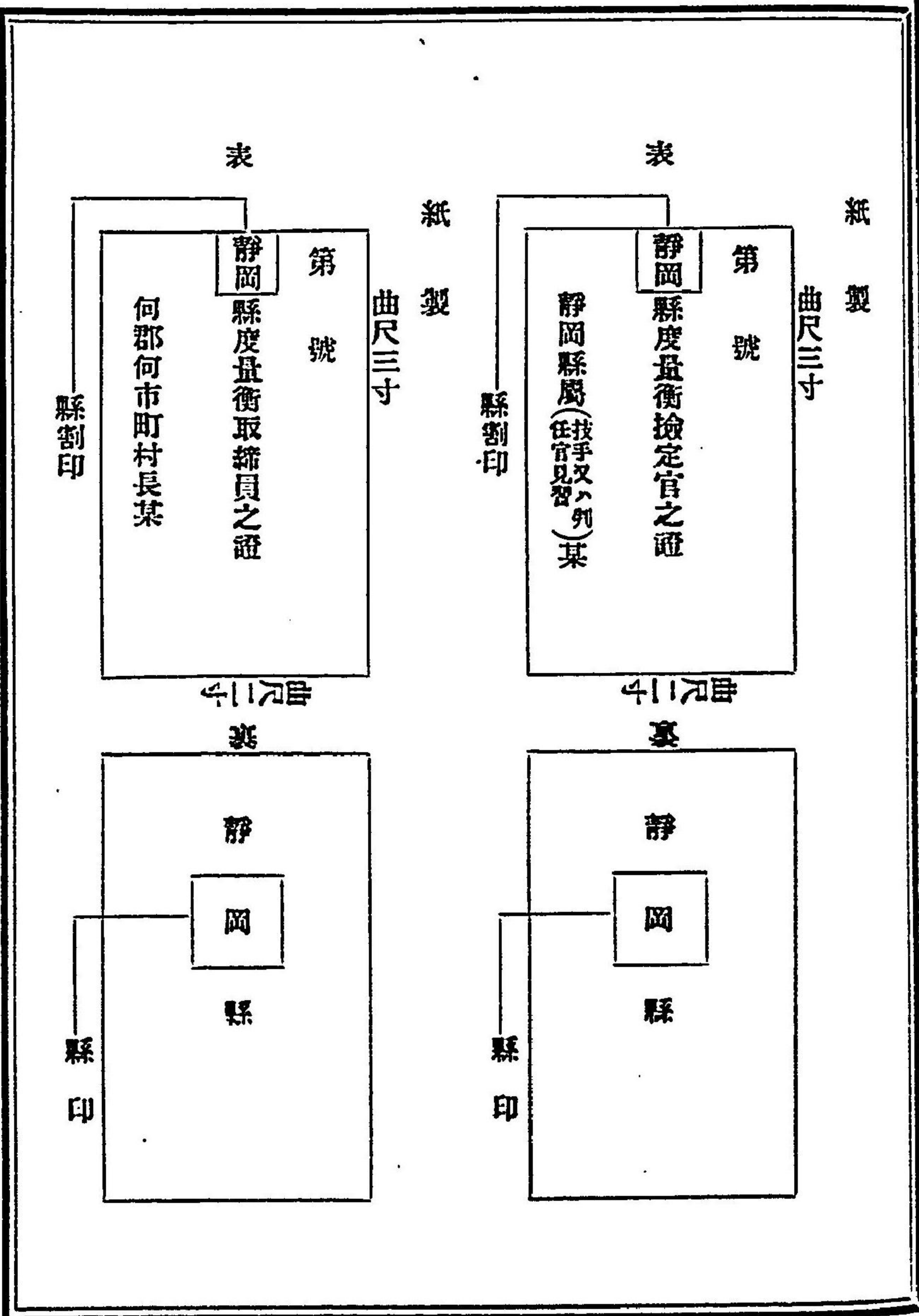
第四條 市長町村長ハ度量衡法施行規則第四十四條ニ規定スル届出ヲ受理シタルトキハ修業者所有者ノ住所氏名並ニ器物ノ物質種類年號番號秤量及差狂ト認ムル點ヲ詳記シ當廳ヘ報告シ尙所有者ニ對シテハ差狂アルコトヲ認知セシメ檢定ヲ受ケシムヘシ

第五條 市長町村長ハ取締ノ爲メ度量衡器製作場修履場及販賣所ニ就キ檢檢スルトキハ左ノ各項ヲ調査シ當廳ヘ報告スヘシ

- 一 設計書ノ如ク實施シアルヤ否
- 二 帳簿ノ整否
- 三 不完全ノ材料ヲ使用セサルヤ否

●告示第十二號 明治二十六年二月二十二日

度量衡取締規則ニ依リ檢檢スル檢定員及取締員ノ携帯スヘキ證書ハ左ノ如シ



第九 博覽會等

●告示第五十六號 明治十七年三月五日

内外博覽會及ヒ共進會ニ於テ授與ノ褒贈水火盜難ニ罹リ失ヒタル者ヨリ請求候節ハ證明狀附與可相成候條右等事故有之候ハ、其失ヒタル事由及年月日取調願出ツヘシ此旨告示候事

但本縣ヨリ下渡候褒贈モ本文ニ準スヘシ

●甲第七十九號 明治十九年七月一日

博覽會共進會其他之ニ類似ノ會ヲ開設セントスルキハ開會前該會規則相添届出尙閉會後直チニ左ノ書式ニ準シ其景况ヲ報告スヘシ
右布達ス

- 何會報告書
- 會場地名 國郡町村名
- 會名 何博覽會何共進會ト記スヘシ譬ヘハ水産博覽會兩茶共進會品評會ト記スヘシ
- 會主 何郡役所何戶長役場或ハ何町村或ハ何某
- 開場 何月何日
- 褒賞授與式 何月何日
- 閉場 何月何日

- 出品區域 何郡又ハ何町村或聯合何人
- 出品人員 何人
- 出品員數 若干
- 出品總價 何圓錢
- 出品種類 農產水産或ハ陶器漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農產水産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ
- 出品賣數 若干
- 出品賣價總額 何圓錢
- 褒賞總人員 何人
- 褒賞等級別 一等人二人或何人三等何人褒狀何人追賞何人功勞賞何人協贊賞何人
- 褒賞々與物件 杯或ハ何物品或ハ金圓(譬ヘハ一等物品或ハ金何圓二等何々)等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
- 來觀人員 何人
- 通券價格 何錢(日曜日平日等ノ區別アレハ各別ニ記スヘシ)
- 通券收額 何圓錢
- 會費總額 何圓錢
- 會費區別 町村費何圓通券料何圓或ハ醜金義捐金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
- 本會景况 (譬ヘハ特殊發見ノ礦物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其他製作品ノ著ルシク改良進步セシモノ或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セシモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近

年輸出ノ精ニ就キシモノ等都テ工藝品農產物水產物ニ關シ會場ノ景況ハ勿論
後來ニ希圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開
設ノモノハ前年ノ比較ヲ揭ケ又其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ

右報告候也

年月日

縣令宛

會主名

第十 氣象

●告示第三十三號 明治三十年四月廿七日

靜岡縣沼津測候所天氣豫報暴風警報轉報規程左ノ通相定ム

天氣豫報暴風警報轉報規程

第一條 天氣豫報暴風警報ノ轉報ヲ依頼セントスルモノハ此規定ニ依ルヘシ

第二條 天氣豫報ハ毎日午後五時前後ニ發スルモノニシテ其有効時間ハ凡ソ當日午後六時ヨリ

翌日午後六時迄トス

第三條 天氣豫報ノ事項ハ風向天氣及寒暖ノ三種トス

第四條 第三條寒暖ノ豫報ハ溫度ノ激變若クハ不時降霜等ノ虞アル時ニ發スルモノトス

第五條 暴風警報ハ本邦又ハ本邦近海ニ於テ暴風雨來ラントスルノ虞アル時ニ發シ天候平穩ニ

復セントスルハ先ノ警戒ヲ解除ス

第六條 天氣豫報暴風警報ノ轉報ヲ依頼セントスルモノハ左ノ依頼書ニ電信料ヲ添ヘ沼津又ハ

濱松測候所ヘ差出スヘシ

轉報依頼書

一 利用ノ目的 農蠶漁魚航海等ノ類

一 轉報種別 天氣豫報(特ニ寒暖ノミヲ依頼スルモ)
(ノハ寒暖豫報ト記載スヘシ)

暴風警報

一 轉報期限 何月何日ヨリ何月何日迄

一 轉報ヲ受クヘキ電信局及地名 何郵便電信局

一 配達ノ種別 別使又ハ何郵便局ヨリ郵送ノ類

一 依頼者 何町村若クハ何組合ノ代表者又何町村何某

右轉報相成度及御依頼候也

年月日

依頼者

住所氏

名印

靜岡縣沼津(濱松)測候所 御中

第七條 電信料ハ切手ノ外一切受理セス

第八條 轉報電信料ハ左ノ額ヲ要ス

- 一 天氣豫報 一日分一音信料
- 一 暴風警報 但寒暖豫報ノミナルモ亦一音信料ヲ要ス(午後十時後ナルトキハ二音信料)

第九條 臨時必要ノ場合ニ於テ電信ヲ以テ天氣寒暖風力等ノ模様ヲ尋問セントスル者ハ轉報料トシテ返信料前納電報ニヨリテ一音信料ヲ納付スヘシ但シ午後十時後ハ二音信料ヲ要ス

第十條 別使又ハ郵便配達ヲ要スルトキハ第八條及第九條ノ外相當料金を對スル電信料ヲ併納スヘシ

第十一條 第八條及第十條ノ電信料ハ豫メ其測候所ヘ前納シ置クモノトス

第十二條 轉報電報ノ符號ハ測候所ヨリ豫メ依頼者ニ通知スヘシ

第十三條 本規程ハ明治三十年四月廿七日ヨリ施行ス

●告示第二百四十五號 明治十七年十二月十三日

當管下駿河國庵原郡清水町受新田二百十八番地ニ於テ暴風標ヲ建設シ明治十七年十二月廿日ヨリ暴風警報ノアル毎ニ信號ヲ揭示ス

●告示第五號 明治十九年一月十日

當管下遠江國長上郡掛塚村字元八丁ニ於テ暴風標ヲ建設シ明治十九年一月十五日ヨリ暴風警報

アル毎ニ信號ヲ揭示ス

●諭告 明治廿六年九月

本年春來天候常ヲ失シ旱天連月用水欠乏シテ灌溉ノ途ナキニ苦ムコト甚ダシカリシカ一朝降雨地ヲ潤シ愁眉漸ク開クヲ得タリト雖其損失タル實ニ莫大ナルヲ知ルヘシ而シテ均シク旱魃地方ニ於テ其部落相接シ其耕地互ニ隣接スルニ拘ハラス其旱害ノ度ヲ異ニスルモノアリ是レ或ハ土地ノ狀況水利ノ便否等ニ因ルト雖モ抑モ亦平生注意ノ厚薄ニ依ラサルヲ得ス夫ノ溜池堀井等平素灌溉用水ノ注意備ハレル地方ノ如キハ旱損甚キニ至ラス之ニ反シテ平素用意ノ到ラサル土地ニ於テハ田而龜裂シ稻苗黄色ヲ呈シ播種已來積日ノ勞苦忽チ水泡ニ屬スルノ慘狀ヲ呈セシモノアリ然レハ旱魃ハ天災ナリト雖亦人力ニ依リテ之ヲ防除スルコトヲ得ヘキナリ是故ニ一朝旱魃ニ遭遇スルトキハ忽チ用水欠乏ノ憂アル地方ニ在テハ其關係區域ノ町村又ハ部落若クハ地主ニ於テ協議ヲ盡シ其土地ノ狀況ニ依リ或ハ灌溉用水路ヲ開キ或ハ溜池ヲ設ケ又ハ從來ノ用水路及溜池ヲ改良シ且其水源涵養ニ注意シテ容易ニ涸渴ノ患ナカラシムル等宜シク平生無事ノ日ニ於テ非常ニ備フルノ用意ヲ爲スヘシ若夫レ經費ノ如キハ其關係町村部落等ノ經濟ヲ計リ一時巨額ノ負擔ニ耐ヘサルトキハ適宜ノ方法ニ依リテ積金法ヲ設ケ以テ功ヲ數年ノ後ニ期スルノ計畫ヲ爲スモ可ナリ願フニ旱天ニ際シ稻苗將ニ枯死セントスルノ時ニ方リテ晝夜灌溉ニ苦心シ急遽ノ

施設及雨乞等ノ爲メニ支消シタル費用ハ驚クヘキノ金額ニ上ルヘシ況ンヤ旱魃ノ爲メニ來シタル作物ノ損失ヲ積算スルトキハ果シテ其幾何ノ額ニ上ルヤ知ルヘカラス實ニ其巨額ナルヲ知ルヘシ夫ノ旱天ノ際ニ費シタル勞力ト費用トヲ以テ從事スルトキハ用水路及溜池ノ改良ハ勿論之ヲ開鑿新設スル亦決シテ難キニ非サルヘシ今ヤ酷烈ナル旱魃ノ慘狀ハ一朝ノ降雨ニ依リテ其光景ヲ一變シタリト雖モ旱天ノ際ニ於ケル苦心ト旱魃ノ損害ヲ思ヘハ將來ニ向テ再ヒ此慘況ノ陷ラサル豫防ノ方法ヲ講究シ之カ計畫ヲ施スハ實ニ今日ノ急務ト謂ハサルヘカラス一旦災害ノ眼前ニ迫ルニ及ンテ倉皇之カ防除ノ策ヲ講スルモ其功ヲ奏スルノ難キハ既ニ實驗ニ徴シテ明ナリ依テ灌溉用水欠乏ノ憂アル地方ニ於テハ此際宜ク協同一致奮テ各地適應ノ計畫ヲ施シ將來再ヒ旱魃ニ遭遇スルモ悔ナカラノコトヲ期スヘシ

第十一 其他

●甲第二百十七號

明治十二年十一月十四日

器械發明之儀ハ工業振興之源ニシテ勸業上ノ關係不少義ニ付自今新發明器械製造發賣候者ハ現品見本或ハ雛形并仕用ノ手續及ヒ廢歷書等相添其時々可届出此旨布達候事

●甲第二十八號

明治十七年十二月十七日

工商同業組合規則別紙ノ通り相定候條向後組合ヲ設ケントスルハ此規則ニ基キ當廳ノ認可ヲ受クヘシ此旨布達候事

同業組合規則

第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケン

トスルハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り當廳ノ認

可ヲ受ク可シ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 役員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右之外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 組合ノ設ケアル地區内ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ

但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ム事情アルトキハ當廳ニ申出其認定ヲ受クヘシ

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟(組合員數前年産額及ビ代價等トモ)及費用決算表ヲ四月當廳ヘ報告スヘシ(明治十九年縣令第四十三號及明治廿四年縣令第三十一號ヲ以テ改正)

第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ受クヘシ

第八條 分立又ハ合併スルキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ受クヘシ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルキハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

但其聯合他府縣ニ涉ルキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 此規則第四條ニ違背シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●甲第四號 明治十九年一月十一日

明治十七年十二月本縣甲第百二十八號布達ニ據リ農工商同業組合ヲ設ケ規約ノ認可ヲ請フ者ハ自今左ノ書式ニ據リ願出ヘシ

但不同意アルキハ其姓名簿願書ニ添付スヘシ

願書式

何業組合規約書御認可願

私共農工商組合規則ニ基キ組合相立別紙之通規約相定候條御認可被成下皮同意者連署此段奉願候也

年月日

國郡村番地 何之誰印

全意者連署スヘシ

静岡縣令某殿

前書ノ通相違無之候也 年月日

戸長 姓 名 印

地區内戸長連署スヘシ

●甲第十二號 明治三十年三月二十六日

郡役所、市役所、町村役場

近來猥リニ重要物産ニ關スル農工商同業組合ヲ設ケ其行爲往々弊害有之趣右ハ明治十七年十二月

甲第百二十八號同業組合規則ニ基キ當廳ノ認可ヲ受クヘキモノニ付其取締方注意スヘシ

●明治十八年六月二十七日諭達

世の中に飢饉ほど恐るべきものはあらず今をさる五十年前天保七年國內皆凶作にて終に飢饉となり餓死せしもの諸國に夥しく其甚しき村々にては一村畢ニ死盡して人烟全く絶し處さへあ

り然るに平生の心掛等閑ならずして夫々の貯蓄ありし國々町村に於ては一入の餓死もなく樂成に異ならざる處ありしとかや其飢饉の流行は古今の別なく人間の死に難き災厄にして我御國にては 崇神天皇六年より仁孝天皇の天保七年まで其年間千九百年餘に凡そ四十度計りの飢饉あり古しへは人々質朴にして天を畏れ人事を盡し用意に怠らざりし故甚しき慘狀は見ざりし由後世に至りては古しへの如くならざる故にや享保天明天保の飢饉の節には一揆騒動さへも起り加之疫病等行れてはかなき死を遂しもの極めて多かりき是れ畢竟平生の油断より生ぜしものなり豈淺ましき事ならずや近來諸國風雨洪水の災殃しげく氣候も亦順ならず或は天明天保度の凶作前の時候に似たるか如し實に油断すへからざる時節なり於茲町村各自能く其職業を勤め儉約を守り貯蓄の方法を講究し豫しめ飢饉の手當を備ふへし努々等閑に付すること勿れ

●號外 明治二十七年七月廿八日

各 郡

本邦ノ繪事近年衰頹シ近世ニ至テハ妙技殆ノト地ニ際ノトスルヲ思ヒ政府於テハ既ニ第二回繪畫共進會ヲ開設シ大ヒニ其振興ヲ計畫セラル抑モ繪畫ハ美術ノ本分ニシテ陶器漆器其他凡百ノ工藝渾テ其圖按裝飾一モ此技ニ依ラサルハナシ故ニ苟モ工藝ノ進歩ヲ希圖スルモノハ此道ヲ獎勵セサルヘカラサルナリ依テ各郡於テハ厚ク注意ヲ加ヘ便宜方按ヲ以テ從來ノ畫工ヲシテ振起セシメ隨テ後進ヲ誘導獎勵スヘシ

●乙第九號 明治二十七年五月廿日

郡役所、市役所

農商務統計報告規程左ノ通相定ム

農商務統計報告規程

第一條 郡市長ハ毎年左ノ定期報告ヲ爲スヘシ

一 農商務統計表 每表ニ定ムル報告期

一 米作開花ノ景況

一 同成熟ノ景況

一 麥作成熟ノ景況

一 蠶兒掃立ヨリ三齡ニ至ルマテノ景況 毎年五月三十一日限

第二條 郡市長ハ左ニ掲クル場合ニ於テハ臨時報告ヲ爲スヘシ

但シ緊急ノ場合ニハ電報ヲ以テスヘシ

一 蟲害

一 風雨水旱霜雹ノ害

一 森林ノ火災

一 漁業者ノ遭難

一 其他各種ノ災害及産業上著ルシキ影響ヲ生スヘキ事件ノ發生シタル場合

第三條 郡市長ハ所轄内適宜ノ區畫ニ依リ若干ノ統計調査委員ヲ設ケ統計事務ヲ補助セシムルノ必要アリト認ムルトキハ其地方ニ於テ相當ノ地位名望ヲ有シ實業ノ狀況ニ精通シ且ツ統計

調査ニ適スル者ヲ選ミ具申スヘシ

第四條 農商務統計調査委員ノ事務左ノ如シ

- 一 統計材料ノ蒐集ニ補助ヲ與フルコト
 - 一 蒐集調査セシ統計ノ適實ナルヤ否ノ協議ニ與カルコト
 - 一 統計調査ニ關シ意見アルハ
- 當廳又ハ農商務省統計主任ヘ之ヲ開申スルコト

●農第一〇號 明治二十七年四月廿七日

静岡縣茶業組合聯合會議所
静岡縣蠶絲業組合取締所

明治廿二年五月農第五五三號廢止候條自今別紙様式ニ據リ本縣内務部ヘ直チニ報告スヘシ

(別紙零ス)

● 明治三十一年七月二日

駿東郡沼津町役場

其町物價、賃錢及港灣出入船舶ヲ本年以降別紙様式ニ據リ取調本縣内務部ヘ直チニ報告スヘシ

(別紙零ス)

● 明治三十一年七月二日

濱名郡濱松町役場、静岡市役所

其市物價及賃錢ヲ本年以降別紙様式ニ據リ取調本縣内務部ヘ直チニ報告スヘシ

(別紙零ス)

● 明治三十一年七月二日

賀茂郡下田町役場、賀茂郡松崎村役場

安倍郡清水町役場、志太郡焼津村役場
磐田郡掛塚町役場、濱名郡舞坂町役場

其町港灣出入船舶ヲ本年以降別紙様式ニ據リ取調本縣内務部ヘ直チニ報告スヘシ

(別紙零ス)

●號外 明治十九年八月七日

製茶ノ用ニ供スル木炭ノ内黒炭又ハ土窯炭ト稱スルモノ近來益々粗惡ニ流レ炭ノ中心未ダ全ク炭質ニ變セサルヨリ製茶ノ炉爐中ニ於テ烟ヲ發シ之レカ爲惡臭ヲ生シ茶ノ稱美スル處ノ香氣ヲ害シ終ニ需用者ノ厭フ處トナリ自然製茶家ノ實益ヲ得ル能ハサルノ掛念有之候間木炭製造者ハ務メテ善良ノ燒立ヲ爲シ國産ヲ害セサルコトヲ心掛ケ製茶家ハ多少度段ノ高下ニ迷ハサレズ購入ノ際篤ト其否ヲ見分ケ自家製茶ノ品位ヲ墜サ、ル様深ク注意スヘシ

●縣令第十八號 明治廿七年三月廿日

他人ノ探堀セル礦石ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂礦ヲ製煉スル者ハ左ノ各項ニ準據スヘシ但明治二十五年ハ縣令第五十一號廢止ス

第一 新ニ從事スルモノハ製煉場ノ位置製煉礦物ノ種類及住所族籍姓名ヲ記シ所屬町村役場ヲ

經由シ届出ヘシ

但廢業其他異動ヲ生シタルトキモ亦同シ

第二 製煉人ハ左ノ離形ニ依リ一箇年ノ工程ヲ取調ヘ翌年一月十五日限リ蒸出スヘシ
但鑛業條例ニ掲ケル鑛業人ト雖モ買入鑛石ニ係ル分亦同シ

(離形客ス)

●告示第九十八號 明治三十一年八月九日

補助銀貨ノ流通不足ナル地方ヘ之ヲ普及セシムル爲メ各地本支金庫ヲシテ無手数料ニテ一般需
要者ニ交換セシムル趣其筋ヨリ通知アリ

●告示第三十六號 明治三十一年三月廿三日

御料局静岡支廳森出張所管轄區域ノ内遠江國榛原郡上川根村中川根村ノ二村ヲ割キテ之ヲ静岡
出張所ノ管轄區域内ヘ編入シ又全郡下川根村ヲ金谷分擔區ヘ編入ス

右御料局静岡支廳長ノ依頼ニ依リ告示ス

●告示第七十二號 明治三十一年五月廿九日

御料局静岡支廳静岡出張所藤枝分擔區員ノ住所ヲ本月二十三日志太郎藤枝町ニ移セリ
右御料局静岡支廳ノ依頼ニ依リ告示ス

●告示第二十三號 明治廿六年四月十一日

御料局静岡支廳ニ屬スル物件競争拂下ク手續及工事受負競争手續需用物件購入競争手續別冊ノ
通定メラル(明治三十一年告示第廿九號ヲ以テ手續中改正刪除アリ)

(別冊略ス)

第八編 遞信及地理

第一 郵便

●訓農第六十五號 明治二十年五月三十一日

戸 長

郵便物受取人又ハ差出人居所不明ナル時郵便電信局郵便局ヨリ其役場ヘ取調ヲ乞フ義モ可有
之其際故障ナク該局ノ求ニ應スヘシ

右訓示ス

●號外 明治二十一年六月十八日

沿海郡役所、沿海戸長役場、浦役場

郵便物ヲ積載セル船舶ノ難破等ニ罹リ其郵便物ヲ航送シ能ハサル場合ニ在テ船長又ハ代理人
リ遭難最寄地ノ戸長役場若クハ浦役場ニ送致アルトハ受領書ヲ交付シ其郵便物ニ相當保護ヲナ

シ速ニ最寄郵便局ニ送達スヘシ

但戸長役場又ハ浦役場ニ於テ要スル費用ハ所管ノ逓信管理局長宛テ以テ當座ヘ請求方申出ヘシ

●庶第四號 明治十九年七月十二日

戸長

諸公文書郵送ノ節ハ量目ノ調査印紙貼用等周密注意スヘキハ勿論ニ付差違等無之答ニ保得共若シ前拂税不足スルトキハ其不足税及増税等郵費受取先官衙ノ仕拂ニ可相立義と心得ヘシ右訓示ス

●達第二十三號 明治十九年十一月六日

郡役所、戸長役場

郵便線路ニシテ道路改修若クハ改測等ノ事故ヨリ從來ノ里程ニ伸縮ヲ生シタタルトキハ其都度速ニ届出ヘシ

●達第六號 明治二十年二月二日

郡役所

三等郵便局長採用規則郵便受取所取扱人採用規則別紙ノ通被定候條此旨心得ヘシ

(別紙) 三等郵便局長採用規則

第一條 三等郵便局長ニ採用スヘキ者ハ左ノ各款ヲ具備スルモノトス

第一款 滿二十歳以上ノ男子タル者

第二款 日常ノ算筆ニ通シ心術篤實品行正方ナル者

第三款 實價貳百圓郵便局長ハ五百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スル者

第四款 三等郵便局長服務規則ヲ遵奉スルコトヲ承諾スル者

第二條 各ノ一款若クハ數款ニ觸ル、者ハ三等郵便局長ニ採用セサルモノトス

第一款 結意ヲ以テ郵便ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレシ者

第二款 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシ者

第三款 重禁錮一年未滿及ヒ輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經

過セサル者

第四款 貨幣偽造ノ罪印章文書偽造ノ罪偽證証告ノ罪盜罪贓罪詐取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレシ者

第五款 賭博犯ニ付懲罰ノ處分ヲ受クシ者

第六款 身代限りノ處分ヲ受ク負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第三條 三等郵便局長ハ可成在勤セシムヘキ郵便局所在地居住ノモノヲ採用スルモノトス

第四條 誠實ニ職務ヲ奉シタル三等郵便局長老年又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトキ其嗣子又ハ相續人タルモノノ年齡滿十六歳以上ニ及フ者ハ第一條第一款ノ年齡ニ拘ハラス特ニ採用スルコトアルヘシ

第五條 非戸主ニシテ其戸主實價二百圓三等郵便局長郵便官等ヲ取以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルト

キハ本人財産ナシト雖モ採用スルコトアルヘシ

第六條 新ニ採用スル三等郵便局長ハ判任官十等トシ下級手當ヲ給ス

但土地ノ狀況等ニ依リ或ハ本條ニ拘ハラズ任用スルコトアルヘシ

第七條 三等郵便局長ヲ採用セントスルトキハ驛遞局長ヨリ其三等郵便局長ヲシテ在勤セシム

ヘキ地ヲ所轄スル遞信管理局長ニ其撰舉方ヲ照會スヘシ

第八條 遞信管理局長第七條ノ照會ヲ受ケタルトキハ其採用スヘキ三等郵便局長ヲシテ在勤セシムヘキ地ヲ管轄スル北海道廳長官又ハ府縣知事ニ其撰舉方ヲ照會スヘシ

但遞信管理局長ニ於テ撰舉セントスルモノアルトキハ其人名ヲ指シ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ撰舉ヲ照會スルヲ得

第九條 遞信管理局長北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ撰舉書及ヒ關係書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ被撰人及ヒ其身元引受人ノ資格ヲ調査シ適當ト認ムル者ハ直ニ意見書ヲ造リ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ撰舉書及ヒ關係書類寫ヲ添ニ被選人採用方ヲ遞信大臣ニ具申スヘシ若シ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ撰舉書ニ對シ異見アルトキハ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ協議ヲ遂ケ然ル後具申ノ手續ヲナスヘシ

第十條 三等郵便局長ヲ採用スルトキハ驛遞局長ヨリ採用辭令書ヲ遞信管理局長ニ送達スヘシ

第十一條 遞信管理局長第十條ノ辭令書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其辭令書及ヒ之ニ身元引受人規則ヲ添ニ被撰人ニ送達シ左ノ書類ヲ出サシメ之ヲ管理局ニ保管シ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告シ且採用ノ旨ヲ管轄北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

但身元引受人規則ハ之ヲ其身元引受人ニ下渡サシムヘシ

一 受書第壹號式

二 身元引受證書(採用シタル者非戸主ナルトキハ戸主ノ保證書第貳號式 共)

三 三等郵便局長印鑑及身元引受人印鑑

但印鑑ハ適宜印鑑簿ヲ調製シ之ニ挿入シ置クヘシ改印ノトキ亦同シ

四 爲替又ハ貯金ヲ取扱フ三等郵便局長ナルトキハ各其規則ニ定メタル保證書並保證品但本文保證品ノ取扱方ハ其規則ニ從フヘシ

第十二條 三等郵便局長免官スルトキハ驛遞局長ヨリ免官辭令書ヲ其郵便局ヲ所轄スル遞信管理局長ニ送達スヘシ

第十三條 遞信管理局長第十二條ノ辭令書送達ヲ受ケタルトキハ之ヲ其本人ニ迎達シ受書ヲ蓋出サシメ之ヲ管理局ニ保管シ受書ノ日附ヲ驛遞局長ニ報告シ且免職ノ旨ヲ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 遞信管理局長ハ三等郵便局長左ニ記載シタル場合ニ於テハ遞信大臣ノ指令ヲ待タス直ニ第八條ノ例ニ依リ其後任者ノ撰舉ヲ取計ヒ且第九條ノ例ニ依リ北海道廳長官又ハ府縣知事ノ撰舉書寫ヲ添エ變更方テ遞信大臣ニ具中スヘシ

但第四款ノ場合ハ本人ニ旨ヲ諭シ辭表ヲ差出サシメ具中書ヲ添エ差出スヘシ

第一款 逃亡又ハ死亡シタルトキ

第二款 辭職ヲ願出シタルトキ

第三款 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四款 服務規則第十一條ニ違背シタルトキ

第十五條 遞信管理局長ハ三等郵便局長其職ニ堪エサルモノト見認ルトキハ其事由ヲ具狀スルヲ得

三等郵便局長犯罪及ハ其他ノ事故ニ依リ服務セシムヘカラスト見認メタル場合ニ於テ具狀摺揮ヲ請フノ暇ナキトキハ其服務ヲ差止メ後具申スヘシ

書式客ス

郵便受取所取扱人採用規則

第一條 取扱人ニ採用スルモノハ左ノ各款ヲ具備スルモノニ限ルヘシ

第一款 滿二十歳以上ノ男子タルモノ

第二款 日常ノ筆算ニ通シ心術篤實品行方正ナルモノ

第三款 實價百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルモノ

第四款 取扱人服務規則ヲ遵奉スルコトヲ承諾スルモノ

第二條 左ノ一款若クハ數款ニ觸ル、モノハ取扱人ニ採用スヘカラス

第一款 故意ヲ以テ郵便ニ關スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレシモノ

第二款 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレシモノ

第三款 重禁錮一年未滿及輕禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ其刑期ノ終リシ日ヨリ五年ヲ經過セサルモノ

第四款 貨幣偽造ノ罪印章文章偽造ノ罪偽證誣告ノ罪盜罪匪罪詐偽取財ノ罪ニ付刑ニ處セラレタルモノ

第五款 賭博犯ニ付懲罰ノ處分ヲ受ケシモノ

第六款 官吏懲戒例ニ依リ免官トナリ二年ヲ經過セサルモノ

第七款 身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサルモノ

第三條 取扱人ハ成ルヘク在勤セシムヘキ郵便受取所在地居住ノモノヲ採用スヘシ

第四條 誠實ニ職務ヲ奉シタル取扱人老年又ハ疾病其他事故ニ依リ其職ヲ辭スルカ或ハ在職中死亡セシトハ其嗣子又ハ相續人タルモノ年齢十六歳以上ニ及フトハ第一條第一款ノ年齢ニ拘ハラス特ニ之ヲ採用スルヲ得

第五條 非戸主ニシテ其戸主實價百圓以上ノ土地又ハ家屋ヲ所有スルキハ本人財産ナシト雖モ採用スルヲ得

第六條 新ニ採用スル取扱人ハ三等手當ヲ給與スヘシ

第七條 遞信管理局長取扱人ヲ採用セントスルハ其取扱人ヲシテ在勤セシムヘキ地ヲ管轄スル北海道廳長官又ハ府縣知事ニ取扱人ノ撰擧方ヲ照會シ其撰擧ヲ得テ採用スヘシ

但遞信管理局長ニ於テ適任ト見込ムモノアルハ其人名ヲ指シ府縣知事ニ撰擧ヲ照會スルヲ得府縣知事ノ選舉ニ對シ異見アルハ府縣知事ニ協議ヲ遂ク然ル後採用スヘシ

第八條 取扱人罪ヲ犯シ又ハ服務規則ニ背キ服務セシムヘカラサルモ其他不適任ノモノアルハハ旨ヲ諭シ辭表ヲ差出サシメ然ル後免職スヘシ其情狀重キモノ及ヒ辭表ヲ差出サルモノハ直ニ免職スヘシ

第九條 取扱人ノ手當ヲ増減セントスルハ驛遞局長ニ協議ヲ遂ク然ル後増減スヘシ

第十條 取扱人ヲ任免シ又ハ手當ヲ増減スルハ辭令書(第一號第二號第三號書式)ヲ本人ニ送付シ受書第四號書式ヲ徵收スヘシ

取扱人ヲ任命シタルハ身元引受人規則ヲ送付シ且ツ左ノ書類ヲ徵收シ之ヲ管理局ニ保管シ本人及ヒ身元引受人住所族籍氏名年齢並ニ受書ノ日付ヲ驛遞局長ニ報告シ且採用ノ旨ヲ北海

道廳長官又ハ府縣知事ニ通知スヘシ

但身元引受人規則ハ之ヲ其身元引受人ニ下渡サシムヘシ

一身元引受人證書(採用シタル者戸主ナルハ其戸主ノ保證書共)

二取扱人及ヒ身元引受人ノ印鑑

但印鑑ハ適宜印鑑簿ヲ調製シ之ニ挿入シ置クヘシ改印ノトキ亦同シ

取扱人ヲ免職シタルハ其理由及ヒ受書ノ日付ヲ驛遞局長ニ報告シ且免職ノ旨ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

取扱人ノ手當ヲ増減シタルハ受書ノ日付ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

第十一條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ其理由及ヒ年月日ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

一 身元引受人變更ノトキ

二 取扱人又ハ身元引受人住所族籍氏名變更ノトキ

三 取扱人死亡又ハ逃亡ノトキ

第十二條 新ニ郵便受取所ヲ設置スルトキハ驛遞局長ヨリ所轄遞信管理局長ニ通牒スヘキニ付其通牒ヲ受クタルハ取扱人ヲ採用シ直ニ開所セシメ其開所ノ年月日ヲ驛遞局長ニ報告スヘシ

(書式略ス)

●訓令甲第二十三號

明治二十一年五月八日

郡役所、戸長役場

三等郵便局長ノ採用ニ關シ逓信管理局ヨリ照會又ハ依托アルトハ便宜處辨候様致スヘシ

●訓令甲第二十八號

明治二十一年六月一日

郡役所、戸長役場

郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人ノ採用ニ關シ逓信管理局ヨリ照會又ハ依托アルトハ便宜處辨候様致スヘシ

第二 電信

●乙第九十四號

明治八年十二月廿日

天長節其他御祭日等村市毎戸御國旗差出候處電信線路沿道ニ於テハ戸頭へ御國章ヲ奉ク候間自然電線ニ差障候場所モ往々有之哉ノ趣ニ付御國章建列ノ際電線障害不相成様注意可致旨電信頭ヨリ達セラレ候間此段相達候事

●番外達

明治十年二月十六日

各區々長へ

電信杭及電線等へ妨碍ノ義決シテ不相成旨兼テ御布告ノ趣モ有之人民熟知ニ可有之ノ慮或ハ等閑ニ心得居候者モ有之哉ニ相聞へ甚以テ不都合ノ事ニ候條決シテ心得違無之様精々注意可致此

旨更ニ相達候事

●丙第十七號達

明治十二年五月九日

郡 町 村

電信線へ雜物ヲ投掛ク其他障害ヲナスモノ取締方及該線近傍ニ於テ紙屑ヲ揚ク候義禁止ノ旨明治六年四月第百三十六號公達ノ趣有之爾來取締方相達置候處右ハ近來等閑ニ心得間々電線へ紙屑ヲ掛ク候モノ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候條自今一層注意シ幼少ノ者ハ父兄ニ於テ嚴重取締心得違無之様無洩可相示此旨相達候事

●丙第四十四號

明治十七年五月二十八日

郡 町 村

通路開設修繕等ノ爲メ電信線路ヲ變換シ又ハ電信柱ヲ移轉セシトテ請求スルトキハ調査ノ上不得止ニ出ルモノハ轉換可相成候得共其費用ハ都テ請求者ニ於テ支辨可致儀ニ付爲心得此旨相達候事

但家屋構造又ハ店頭商業ノ支障等ニテ電信柱ノ移轉ヲ請求スル分ハ此限ニアラス

●訓令乙第四十三號

明治二十一年九月十五日

郡 役 所

民有地内ニ建設ノ電信柱敷地手當金明細表ハ別紙密式ニ準シ其年一月ヨリ十二月迄ノ分ヲ翌年一月三十一日限り差出ス可シ

但從前ノ達示等抵觸ノ分ハ廢止ト心得ヘシ

(別紙)

明治何年何郡役所々轄民有地内電信柱敷地手當明細表

(〇印ハ朱書)

一合金何程

。此合金高ハ郡下一般其年分敷地手當高チ率クヘシ

田畑宅	地ノ部	山林野	澤ノ部	柱區別		本數		六箇月以下區別		小計
				本	本	數	金	數	金	
柱	柱	柱	柱	何	何	本	本	數	金	何
本	本	本	本	何	何	本	本	數	金	何
扣	扣	扣	扣	何	何	本	本	數	金	何
柱	柱	柱	柱	何	何	本	本	數	金	何
線	線	線	線	何	何	本	本	數	金	何
何	何	何	何	何	何	全	全	數	金	何
何	何	何	何	何	何	全	全	數	金	何

。一 第一欄名稱ニ適合セサルモノハ別ニ區畫ヲ設ケ記入スヘシ
 。一 平均ノ金員ハ八錢ヨリ多カラサルヲ要ス六箇月未滿ノ分ハ其半額ヲ超過スヘカラス
 右之通相違無之候也

年月日

知事宛

何郡長某印

●郡第二十號

明治二十三年十月十四日

郡役所(引佐龜玉郡ヲ除ク)

電信柱敷地手當金現金前渡取扱規則別紙ノ通り相定ム

電信柱敷地手當金取扱規則

第一條 郡長ハ所轄内電信柱敷地手當金各自請求書ニヨリ第一號書式ノ請求書ヲ作リ前年四月ヨリ次年三月迄ノ分ヲ其年四月三十日迄ニ現金前渡ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ

第二條 現金前渡ヲ受ケタル電信柱敷地手當金ハ他ノ現金前渡ヲ受ケタル金額ト交互現金ヲ流用支辨スルヲ得ス

第三條 前渡ヲ受ケタル現金ハ毎月精算整理シ明治廿三年四月規會第七號別冊第六號書式ニ準シ仕拂計算書ヲ調製シ(計算書表紙並ニ奥書自何月何日至何月何日トアルハ何年何月ト改ム) 證憑書類ヲ添へ前月分翌月十日迄ニ仕拂命令官ニ送付スヘシ(廿五年郡第十三號ヲ以テ追加)

第四條 仕拂計算書ヘ添付スヘキ證憑書類中領收證書ハ第二號書式仕譯書ハ第三號書式ニヨルヘシ

第五條 電信柱敷地手當金ノ科目ハ左表ニヨルヘシ

款	項	目
第三款 遞信費		
	第三項 遞信事業費	
		第十三目 電信線路保守費
第六條	前各條ニ掲グル外ハ總テ本年四月規會第七號違徴兵檢丁並ニ入營旅費寮見養育費窮民	

遞信及地理 電 報

救助費取扱規則第二條第三條第五條第六條第八條第九條第十條第十二條第十三條及第十四條ニ準據ス(廿五年郡第十三條ヲ以テ修正)

第三 船舶

●告示第四十四號 明治三十年五月廿六日

船舶検査法ニ依リ當廳ノ検査ヲ受クヘキ船舶ノ検査執行地ヲ定ムルコト左ノ如シ

駿東郡沼津狩野川岸
安倍郡清水港

●郡第十九號 明治二十九年十二月廿五日

郡 役 所

船舶取扱手續左ノ通相定ム

船舶取扱手續

第一條 郡役所ハ船舶札臺帳ヲ備置キ船舶札規則ニ據リ鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名船舶ノ番號及其ノ下付書換再授若ハ返納ノ年月日並ニ事由ヲ記載スヘシ

第二條 郡役所ニ於テ船舶札規則第二條ニ據リ件名書ヲ受理シタルトキハ其ノ船舶ニ就キ尺度

及積量測度規則ニ從ヒ之ヲ審査スヘシ

船舶札ニ記載シタル尺度積量ニ變更ヲ生シ其書換ヲ申請シタルトキハ郡役所ハ之ヲ審査シ必要ト認ムル場合ニハ其船舶ニ臨檢スヘシ

第三條 船舶札ニ記載スル長幅深總噸數登錄噸數ハ單位以下二位ヲ以テ限トス但長幅及深ハ尺ヲ以テ單位トス

第四條 船舶札規則第五條第二項ニ據リ件名書ノ證明ヲ申請シタルトキハ郡役所ハ之ヲ船舶札臺帳ニ照察シ誤謬ナシト認ムル場合ニハ件名書ニ郡役所印ヲ捺シ之ヲ交付スヘシ

第五條 郡役所ハ毎年一月十日及七月十日迄ニ附録書式ニ從ヒ前六ヶ月間ノ船舶ノ異動ヲ當廳ニ報告スヘシ

書式

船舶報告書(明治三十年七月)
第一 新ニ船舶札ヲ下付シタル船舶

西洋形船舶

船名	船種	定額	積載	尺	度	總噸數	登錄噸數	地名	製造年月	造船工氏名	所有者住所
船名	船種	定額	積載	尺	度	總噸數	登錄噸數	地名	製造年月	造船工氏名	所有者住所

計 艘

選信及地理 船舶

日本形船舶

船名	定製所	備数	積石数	製造地	製造年月	造船工名	所有者住所氏名
付年	付月	付日	付事由	船名	原船名		

計 第二 船鑑札ヲ書換ヘ下付シタル船舶

船ノ種類	船名	船鑑札書換年月日	所有者氏名
------	----	----------	-------

計 第三 船鑑札ヲ返納シタル船舶

船ノ種類	船名	船鑑札返納年月日	所有者氏名
------	----	----------	-------

備考

- 一 船鑑札下付事由ノ欄内ニハ新造外國船購入若ハ管轄官廳ノ變更等船鑑札ヲ下付シタル原因ヲ記載シ且管轄官廳ノ變更ニ係ルトキハ管轄官廳名ヲ記載スルヲ要ス
- 一 船鑑札書換事由ノ欄内ニハ書換ニ係ル新舊船鑑札面ノ事項且所有者ノ變更ニ係ルトキハ新所有者ノ住所氏名ヲ記載スルヲ要ス
- 一 船鑑札ヲ再授スルニ當リ其ノ書換之ニ伴フトキハ第二表ニ編入スヘシ
- 一 船舶ノ製造地名製造年月若ハ製造工長氏名明ナラサルトキハ其欄内ニ不詳ト記載スヘシ

●告第百三十二號

明治十七年七月四日

汽船公稱馬力算定方法左ノ通被相定候條此旨告示候事

公稱馬力算定方法

- 第一 冷涼器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ汽筒吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乗シ得數ヲ十個ニテ除シタルモノ
但汽筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
- 第二 冷涼器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ汽筒吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乗シ得數ヲ三十個ニテ除シタルモノ
但汽筒二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
- 第三 冷涼器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筒吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乗シテ相加ヘ其得數ヲ十個ニテ除シタルモノ
但汽筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ
- 第四 冷涼器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各汽筒吸錐ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乗シテ相加ヘ其得數ヲ三十個ニテ除シタルモノ
但汽筒二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

●郡第十三號 明治二十二年十一月九日

郡役所

西洋形船々免狀ハ明治二十二年第十九號布告ニヨリ航海公證ヲ廢シ授與セラレシモノ故外國航ノ船舶ハ勿論内國航通ノモノト雖モ各船其船内ニ保存スヘキモノナルニ往々船主ノ許ニ留置船内ニ所持セサルモノ有之不都合ニ付自今右等ノ所爲無之様所轄西洋形船持主へ懸篤説諭スヘシ

●丙第四拾八號 明治二十三年十月二日

郡 町 村

管内人民所有ノ諸船持主ニ於テ國郡町村姓名等記載ノ木札ヲ製シ打付置ヘキ旨明治十年一月甲第十號ヲ以テ及布達置候處往々附記セサル者有之哉ノ趣自然流失等ノ節官民ノ手數不少不都合ノ儀ニ付自今心得違ノ者無之様無洩告示スヘシ此旨相違候事

●訓令甲第三十二號 明治二十二年六月一日

郡役所、市役所、町村役場

毎年十二月三十一日ニ於ケル西洋形船々長運轉手機關手水夫等ノ現員ハ明治二十二年以降左ノ報告書式ニ依リ調査シ町村役場ハ翌年二月十日迄ニ郡役所へ報告シ郡役所ハ之ヲ列記調製シ郡市役所トモ全月廿五日迄ニ當廳へ差出スヘシ(廿六年甲第廿八號ヲ以テ改正)

但明治十八年丙第二十六號違ハ廢止ス

(報告書式客ス)

●甲第四拾貳號 明治十七年五月六日

明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止事務左ノ浦役場ニ於テ爲取扱其證書用紙ハ同場ニ於テ定價ヲ以テ拂下ク候條此旨布達候事

浦 役 場

- 一 伊豆賀茂郡下田町 下田港
- 一 伊豆國賀茂郡網代村 網代港
- 一 伊豆國賀茂郡松崎村 松崎港
- 一 駿河國有渡郡清水町 清水港
- 一 同 國益津郡城ノ腰村 燒津港
- 一 遠江國榛原郡靜波町 川崎港
- 一 同 國同 郡地頭方村 地頭方港
- 一 同 國山名郡福田村 福田港
- 一 同 國長上郡掛塚村 掛塚港
- 一 同 國敷知郡舞坂宿 濱名港

第十九號甲
以テ加
港ヲ加

第十七號甲
以テ加
港ヲ加
三十一號
代示第一
十號第一
以テ加
港ヲ加

- 西洋形船海員雇入證書用紙 大形 一枚 金四錢
- 同 小形 同 金貳錢
- 同 雇止證書用紙 同 金貳錢

●訓令甲第七號 明治二十二年二月二十八日 郡役所、戶長役場、浦役場

西洋形商船海員雇入雇止證書用紙拂下代金ハ明治二十一年度ヨリ當縣主管ノ第二部歳入トシテ納付スヘシ

但明治二十年ニ達第十九號別冊第八號附録各省主管第二部歳入科目表逓信省主管ノ科目ハ刪除ス

●乙第六十三號 明治十七年八月十一日

各 郡

明治十六年第四十五號ヲ以テ海員雇入雇止手数料收入ノ備布告相成候ニ付テハ右手敷料表ハ別紙雛形ニ倣ヒ關製シ七月十日限り差出スヘシ此旨相達候事

(別紙雛形客ス)

●達會第一號 明治十九年十月六日

賀 茂 郡

其所轄賀茂郡下田町及全郡網代村浦役人ニ別紙ノ通相達候條此旨相心得違方取テフヘシ

西洋形船海員雇入雇止證書用紙受拂事務取扱手續

第一條 海員雇入雇止證書及免狀検査證用紙ハ豫而概算ヲ以其浦役場ト交付シ置モノトス但用紙欠乏スルルハ所轄郡役所ヲ經テ當廳ヘ請求スヘシ

第二條 前條用紙雇入者被雇者ヨリ拂下ヲ出願スルルハ左ノ價格ヲ以テ拂下クヘシ但免狀検査證用紙ハ無代トス

一 海員雇入證書用紙

大形 壹枚 金四錢

一 全

小形 壹枚 金貳錢

一 海員雇止證書用紙

壹枚 金貳錢

第三條 前條用紙拂下ク代金ハ其都度別紙雛形受拂明細表添付所轄郡役所ヘ送納スヘシ

第四條 海員雇入雇止事務取扱手續第六條ニ依リ雇止ノル浦役場ニ保存スヘキ證書寫ハ其代價ヲ徴收セス浦役場ニ於テ無代支拂ニ相立ヘクニ付右受拂明細表面雇止用紙拂下ク高及代金ノ欄内中央ヘ一線ヲ設ケ記入スヘシ

但雇止用紙拂下枚數ニ對シ無代拂ノ方枚數超過セシモノアルルハ其理由該欄ノ左項ヘ記入スヘシ

明治何年何年何日 西洋形船海員雇入證書用紙受拂明細表

證書用紙種別	何年何月何日	受取	高	小	計	拂下高	拂下代金	殘	高
大形雇入用紙	何	何	何	何	何	何	何	何	何
小形雇入用紙	何	何	何	何	何	何	何	何	何
雇止用紙	何	何	何	何	何	何	何	何	何
(無代價ノ分起) 但何々ノ理由ニ依リ無代價ノ分起過									
免狀検査證用紙	何	何	何	何	何	何	何	○	何
總計	何	何	何	何	何	何	何	何	何

右之通相違無之候也

何國何郡何村
浦役人

明治何年何月日

何ノ某印

宛

●費第一八號

明治廿五年四月廿九日

敷知、長郡、磐田、山郡、榑原郡、有波郡、賀茂郡、上濱名郡、名賀郡、安部郡、那賀郡

浦役場へ交付ノ海員雇入雇止證書用紙明細表左ノ書式ニ準シ取調毎年四月十日限り差出スヘシ

明治何年度西洋形船海員雇入雇止證書用紙拂下明細表

何村役場

種別	拂下高	拂下代金	浦役場無代支拂高
大雇入證書用紙	參枚	拾貳錢	貳枚
小雇入證書用紙	貳枚	四錢	五枚
雇止證書用紙	貳枚	四錢	六枚
計	七枚	貳拾錢	拾參枚

右之通相違無之候也

明治何年何月日

何郡長

氏

名印

知事宛

●號外

明治十七年五月二十一日

各

郡役場

日本形西洋形^{五十石未満并}船^{噸位ヲ除ク}難破及行方知レサル船舶ハ(難破船ハ遭難地及其近傍ノ租國相添ヘ)毎

季別紙離形ニ據リ取調上半季分ハ其年七月廿日下半季分ハ翌年一月廿日限り届出ツヘシ此旨相違候事

但難破ノ次第積荷ノ摸様又ハ搜索ヲ要スル場合ニ於テハ其時々届出ツヘシ

(別紙離形容ス)

●甲第十號

明治廿九年五月十日

郡役所、市役所、警察署、町村役場

海難取調書中漂流ト和船若ハ漁船トノ衝突ニ關スル事項ヲ調査スルニ和船若ハ漁船ニ於テ成規ノ燈火ヲ標示セサルニヨリ此災害ヲ惹起スルモノ十中八九ニ居レリ元來衝突豫防法ハ此等ノ災害ヲ豫防セン爲メ制定セラレタルモノナルニ拘ラス和船若ハ漁船乗組員ニ在テハ往々該法ノ何タルヲ辨知セサル者アリテ遂ニ船舶ヲ破損シ生命貨物ヲ亡失シ加之自己曲者トナリテ訴アル所ナキニ至ル寔ニ慨嘆ニ堪ヘサル次第ニ付向後警察官又町村長等ニ於テ右等營業者ニ對シ其業務上該法ノ遵守セサル可ラサル所以ヲ懇到諭告シ災害ヲ未然ニ防除セシムル様注意スヘシ

●告示第四十號

明治二十五年七月廿三日

凡ソ登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若クハ外國ヨリ買入タルモノアルトキハ海上運輸ニ係ル調査上必用ノ諸件ニ關シ海軍參謀部ニ於テ該船舶ニ臨檢調査候旨海軍大臣ヨリ速相來候條其旨心得ヘシ

但既ニ該調査ヲ了リタル船舶ト雖モ示後其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査セラルヘシ

●告示第三十二號 明治廿九年五月一日

明治廿五年七月告示第四十號海軍參謀部ニ於テ船舶臨檢ノ件ハ自今海軍軍令部ニ於テ臨檢調査可相成ニ付此旨各船主ヘ告示ス

●甲第十三號 明治廿九年七月廿二日

軍事上運輸ニ係ハル必要ノ諸件調査ノ爲メ參謀本部員ヲ派遣シ各港ノ漁船ニ就キ實地調査セシムルコト可有之旨陸軍大臣ヨリ被達候條此旨豫メ各船主ニ達シ置クヘシ

●甲第一號 明治二十四年一月廿日

郡役所、市役所、警察署、警察分署、町村役場
内外國艦船等危難ニ罹リタル節報告方左ノ通海軍大臣ヨリ達相成候條船舶會社及船主ヘハ所屬町村役場ヨリ通達スヘシ

内外國艦船ニシテ本邦沿岸ニ於テ危難ニ罹リタルモノアルトキハ島廳郡區役所町村役場警察署等ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告スヘシ又軍艦其附近ニ在ルハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ
船舶會社若クハ船主其所有ノ船舶危難ニ罹リタルトキハ該會社若クハ船主ヨリ電報ヲ以テ海軍

省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告シ又軍艦其附近ニ在ルハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ
前兩項トモ海軍艦船ノ救護ヲ要スルニ及ハスト思考スルトキハ報告セサルモ妨ナキコト、心得ヘシ

第四 海港及標識

●告示第七十九號 明治三十年八月三日

明治三十年七月勅令第二百四十號ニ依ル清水横濱稅關支署監視區域左記之通相定メ本月一日ヨリ事務開始候旨横濱稅關長ヨリ通牒アリ

清水横濱稅關支署監視區域

清水灣北與深川口ヨリ南
出鼻出來畑ニ至ル一圓

●縣令第七十六號 明治二十一年十二月十八日

船舶繫留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ標識ヲ設置若クハ變更セントスルキハ左ノ書式ヲ具シ願出ヘク廢止スルキハ其旨届出ヘシ
但從前設置ノ分モ本文ニ準シ更ニ願出ヘシ

- 一 標識設置ノ位置及其近傍ノ地圖
- 一 標識ノ圖面及其構造方法

●農第九百八十八號

明治二十年十一月七日

沿海郡役所

私設海路標識統計様式本年ヨリ左ノ雛形ニ倣ヒ調製シ翌年二月十日迄ニ當廳へ差出スヘシ

燈標通號		維持費		合計		燈入高		入港船舶		看守員
給料	燈油代	修繕費	雜費	合計	收入	高	日本形	西洋形	噸及石數	看守員
何處何處										
燈竿合計										
合計										

第一 明治何年分私設燈標統計表

何郡役所

燈標通號		維持費		合計		燈入高		入港船舶		看守員
給料	燈油代	修繕費	雜費	合計	收入	高	日本形	西洋形	噸及石數	看守員
何處浮標										
何處立標										
合計										

第二 明治何年分私設燈標統計表

何郡役所

第五 地理

●告示第五十五號

明治二十七年七月十三日

明治二十二年ノ法律第十九號土地收用法第七條ニ依リ土地立入ノ認可ヲ受クントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ出願スヘシ

- 一 工事起業者ノ住所氏名
- 二 工事ノ種別(某所ヨリ某所ニ至ル何道路又ハ河川等改良若クハ新設工事ノ別)
- 三 立入ヲ要スル郡市町村大字名
- 四 地圖(舊線路並ニ新設見込線及郡市町村大字ノ區域並ニ近傍ノ景況ヲ記入スヘシ)
- 五 立入ヲ要スル期限

●乙第十五號

明治十七年三月二十八日

各部

逓信及地理 地理

官有地拜借満期ニ係ルモノ往々返地届出無之向モ有之一般取締上不都合不悞候條満期ノモノハ其時々爲届出候様可致此旨相違候事

●縣令第七十四號 明治二十九年十月十六日

官有土地水面使用規程左之通相定ム

官有土地水面使用規程

第一條 官有土地市町村ニ於テ修理保存役ヲ負水面ニ係ル河川湖海潭池用ヲ使用官廳私有土地水面ニ係ルセントスルモノハ左ノ事項ヲ具ヘタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地元市役所又ハ町村役場使用セントスル土地水面ノ其内ノ一役所又ハ役場へ差出シ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ

但使用セントスル土地水面ニ土木工事ヲ施サントスルモノハ明治廿九年十月十縣令第七十三號土木施行規則ニ依リ別ニ出願ヲ要スト雖トモ豫メ其設計ノ概略ヲ掲タル書面並其略圖ヲ添付スヘシ

一願書ニ記載スヘキ事項概テ左ノ如シ

一出願土地水面所在ノ郡町村大字名、字名、並其土地水面ノ地番、河川ニ關係アルモノハ河川名、地目、反別、(河川湖海等ニ係ルモノハ使用面積)

期限一ヶ年以上ノモノハ

一反歩當リ

一ヶ年ノ料金

一 使用料金同一ヶ年未満ノモノハ其月數ニ對スル額

同一ヶ月ノ料金

同一ヶ月未満ノモノハ其日數ニ對スル額

同一日ノ料金

一 使用期限

一 使用目的

二 圖面ニ記載スヘキ事項概テ左ノ如シ

一出願土地水面ノ字名、地番、河川ニ關係アルモノハ河川名、地目、反別、又ハ面積、

區域少許ヲ要ス

一 隣地(河川湖海等ニ係ルモノハ水面ニ接續スル陸地)ノ字名、地番、地目、反別、地價

一 近傍ノ景况(河川湖海等ニ係ル堤防アル場合ニハ其堤防ニ對スル距離位置等)

第二條 地元又ハ關係市町村長前條ノ願書ヲ受付ケタルトキハ其市町村ノ故障ノ有無ヲ審査シ

關係市町村アルトキハ其市町村長ノ意見ヲ聽キ支障有無共願書ニ與書シ關係市町村長ニ於テ支障ノ意見アルトキハ其意見書ヲ添付シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外市ニ在リテハ縣廳へ町村ニ在リテハ所轄郡役所ヲ經由シテ縣廳へ進達スヘシ

土地水面所轄外ノ郡市役所ニ於テ前項ノ願書ヲ受付タルトキハ土地水面所轄郡ノ市役所ニ回付シ縣廳へ進達スヘシ

第三條 前條ニ依リ願書ヲ受付ケタル市町村長ヨリ意見ヲ聽キタルトキハ關係市町村長其照會ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ支障ノ有無共回答スヘシ

願書ヲ受付ケタル市町村長ニ於テ其市町村ノ故障ノ有無ヲ審査スルモ亦前項期限ニ依ル

第四條 前條期限内ニハ關係市町村長ヨリ回答ヲ爲サルトキハ願書ヲ受付ケタル市町村長ハ其旨ヲ副申シ速ニ願書ヲ進達スヘシ

第五條 土地水面使用ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ區別ニ從ヒ受書ヲ調整シ圖面ヲ添ヘ指令到達ノ日ヨリ十四日以内ニ差出スヘシ

一 官屬公有土地水面使用ノ許可ヲ得タル者ハ第一號書式ノ受書差出スヘシ但堤塘、道路、並木敷使用ノ許可ヲ得タル者ハ第二號書式ノ受書差出スヘシ

二 官屬私有土地水面借用ノ許可ヲ得タル者ハ第三號書式ノ受書差出スヘシ
前項第一ノ但書及第二ニ記載セル土地水面ニ付テハ時宜ニ依リ契約書ヲ徴スルコトアルヘシ其差出期限ハ前項ニ同シ

本條期限内ニ受書又ハ契約書ヲ差出ササルトキハ許可ノ効ヲ失フモノトス
第六條 受書差出シタルトキ又ハ契約締結シタルトキハ其土地水面ノ引渡シ方ヲ所轄郡市役所ニ請求スヘシ

第七條 料金上納方ハ明治廿四年三月縣令第十九號官有地諸收入金徵收規程ニ依ルヘシ

第八條 官有土地水面ノ使用人ハ其土地水面ニ損害ヲ加フカラサルハ勿論其區域内ニアル官有物件ノ保存上障害アルヘキ所爲ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 官有土地水面ノ使用人ハ縣廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其使用セル土地水面ノ原形ヲ

變シ若クハ當初ノ目的以外ニ轉用スルコトヲ得ス

第十條 官有土地水面ノ使用人ハ縣廳ノ許可ヲ得ルニアラサレハ其土地水面ノ使用權借用權ヲ擔保貸付ニ供シ又ハ他ニ移スコトヲ得ス

第十一條 官有土地水面ノ使用人ハ其使用期限滿期ニ至リタルトキハ縣廳ヘ届出返還スヘシ

第十二條 官有土地水面ノ使用人ハ其土地水面返還ノ場合ニ於テハ左ノ期限内ニ該區域内ニ現存スル私有物ヲ除却シ當初ノ目的ニ依リ開墾シタルモノ及特ニ現狀ノ儘返還ヲ許シタルモノヲ除クノ外總ヘテ原形ニ復シ縣廳ヘ届出ヘシ

但急速私有物ヲ除却シ又ハ原形ニ復セシムルノ必要アルトキハ本條ノ期限ヲ短縮スルコトアルヘシ

一 行政廳ヨリ返還ヲ命シタルトキハ違書到達ノ日ヨリ起算シ三十日以内

二 使用人又ハ借受人ノ申出ニ依リ期限内ニ於テ返還ヲ許可セシトキハ其指令到達ノ日ヨリ起算シ三十日以内

三 期限滿期ノモノハ期限内

地元又ハ關係市町村長本條ノ届書ヲ受領シタルトキハ實際届出ノ如ク履行セシヤ否ヲ調査シ其旨與書スヘシ

第十三條 期限滿期後引續キ官有土地水面ヲ使用セントスルモノハ本規程第一條ノ手續ニ依リ期限内更ニ出願スヘシ

第十四條 明治二十年八月縣令第六十八號街路取締規則ニ據リ國道及國道並木敷ノ使用ヲ所轄警察署ニ出願スルモノハ此規程ニ據ルノ限リニアラス

第一號書式

證券印紙

御受書

(命令書ノ全文ヲ掲クヘシ)

右御命令ノ條項遵守可仕候依テ保證人連署御受書差上候也

年月日

何國何市何町 大字何

何番地

使用人

何番地

某印

何國何市何町 大字何

何番地

保證人

何番地

某印

靜岡縣知事宛

第二號書式

證券印紙

御受書

何國何市何町 大字何

字何

何番地先
何官有地籍

(國道)(國道並木敷)ノ内

一 何反別何程

一 夕年使用料金何程

使用目的何々

使用期限明治何年何月ヨリ全何年何月迄

右使用ノ義奉願候處明治何年何月何日何第何號ヲ以テ御許可相成候ニ付テハ明治何年縣令第何號官有土地水面使用規程ノ條項ハ勿論左ノ事項遵守可仕候依テ保證人連署御受書差上候也

何國何市何町 大字何

何番地

使用人

何番地

某印

何國何市何町 大字何

何番地

保證人

何番地

某印

靜岡縣知事宛

第一 使用期限中ト雖モ法律命令ノ御施行ニ依リ又ハ公益上其他貴廳ニ於テ必要ト認メラル

第二 使用期限中ト雖モ法律命令ノ御施行ニ依リ又ハ公益上其他貴廳ニ於テ必要ト認メラル

通信及電報

場合ニハ何時ニテモ明治何年縣令第何號官有土地水面使用規程(以下單ニ官有土地水面)若クハ本書ニ掲載ノ事項ヲ増減變更セラレ又ハ使用地ノ全部若クハ一部ノ返還ヲ命セラル、モ異議無之候

第三 官有土地水面使用規程若クハ本書ニ掲載ノ事項ニ違背シタルトキハ之ヨリ生シタル損害ヲ賠償可仕ハ勿論使用地ノ返還ヲ命セラル、モ異議無之候

第四 第二項第三項ノ御處分ニ依リ使用地ヲ返還シ又ハ權利上ニ變更ヲ來タシ爲メニ損失アルモ補償等一切請求仕間敷候

第五 使用年期中ト雖モ縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ施行セラルヘキ土木工事若クハ水害防禦等ノ爲メ必要アル場合ニハ御係吏員又ハ右關係人ハ何時ニテモ使用地ノ區域内ニ立入り若クハ一時私有物ノ除却ヲ命セラルモ異議無キハ勿論之レカ爲メ損失アルモ補償等一切請求仕間敷候

第六 官有土地水面使用規程第十二條ノ期限内ニ一私有物ヲ除却セラルトキハ貴廳ニ於テ之ヲ執行セラル、モ異議無之且其費用ハ御指揮次第通達ナク御指示ノ者ヘ納付可申候

第七 使用人ニ於テ第三項ノ賠償ヲ爲サス又ハ料金ノ上納ヲ怠リ若クハ前項ノ納付ヲ爲ササルトキハ保證人ニ於テ賠償可仕候

右之通り
第三號書式

證券
印紙

御受寄

何國何市何町何大字何字何

何番官有地
一 何反別何程

一々年借用料金何程
借用目的何々

借用期限明治何年何月ヨリ至何年何月迄
滿何々年期

右借用ノ義奉願候處明治何年何月何日何第何號ヲ以テ御許可相成候ニ付テハ明治何年縣令第何號官有土地水面使用規程ノ條項ハ勿論左ノ事項遵守可仕候依テ保證人連署御受寄書上候也

何國何市何町何大字何	何番地
借用人	何番地
何國何市何町何大字何	何番地
保證人	何番地
	某印
	某印

第一 借用地ノ保存修繕並ニ之ニ要スル費用ハ總テ負擔可仕候
第二 借用期限中ト雖モ法律命令ノ御施行ニ依リ又ハ公益上其他貴廳ニ於テ必要ト認メラルル場合ニハ何時ニテモ明治何年縣令第何號官有土地水面使用規程(以下單ニ官有土地水面)若クハ本書

靜岡縣知事宛

借用及地籍

ニ掲載ノ事項ヲ増減變更セラレ又ハ借用地ノ全部若クハ一部ノ返還ヲ命セラル、モ異議無之候

第三 官有土地水面使用規程若クハ本書ニ掲載ノ事項ニ違背シタルトキハ之ヨリ生シタル損害ヲ賠償可仕ハ勿論借用地ノ返還ヲ命セラル、モ異議無之候

第四 第二項第三項ノ御處分ニ依リ借用地ヲ返還シ又ハ權利上ニ變更ヲ來タシ爲メニ損失アルモ補償等一切請求仕間敷候

第五 官有土地水面使用規程第十二條ノ期限内ニ高一私有物ヲ除却セス又ハ原形ニ復セザルトキハ貴廳ニ於テ之ヲ執行セラルルモ異議無之且其費用ハ御指揮次第運轉ナク御指示ノ者ハ拂渡可申候

第六 借用人ニ於テ第三項ノ賠償ヲ爲サス又ハ料金ノ上納ヲ怠リ若クハ前項ノ補償ヲ爲サザルトキハ保證人ニ於テ賠償可仕候
右之通り

明治廿四年十二月廿七日

郡役所、市役所、町村役場

●甲第四十一號 官地拂下貸下及水面埋立并使用等出願者アリタルトハ願書ニ願地市町村名字番地目反別料金年季使用目的等ヲ詳記セシメ市町村長ニ於テ該地支障ノ如何ヲ調査シ其事由ヲ具シ當廳へ願書ヲ提出スヘシ

●縣令第十九號 明治廿四年三月廿九日

但本文ノ願書ニハ願地ハ勿論接續地ノ實況ヲ詳記セル地圖ヲ添付セシムヘシ

官有地諸收入金徵收規程左ノ通知正シ明治廿四年四月一日ヨリ施行ス

但明治十九年九縣令第十八號官地竹木諸產物拂下代及借地料土石堀埋料徵收規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

官有地諸收入金徵收規程

第一條 官有地ヨリ生スル諸收入金ハ此規程ニ依リ徵收ス

第二條 諸貸付料諸賣拂代ノ徵收期ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ニ屬スル料金及ヒ代金ハ甲年四月ヨリ乙年三月マテテ一期トシ甲年四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ貸付又ハ賣拂契約ヲ設定シタル者ハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物賣拂契約ニ屬スル代金ハ其年一月ヨリ十二月迄テ一期トシ其年一月中ニ徵收ス但一月以後新ニ賣拂契約ヲ設定シタルモノハ初期分ニ限り契約設定ノ日ヨリ三十日以内ニ徵收ス

第三項 月又ハ日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ニ屬スル料金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件使用前ニ徵收ス

第四項 隨時ノ賣拂契約ニ屬スル代金ハ契約設定ノ日ヨリ三十日以内物件交付前ニ徵收ス

第三條 有期設定ニ屬スル諸貸付料及ヒ諸賣拂代ノ徵收額算定方ハ左ノ各項ニ據ル

第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ノ四月ニ起リ若シタハ三月ニ滿期トナルモノハ全年分ヲ算定シ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ滿期トナルモノハ月割ヲ以テ算

定ス

第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ハ初期終期ヲ同ハス總テ全年分ヲ算定ス
 第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ハ初月終月ヲ同ハス總テ全年分ヲ算定ス
 第四條 有期設定ニ屬スル諸貸付及ヒ諸賣拂契約ヲ該期限中解除シタルハ其料金及ヒ代金免除方ハ左ノ各項ニ據ル

- 第一項 年ヲ以テ設定シタル諸貸付及ヒ土石賣拂契約ヲ官ノ都合ニ依リ解除シタルハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルハ其翌月ヨリ免除ス
- 第二項 年ヲ以テ設定シタル諸產物ノ賣拂契約ヲ官廳又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルハ該期ニ物件ヲ採取セシヤ否ヤヲ調査シ採取前ナレハ其年ヨリ代金ヲ免除シ採取後ナレハ物件ノ年額數量ヨリ採取數量ヲ控除シタル殘數量ニ應シテ免除シ對手人ノ契約違反又ハ季節物ノ賣拂ニシテ解除ノ當時既ニ季節經過シタルハ其翌年ヨリ免除ス
- 第三項 月ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ官廳ノ都合ニ依リ解除シタルハ其月ヨリ免除シ對手人ノ都合又ハ契約違反ニ依リ解除シタルハ其翌月ヨリ免除ス
- 第四項 日ヲ以テ設定シタル諸貸付契約ヲ官廳又ハ對手人ノ都合ニ依リ解除シタルハ其日ヨリ免除ス

●丁第貳號 明治二十二年七月十九日 市役所、町村役場

民有地ノ地種變換願(市町村長ノ名ヲ以テ)又ハ買上地ニ係ル代金請求書ハ一筆限リ、奉書地目及別地價所有者ヲ土地臺帳ニ照査主務者之ニ捺印スヘシ

●郡第二十一號 明治二十六年十二月九日 郡役所

免租地ノ典廢願民有地ノ買上又ハ上地及ヒ土地收用市町村ノ字名改稱又ハ區域變更ニ係ル簿書及官有道路堤塘等直接公用廢止上申書自今左ノ手續ニ依リ處理スヘシ
明治廿八年十一月第五號ヲ以テ本文中ニ追加

但明治廿五年八月郡第十五號ハ廢止ス

- 一 左ニ掲クル簿書ヲ受理シタルトキハ收稅署ヘ送付シ土地臺帳ノ對照ヲ受ケタル上委任外ノモノハ本廳ヘ差出シ委任ニ屬スルモノハ既定ノ手續ニ依リ處分シ其指令原簿書ハ收稅署ヘ回覽ニ付スヘシ

免租地ノ典廢願

民有地ノ買上又ハ上地及ヒ土地收用ニ關スル一筆限簿書

市町村ノ字名改稱又ハ區域變更ニ係ル簿書官有道路堤塘等直接公用廢止上申書(明治二十八年十一月第五號ヲ以テ追加)

- 二 前項ノ指令原簿書ハ租稅調定ニ關スル證憑書類トシテ翌年二月十五日限收稅署ヘ送付スヘシ

三 委任ニ屬スル土木工事漬地ノ賣買ニ係ルモノハ登記簿ノ旨ヲ收稅署ヘ通知スヘシ

●丙第六十四號 明治十六年六月二十一日 郡 町 村

退々全國ニ水準測量網ヲ擴張其線路每一里ニ確定ノ水準點ヲ永久ニ保存候爲メ標石ヲ建設可致ノ處差向キ當縣下各地ヘ建設着手致シ候就テハ就乘ノ際直ニ出張官ヨリ其地主ニ致協議尙其他

郡役所及ヒ警察署等へ差支ノ有無照會可致旨陸軍省ヨリ被相違候條諸事不都合無之様可取計此旨相違候事

但本文標石ノ儀ハ水位上ニ於ル各地ノ高低ヲ確定シ以テ水準測量百般ノ基礎ニ供スル重要ノ者ニ有之候間標石建設ノ上ハ其保存方篤ク注意ハ勿論人民ヘモ其旨諭達致シ置クヘシ

●告示第五十二號 明治二十五年十一月十一日

縣下皇宮地附屬地ニシテ社寺土地ニ係ル分該社寺ヨリ委託出願スルモノハ御料局静岡支廳所轄出張所ヲ經由シ可差出旨御料局静岡支廳長ヨリ通知相成タリ

第九編 衛生

第一 衛生事務

●乙第十號

明治十三年三月廿九日

各 郡

衛生事務概目別紙ノ通相定候條自今ニ照準シ事務取扱其報告申報及ヒ成規ニ依リ取扱フモノノ分ハ渾テ其意見ヲ本廳ニ開陳シ指揮ヲ待テ施行スヘシ此旨相違候事

(別紙)

衛生事務概目

醫事取締之事

第一 醫師獸醫製藥家及藥舖産婆鍼灸治ノ取締ヲナシ其開閉飛圖ハ成規ニ依リ之レヲ取扱フ事

第二 毒藥劇藥賣藥ノ販賣及調合ハ成規ニ依リ之カ取締ヲナス事

第三 贗敗藥ノ販賣及調合ニ注意シ之カ取締ヲナス 飲食料取締之事

第一 各町村ノ飲水ニ注意シ井或ハ水道ノ位置構造水源ノ掃除方等有害ヲ認ルルハ之カ改良ヲ謀ル事

第二 廢敗置造ノ飲食物ニ注意シ之カ取締ヲナス事 清潔法注意之事

第一 市街道路溝渠等ノ修繕及掃除方ニ注意シ其方法ヲ謀ル事

第二 廁所芥留等ノ掃除及其修繕ニ注意シ位置構造不可ナルモノハ之カ改良ヲ謀ル事

第三 學校病院囚獄及市塲製造塲畜塲屠塲負干塲旅舍併家劇塲寄席座敷湯屋温泉塲等衛生上利害ニ注意スル事

第四 墓地ノ位置經界ヲ撰ミ及埋葬火葬ノ手續キ方法ヲ謀ル事

第五 埋葬ノ地形火葬塲ノ構造ニ注意シ取締ノ方法ヲ謀ル事 病災豫防之事

第一 各種傳染病ノ發見ニ注意シ速ニ之カ豫防ニ着手スルコト但病勢盛ナルニカウテハ町村衛生委員ノ具狀ニ依リ町村會ノ公議ヲ以臨時衛生委員ヲ附置スルヲ得

- 第二 町村衛生委員ニ於テ施行スル傳染病豫防消毒法患者離隔法及患者死者ノ取扱方等ノ當否ヲ檢察スル事
 - 第三 避病院ノ位置ヲ撰ミ及其入院患者死者取扱ノ當否ヲ檢察スル事
 - 第四 地方病ノ有無類別及其地ノ燥濕寒濕人民ノ常習ニ注意スル事
 - 第五 家畜傳染病ヲ發見スルハ速ニ之カ豫防消毒法ニ着手スル事
 - 第六 各町村ニ種痘醫ヲ置キ種痘普及ヲ計ル事
- 窮民救濟之事
- 第一 公私立病院及貧民醫院醫院癩癧院癩癧院等ノ設立ヲ謀ル事
 - 第一 郡醫町村醫配置ノ方法ヲ謀ル事
- 報告之事
- 第一 町村衛生委員ノ差出スル申報書及月表ヲ取纏メ其時々縣廳へ差出ス事
但月表ハ翌月十五日限リ差出スヘシ
 - 第二 一年中施行セル郡内衛生上ノ全況ヲ覽録シ考案ヲ付シ縣廳ニ差出スヘシ
 - 第三 病災豫防第一ノ但書ニ掲グル場合ニ於テ各町村臨時衛生委員ヲ増置セシムルハ其事由姓名ヲ縣廳へ上申スヘシ
- 雜件
- 第一 衣食住其他習俗ニ因テ健康ヲ害シ或ハ傳染病ノ媒介トナルモノ等ニ注意シ漸次除害ノ方法ヲ謀ル事
 - 第二 温泉浴場ノ構造及浴法等ニ注意シ有害ヲ認ムルハ其改良ヲ謀ル事
 - 第三 天然生ノ藥物有無及其產地多寡等ヲ取調申報スル事

第四 天然生ノ藥物ヲ發見セハ被害ナキ様速ニ處分シ申報スル事

●乙第十一號 明治十三年三月二十九日

各 郡

今般乙第十號ヲ以各郡衛生事務概目相連候ニ就テハ衛生事務擔當吏員ヲ定メ其官等姓名可届出此旨相連候事

●號外 明治十五年六月二十二日

郡町村 衛生委員

衛生通信手續別紙ノ通相定候條此旨相連候事

(別紙)

衛生通信手續

- 第一條 本縣衛生課ハ各郡役所衛生課及各町村戸長トノ間ニ通信ノ道ヲ開キ郡町村ヨリ通信スル所ノモノヲ統括シテ之ヲ内務省衛生局ニ報告スヘキニ付郡役所衛生課及ヒ町村戸長ハ第六條ニ依リ事實ノ觀察ヲ密ニシ通信スルコトヲ怠ル可ラス
- 但町村戸長ノ通信ハ郡役所ヲ經由スヘシ
- 第二條 通信便利ノ爲數町村連合シ戸長申合セ通信擔當者ヲ定ムルコトヲ得但擔當者ヲ定ムルハ其旨届出ツヘシ
- 第三條 通信スヘキ事項ハ各町村互ニ相報シ勉メテ其情況ヲ審ニスヘシ

明治十八年八月廿八日
衛生委員
外
八月廿八日
衛生委員
外
八月廿八日
衛生委員
外

但事ノ數町村ニ涉ルモノアルハ速署ヲ以テ通信スルコト得

第四條 郡役所衛生課ニ於テハ町村ノ通信ヲ取調ヘ其事項ニ付意見アル時ハ之ヲ附記シ事ノ發
急ヲ測リ毎週毎月若クハ毎三ヶ月之ヲ縣廳衛生課ニ送ルヘシ

但至急ノ事件ハ其時々申報スヘシ

第五條 縣廳衛生課ニ於テハ各地ノ通信ヲ取調ヘ其利害ヲ察シ其輕重ヲ測リテ之ニ處スルノ方
法ヲ設ケ町村若クハ特ニ關係町村ニ報告スヘシ

第六條 通信スヘキ事項ハ概テ左ニ列記スル者ニ準スヘシ

但傳染病者報知及出產死亡等ノ月報ノ如ク別ニ例規アル者ハ此限ニ在ラズ然レモ或ハ其例
規アル報告ト此通信ト重複スル事項アルモ妨クナシ

第一 郡町村若クハ其一部分ノ面積人口幾許其住民ノ職業農工商若クハ遺種等ノ區別如何ニ
シテ一ヶ月或ハ幾週間ノ出產死亡流產病患ノ數前年ニ比シ又ハ各町村互ニ相比スルニ其多
寡如何而シテ其死亡ハ男女年齡ニ從ヒ多少アルハ何病ニ因ルカ又ハ死亡ニ至ラサルモ何病
ニ罹ル者多キカ及其原因ノ探知スヘキ者(地形寒暖晴雨其他衣食住習慣等ノ景況)之ニ關係
アル衛生上ノ全况

第二 山林ヲ伐リ水路ヲ換ヘ田圃ヲ廢シテ住宅ト爲シ湖海ヲ埋メテ耕地ト爲ス等人爲ニ係リ
テ地形ヲ變シ空氣或ハ飲水ヲ汗シ此ヲ爲メニ疾病ヲ誘發シ若シクハ死亡ヲ増加シタル等又

ハ荒蕪ヲ修良シ或ハ溜水ヲ疏通シ沼池ヲ汲濁スル等ノ爲疾病死亡ノ數ヲ減シタル等ノ景
況

第三 脚氣間歇熱癩毒癩病其他肺癆ノ如キ較著ナル疾病ノ流行増減發見及其原因療法治癒死
亡等又ハ各町村互ニ相比シ或ハ之ヲ往年ニ比シ其多寡増減等

第四 何病ニ拘ハラス其性質常ニ異ナルカ又ハ傳染若クハ流行ノ兆アル者ハ其景況ノ詳細

第五 傳染病者アルハ其景況ノ詳細

第六 獸畜流行ノ病其性人類ニ流傳スヘキ者アルハ之カ緩急及其流傳ノ景況

第七 町村内ニ醫師ナク或ハ近傍醫師ニ乏シキカ爲患者アルモ醫師ノ診察ヲ受クルコト能ハサ
ル等ノ景況又ハ町村醫ヲ設ケルノ後ハ貧民救療ノ便否如何及其救療ヲ受ケタル患者ノ多寡
等

第八 種痘普及ノ如何及ヒ接種者ノ増減又ハ善惡不善感等ノ景況

第九 劇毒毒藥廢敗墮胎藥ノ取締ニ關セル事故及其限用等ノ顯未

第十 製藥營業ノ盛衰利害及故ヲニ粗惡品贗品ヲ製造スルノ惡弊等

第十一 賣藥營業請賣行商ノ取締及其郡町村内人民ノ賣藥ヲ信用スルノ深淺其他鍼灸呪盟等
ノ事ヲ信仰スルノ弊アル等

第十二 井戸若クハ水道ノ構造ヲ改良シ或ハ從前河水ヲ飲用スルノ習慣ヲ廢シテ新ニ井ヲ掘
リ又ハ其河水ヲ濾過スルノ方法ヲ設ケタル景況及成果如何

第十三 魚介鳥獸ノ肉若クハ牛乳等飲食物人民嗜好ノ如何又ハ其腐敗若クハ贗造ニ係ルモノ
ヲ食シテ其害ヲ被リタル者アルハ其形狀

第十四 顔料染料飲食物及玩弄品ノ着色料ノ爲メ其害ヲ被リタルモノアルハ其景況

- 第十五 飲食物其他諸般ノ中毒ニ罹ル者アリタルハ其類末
- 第十六 街路溝渠家屋廁所等ノ不潔ナルカ又ハ構造粗悪(其景状ヲ記スヘシ)ナルカ爲健康ヲ害シ疾病ヲ發シ又ハ人ニ快適ナラサルヲ以テ其改良(其方法ヲ記スヘシ)ヲ爲シタル景况及其成果ノ如何
- 第十七 市場屠場畜場魚干場肥料場等モ亦全項ニ準ス
- 第十八 工場製造場等アリテ近隣ノ空氣河水若クハ井水ヲ汚シ其他不快ノ惡臭劇烈ノ音響等ヲ發シ人ノ健康安寧ヲ妨害スルノ景况或ハ其妨害ノ改良ヲ謀リタル類末
- 第十九 學校病院救濟院旅館屋借屋芝居貸座敷湯屋温泉場等ノ清潔法及構造法ノ不適ナルヨリ人ノ健康ヲ害スルノ景况并ニ其實驗及改良等
- 第二十 墓地埋葬場火葬場ノ位置地形并ニ埋葬法火葬法ノ利害及其改良法等
- 第二十一 衣食住職業風俗其他婚嫁ノ遲速等健康ヲ害スヘキ景况并ニ其實驗若クハ意見及改良法等
- 第二十二 癩狂白痴癲癩及癩疾ノ人員ハ數計ニシテ各町村互ニ相比シ或ハ之ヲ往年ニ比シ其多寡増減等
- 第二十三 學校課業時間ノ長短教場ノ廣狹及其設備等學校衛生法ニ適セス現ニ生徒ノ健康ヲ害スルカ或ハ其虞アル等ノ景况
- 第二十四 製造場及礦坑ノ空氣流通宜シカラス又ハ操業時間長キニ過キ或ハ老幼男女ノ使役其宜シキヲ得スシテ健康ヲ害スル等ノ景况

第七條 通信ハ勉メテ平易ノ文ヲ用ヒ虛飾失實ノ弊ナキヲ要ス其得失利害ノ關係大ナル者ハ最注意スヘシ

第八條 各地方言ノ一般ニ解得シ難キ者ハ榜圖ヲ施シ説明ヲ加フヘシ

第九條 通信中數量其他統計ニ屬スル者ハ可成表ニ製シ中毒品其他試驗ヲ要スヘキ物品及文字ヲ以テ明記シ難キ者ハ現品若クハ圖解相添フヘシ

第十條 縣廳衛生課ハ通信事項ニ付キ疑義ノ質問ヲ受クルハ應ニ答解ヲ爲スヘシ若シ衛生課ニ於テ答解ヲ盡ス能ハサル者ハ地方衛生會又ハ衛生學家若クハ內務省衛生局ニ質問シ其解答ヲナスヘシ

●甲第二十六號 明治二十六年七月十八日 郡役所、市役所、町村役場

明治十八年十月本縣内第八十四號違死者圖樣式別紙ノ通り改正候條市町村長ニ於テ甲號樣式ニ依リ月別ニ一ケ年分取調ヘ市長ハ翌年二月末日迄ニ當廳ヘ町村長ハ同月十日迄ニ郡役所ヘ提出シ郡役所ニ於テハ乙號樣式ニ照準製表シ同月末日迄ニ當廳ヘ提出スヘシ
但此達ニ抵触スル從前ノ諸達ハ總テ廢止

甲號 何市、何郡町村死亡者調 明治何年自十二月

市町村字名	病名及事故	男	女	氏名	年	齡
何市何町	何	何	何	何	何	何
何町何	何	何	何	何	何	何
何村何	何	何	何	何	何	何
死時ノ藥見						
市町村字名	原	因	男	女	年	齡
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何

明治何年所轄内死亡者調前記ノ通りニ有之候也
 何市長(何町村長) 何 某 印

知事(郡長)宛

解釋
 一 死亡者ハ其埋(火)葬認許證ヲ附與シタル土地ニ於テ其數ヲ掲載スヘシ但在置死亡者ハ記入ニ及ハス
 一 死亡者中行倒人ニシテ氏名病名及事故不明ナレハ不明ト記シ年齡不明ナレハ推測ヲ以テ記スヘシ
 一 死時ノ藥見ノ年齡不明ナレハ推測ヲ以テ記スヘシ
 一 年齡ノ調査ハ滿一年迄ノモノヲ一年ト記シ一年以上滿二年迄ノモノヲ二年ト記入スヘシ以下之レニ做フ

乙號

乙號	死亡者年齡區別表 (明治何年)														何郡市役所
	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	合計	肺病		
年	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
合計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
第一類															
第二類															
第三類															
第四類															
第五類															
第六類															
第七類															
第八類															
第九類															
第十類															
第十一類															
合計															

解釋
 一 死亡者病類別ハ左ノ細目ニ據ルヘシ
 一 死時ノ藥見ハ欄外ニ其男女及推測ノ年齡ヲ記載スヘシ
 (第一類) 傳染性病
 (第二類) 肺病

衛生 衛生事務

(九十九)	膽石病						
(百一)	黃疸						
(百二)	急性肝臟消耗症						
(百三)	慢性肝臟消耗症						
(百四)	其他消化器ノ疾患						
(第九類)	泌尿生殖器病						
(百五)	尿道炎						
(百六)	膀胱炎						
(百七)	其他ノ膀胱疾患及男子生殖器ノ諸患ヲ合ム						
(百八)	腎臟諸病						
(百九)	女子生殖器病						
(百十)	子宮外妊娠						
(百十一)	流產						
(百十二)	子宮破裂						
(百十三)	妊娠及分娩						
(百十四)	子宮ノ疾患						
(百十五)	卵巢諸患						
(第十類)	外傷性變死						
(百十六)	凍傷						
(百十七)	日射病						
(百十八)	電擊						
(百十九)	爆裂						
	壓死及墮死						
	窒息及溺死						
	怪我						
	絞殺						
	相擊						
	溺死						
	火傷						
	銃創						
	切創						
	刺創						
	咬創						
	手術出血						
	自殺						
	中毒病						
	動物性及植物性毒						
	礦物性毒						
	亞爾瓦斯						
	亞爾保兒中毒						

一 此類別中其他ノ疾患云々ト記載セシハ該類別中ニ列擧スヘキ各病名ヲ省略セシモノナル
 カ故製表ニ當リ病名ヲ増加スルコトハ妨ナシ
 一 各病名ヲ増加セシトキハ第何類中某病ヲ挿入セシコトヲ附記スルコトヲ要ス
 一 若シ類別中何レニ挿入スヘキカヲ確定シ難キモノアルハ別欄ヲ設ケテ之ヲ掲ケ其事由
 ヲ附記スルコトヲ要ス

◎縣令第二十一號 明治三十一年三月十八日

市町村衛生組合設置ニ關スル規程左ノ通相定ム

第一條 明治三十年三月三法律第三十六號傳染病豫防法第二十三條ニ依リ市町村ヲ以テ其區域トシ

衛生組合ヲ設ケヘシ但土地ノ狀況ニ依リ數箇ノ組合ヲ設ケルモ妨ケナシ

第二條 衛生組合ニ於テ施行スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 飲料水常用水ノ使用ニ關スルコト
- 一 飲食物ノ取締ニ關スルコト
- 一 清潔方法消毒方法ノ設備ニ關スルコト
- 一 清潔方法消毒方法實施ニ關スルコト
- 一 溝渠、下水、廁園、芥溜等ノ掃除及改造ニ關スルコト
- 一 衛生上有害ト認ムル諸建築物ノ位置構造ニ關スルコト
- 一 不潔物等洗濯取締ニ關スルコト
- 一 傳染病患者ヲ隱蔽セントスルモノ、取締ニ關スルコト

第七條 地方税ノ補助ヲ受クル病院費ノ精算ハ前條ノ通り毎年二期ニ分チ差出スヘシ
第八條 醫事ニ關シ官署ヘ差出ス文書ハ病院長ノ名ヲ以テスヘシ
但診斷書并死亡届ノ類ハ主治者ノ名ヲ以テスヘシ

第九條 院則ノ改正變更等ハ其都度何出ツヘシ

第十條 公立病院ヲ設置セントスルハ左ノ件々ヲ記載シ何出ツヘシ(明治十七年甲申七十
三號ヲ以テ改正)

一 病院位置
何國何郡何町何番地

一名稱

公立何々病院

一 分院位置

何國何郡何町何番地

一 分院名稱

公立何々病院何々分院

一 院則

職員事務章程診察及貧困患者救療手續入院料藥價診察料等(明治十七年甲申七十
三號ヲ以テ改正)

一 院長以下履歷

何某ニ從ヒ何科修業何々醫學校卒業何月日開業免狀受領或ハ何地ニ於テ醫術開業及官
途出身賞罰等ノ類

明治十七年甲申七十
三號ヲ以テ改正
ノ一項ヲ除ス

一 院長以下給料

院長	一ヶ月	金何圓
何々	一ヶ月	金何圓
何々	一ヶ月	金何圓

一 病院費用

書籍器械藥品等入費	一ヶ月	金何圓
營繕入費并ニ諸雜費	一ヶ月	金何圓
雇人給料等	一ヶ月	金何圓
雇人給料等	一ヶ月	金何圓
雇人給料等	一ヶ月	金何圓

右費用總計一ヶ月金何圓 此内何々町村協議費金何圓有志寄附金何圓收入金何圓ヲ以テ出納遺拂
ノ積云々

●甲第十四號

明治廿八年五月廿四日

郡役所、市役所、町村役場

市町村ニ設置スヘキ避病院設備標準左ノ通り相定ム

避病院設備標準

- 一 避病院ハ消毒法充分ナルトキハ病毒ヲ傳播スルノ虞ナキヲ以テ其建設地ハカメテ患者運搬ノ便利ヲ圖リ道路險惡交通不便ノ地ヲ避クヘシ
- 一 避病院ハ左ノ建物ヲ設クヘシ
 - 一 重症患者室 若干棟
 - 一 輕症患者室 若干棟
 - 一 快復期患者室 一棟
- 以上ノ建物ニハ各別ニ廁ヲ設ケ且快復期患者室ニハ浴室ヲ備フヘシ

- 一 醫員其他事務員詰所調劑所看護入室及炊場等一棟
- 一 但浴室廁ヲ備フヘシ
- 一 消毒所 一箇所
- 一 但洗濯所ノ付屬ヲ要ス
- 一 屍室 一箇所
- 一 汚物置場及燒却所 一箇所
- 一 物置 一箇所
- 町村ニ於テハ其狀況ニヨリ重症患者室輕症患者室及快復期患者室ヲ全一建物中ニ區劃シテ設クルコトヲ得
- 一 病室ノ廣サハ患者一人ニ付凡一坪半ノ割合ヲ以テ造ルヘシ
- 一 病室ハ床側壁トモ板張ト爲シ總テ洗滌消毒ニ便スヘシ
- 一 屍室ハ床ヲ漆喰敷キ又ハ板張ト爲スヘシ
- 一 各病室ノ床下ハハ可成漆喰敷キト爲シ多少ノ傾斜ヲ付シテ汚水ノ流下ニ便ニシ別ニ滲透セサル汚水溜ヲ設クテ之ニ入ルノ施設ヲ爲スヘシ
- 一 避病院ニハ左ノ割合ヲ以テ醫師、調劑掛、看護人事務員ヲ置クヘシ
 - 一 醫長 一人 一 醫員 患者十五名乃至二十名ニ付一人
 - 一 調劑掛 二人以上 一 看護人 患者五名ニ付一人
 - 一 事務員 若干
- 町村ニ於テハ其狀況ニヨリ別ニ醫長、調劑掛、看護カス醫員ニ於テ之ヲ兼ヌルコトヲ得

●縣令第四十號

明治三十一年五月廿七日

傳染病豫防法第十七條ニ據リ傳染病院ヲ設置スヘキ町村左ノ通り指定ス

但位置并建物ハ設計書及畧圖ヲ添豫メ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

- 賀茂郡 箱取村
- 田方郡 三島町、修善寺村、田中村、伊東村
- 駿東郡 御厨町(泉村、小泉村)、楊原村、原町
- 庵原郡 興津町、江尻町、辻村、富士川村
- 安倍郡 清水町、三保村、豊田村、大里村、千代田村(南機村、北機村)組合
- 榛原郡 金谷町、川崎町、相良町
- 周智郡 氣多村
- 磐田郡 山名町組合、見付町、福島村、山香村、笠西村
- 濱名郡 新居町、舞坂町、笠井町、中ノ町村

●甲第二十一號

明治廿八年八月十五日

郡役所、市役所、町村役場

市町村ノ避病院ハ左ノ各項ニ依リ管理スヘシ

- 第一 醫長ハ院内ノ醫務衛生事務ヲ掌理シ醫員以下看護人等ヲ監督スヘシ
- 一 醫長ハ毎日一回以上回診シ治療並看護ノ方針ヲ醫員及看護人ニ指示スヘシ
- 第二 醫員ハ醫長ノ指揮ヲ承ケ治療其他患者ニ關スル事務ヲ擔當スヘシ
- 第三 調劑掛ハ醫長ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ關スル一切ノ事務ヲ擔當スヘシ

- 第四 消毒ニ從事セシムル爲メ豫メ院内諸員ニ就キ消毒擔當者若干名ヲ定メ置クヘシ
- 第五 看護人ハ醫長及醫員ノ指揮ヲ承ケ懇切ニ患者ノ看護ヲ爲スヘシ
- 第六 醫員調劑掛事務員ハ交替宿直スヘシ
看護人ハ院内ニ宿泊シ交替ヲ以テ通宵看護ニ從事スヘシ
看護人ニシテ調劑所及貯場ニ往復スルモノハ豫メ之ヲ定メ置キ其他ハ限リニ出入セシムヘカラス
- 第七 入院患者ノ父母妻子兄弟等附添看護ヲ出願スルトキハ院務ニ効クナキ限ハ之ヲ許可スルコトヲ得但院内ノ諸規則醫長以下ノ指揮ヲ遵守セシメ且限リニ外出ヲ許スヘカラス
- 第八 醫長醫員及看護人病室ニ入ルトキハ病室用衣ヲ被ヒ病室ヲ出テタルトキハ之ヲ脱スヘシ見舞人其他病室ニ出入スルトキハ本項ニ準シ病室用衣ヲ被ハシムヘシ
- 第九 消毒所居室汚物置場及焼却所ニ出入スルトキモ亦本項ニ準スヘシ
- 第十 病室用衣ハ一週二回以上消毒ノ上之ヲ洗濯スヘシ若シ患者ノ排泄物ニ觸レタルトキハ其都度十分消毒ヲ爲スヘシ
- 第十一 患者護送ノ人夫及運搬ノ器具ハ十分消毒ヲ爲スヘシ
- 第十二 病室其他ニ於テ患者又ハ其被服履器具等ニ觸接シタルトキハ速ニ手足其他觸接シタル部分ヲ二十倍ノ石炭酸水五十倍ノ格魯兒石灰水又ハ千倍ノ昇汞水(着色シタルモノ)ヲ以テ消毒スヘシ
- 第十三 患者用ノ飲食器具ハ毎回必ス之ヲ煮沸シ又ハ熱湯ニテ洗滌スヘシ
- 第十四 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直チニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ
- 第十五 患者ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取り概テ排泄物量二倍ノ石灰乳(十倍ノモノ)ヲ混シ一時間以上放置スヘシ
石灰乳ニ代フルニ格魯兒石灰ヲ以テスルコトヲ得此場合ニ於テハ排泄物量約十五分ノ一ノ格魯兒石灰ヲ混シ十五分間放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス
- 第十六 患者ヲ恢復期患者室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ
- 第十七 患者全愈退院ノ際ハ先ツ千倍ノ昇汞水又ハ四十倍ノ石炭酸水ニテ全身ヲ拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身軀ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ニ退院セシムヘシ
- 第十八 患者ノ被服又ハ寢具器具其他病室汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ院外ニ持出ツルコトヲ禁スヘシ
- 第十九 患者ノ寢具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸氣消毒又ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ但同法ヲ行ヒ能ハサルトキハ二十倍ノ石炭酸水中ニ浸漬スヘシ
- 第二十 革製ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水又ハ五十倍ノ格魯兒石灰水ヲ以テ拭淨スヘシ
- 第二十一 患者ニ觸接シタル物ニシテ涼熱又ハ藥力ヲ以テ消毒シ能ハサルモノハ少ナクモ六日間日光ニ直射シ乾燥セル場所ニ曝スヘシ
- 第二十二 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒棄スヘシ
- 第二十三 牀板側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石灰乳ヲ用ユルモ可ナリ此場合ニ於テハ少ナクモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ
- 病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

- 第十四 患者ニ供シタル飲食物ノ殘餘ハ直チニ消毒ノ上一定ノ場所ニ棄却スヘシ
- 第十五 患者ノ排泄物ハ必ス一定ノ容器中ニ取り概テ排泄物量二倍ノ石灰乳(十倍ノモノ)ヲ混シ一時間以上放置スヘシ
石灰乳ニ代フルニ格魯兒石灰ヲ以テスルコトヲ得此場合ニ於テハ排泄物量約十五分ノ一ノ格魯兒石灰ヲ混シ十五分間放置スヘシ汚水ノ消毒モ亦之ニ準ス
- 第十六 患者ヲ恢復期患者室ニ移ストキハ豫メ相當ノ消毒ヲ爲スヘシ
- 第十七 患者全愈退院ノ際ハ先ツ千倍ノ昇汞水又ハ四十倍ノ石炭酸水ニテ全身ヲ拭淨シタル上入浴セシメ石鹼ヲ以テ身軀ヲ清洗シ然ル後衣服ヲ更ニ退院セシムヘシ
- 第十八 患者ノ被服又ハ寢具器具其他病室汚染ノ疑アルモノハ消毒法ヲ行ヒタル後ニアラサレハ院外ニ持出ツルコトヲ禁スヘシ
- 第十九 患者ノ寢具衣類其他ノ布片ヲ消毒スルニハ蒸氣消毒又ハ煮沸消毒ヲ行フヘシ但同法ヲ行ヒ能ハサルトキハ二十倍ノ石炭酸水中ニ浸漬スヘシ
- 第二十 革製ノ物品ハ二十倍ノ石炭酸水又ハ五十倍ノ格魯兒石灰水ヲ以テ拭淨スヘシ
- 第二十一 患者ニ觸接シタル物ニシテ涼熱又ハ藥力ヲ以テ消毒シ能ハサルモノハ少ナクモ六日間日光ニ直射シ乾燥セル場所ニ曝スヘシ
- 第二十二 患者ノ排泄物ニ觸接セシ物品ニシテ價格ノ低廉ナルモノハ成ルヘク之ヲ燒棄スヘシ
- 第二十三 牀板側壁及家具中木製及金屬製ノ部分其他之ト類似ノ物品ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ拭淨スヘシ但床板側壁等ヲ消毒スルニハ十倍ノ石灰乳ヲ用ユルモ可ナリ此場合ニ於テハ少ナクモ二時間放置シタル後洗滌スヘシ
- 病室ハ消毒ヲ終リタル後成ルヘク二十四時間放置シ空氣ヲ流通セシムヘシ

第廿四 死者アルトキハ直チニ二十倍ノ石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ全身ヲ被包シ速ニ之ヲ
 屍室ニ移スヘシ

第廿五 火葬又ハ埋葬スル爲メ死骸ヲ他所ニ移ストキハ棺中ニ生石灰又ハ格魯見石灰ヲ入レ其
 上ニ屍骸ヲ置キ更ニ該藥ヲ撒布シテ之ヲ密閉スヘシ

死骸ノ運搬ハ未明又ハ夜間ニ於テスヘシ

第廿六 院内ニハ器具其他必要ナル器具藥品等ヲ備置クヘシ

院内ノ諸員及外來者ニ使用セシムル爲メ病室用衣ヲ備ヘ置クヘシ

寐臺ヲ用ヒサル場合ニ於テハ臺ノ上ニ油紙其他汚物滲透ノ虞ナキ物ヲ敷クヘシ

第二 醫業

◎縣令第十六號 明治二十七年二月廿四日

明治十七年六月本縣甲第七十八號布達醫師心得左ノ通り改正ス

醫師心得

第一條 醫師開業免狀所持ノ者本縣管内ニ入住シシルトキハ其原籍並ニ住所ヲ詳記シ履歷書及
 ヒ免狀寫ヲ添ヘ届出ツヘシ

第二條 管内ニ在テ住所ヲ轉シ又ハ他管下ヘ移轉スルトハ寄留轉籍等ノ別ヲ詳記シ其都度届出
 ツヘシ

第一三三號令
 明治二十七年
 二月廿四日
 第一三三號令
 第一三三號令
 第一三三號令

但出張所ヲ設ク又ハ之ヲ廢シタルトキモ全權届出ツヘシ

第三條 明治十六年第三十五號布告醫師免狀規則第五條ニ依リ假免狀ヲ得醫術開業セシ者ハ其
 許可ノ區域外ニ至リ醫術ヲ施スヲ得ス

第四條 前條ノ醫師開業許可ノ區域ヲ去リ他ヘ移住セント欲スルトハ其旨届出テ免狀返納スヘ
 シ

第五條 診察ヲ爲サル者ニ藥劑ヲ投シ又ハ處方箋ヲ與フヘカラス

第六條 醫術開業免狀所持ナキ者ヲ代診者トシテ專斷施療セシメ又ハ出張所ヲ設ク本人自ラ出
 診セサルハ若クハ出診日外ニ於テ該代診者ヲシテ診察治療セシムルヲ得ス

第七條 醫師ハ處方錄ヲ備ヘ患者ノ住所姓名年齡及其病名處方等ヲ登記シ置クヘシ

第八條 施治ノ患者死亡スルカ又ハ變死急病及妊娠四ヶ月以上ノ死胎分娩等死後檢案候節ハ別
 紙甲號又ハ乙號書式ノ書面ヲ製シ死者ノ家人ニ付與スヘシ若シ家人ナキハ直ニ其他ノ市町
 村長ニ差出スヘシ

但數名ノ醫師ニテ取扱ヒタル節ハ主任ノ醫師本文ノ手續ヲナスヘシ

第九條 處方箋ヲ請フモノアレハ藥劑分量用法年月日患者及自己ノ宿所姓名等ヲ詳記シ捺印シ

與フヘシ

第十條 施治ノ患者事故アリテ轉醫セント欲スル者病名及ヒ處方記ヲ乞フキハ之レヲ與フヘシ

第十一條 虎列刺腸室扶私赤痢實布埤利亞(格魯布)發疹室扶私及痘瘡ノ六病ヲ診斷シタルキハ消毒豫防法ノ要件ヲ病家ニ懇諭シ且ツ成規ニ依リ市町村長ニ通知スルカ又ハ最寄警察署ニ届出ツルノ外別紙丙號ノ届書ヲ製シ遅クモ翌日迄ニ之ヲ患者所在ノ市町村長ニ差出スヘシ

但本文六病ノ外流行病アリテ其勢熾ナルノ兆アルキハ本條ニ準シ取扱フヘシ

第十二條 前條ノ病者全快又ハ死亡シタルキハ別紙丁號ノ届書ヲ製シ之ヲ患者所在ノ町村長ヘ差出スヘシ若シ其病ノ終期ニノミ診斷スルトキハ發病ノ期日ヲ取調ヘ記入スヘシ

但本文届出ノ外別ニ第八條ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 流行病豫防法ニ付市町村長ヨリ協議ヲ受クルトキハ速ニ之ニ應スヘシ

第十四條 第三條第五條ニ違背シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十五條 第六條第八條第十一條第十二條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

●郡第四號

明治廿八年七月十一日

郡役所、警察署

郡醫職務規程左ノ通相定ム

郡醫職務規程

第一條 郡醫ハ受持郡内公衆ノ健康ヲ保持シ傳染病ヲ豫防防遏スルノ目的ヲ以テ郡長及警察署長ヲ補佐シ左ノ各條ノ任務ヲ盡スヘキ責ヲ有スルモノトス

第二條 郡醫ハ衛生上ノ利害又ハ傳染病豫防ニ關シ郡長又ハ警察署長ヨリ通達アリタルトキハ左ノ事項ヲ觀察シ意見ヲ復申スヘシ

- 一 道路、溝渠、井戸、下水、便所、芥溜等
- 二 學校、病院、製造場、市場、劇場、寄席、宿屋、湯屋、裏店等
- 三 飲食物玩弄物等
- 四 前項ノ外衛生上又ハ傳染病豫防上有害ノ結果ヲ來スヘキ虞アル件

第三條 郡醫ハ受持郡内ニ傳染病又ハ流行病若クハ之ニ類似ノ病發生スルキハ郡長又ハ警察署長ノ通達ニ依リ豫防救治ノ實況ヲ觀察シ若シ不充分ト認ムルトハ町村長及町村醫ト謀リ救療及豫防消毒上不行届ナキ様之カ指示等ヲ爲シ病毒ノ傳播ヲ防遏スヘシ

第四條 郡醫ハ受持郡内ノ町村衛生組合長ヲ指導シ清潔法ノ持續傳染病ノ豫防ニ付キ該組合員共同一致シテ實効ヲ舉クル様盡力セシメ且質疑等アルキハ懇篤説明ヲ爲スヘシ

第五條 郡長又ハ警察署長ニ於テ臨時必要アリト認メ受持郡内ノ出張ヲ命スルトキハ郡醫ハ何

時ニテモ出張スルモノトス

第六條 郡醫ハ受持郡内傳染病豫防消毒其他公衆衛生及醫事上ノ景况ニ付必要ノ事項アルハ意見ヲ具シ其時々郡長及警察署長ヘ申發スヘシ

●甲第十號 明治三十年三月九日

郡役所、市役所、町村役場

市町村醫設置規則左ノ通り之ヲ定ム

市町村醫設置規則

第一條 市町村ニハ必ラス一名以上ノ市町村醫ヲ設置スヘシ

但都合ニ依リ數町村聯合シテ之ヲ置モ妨ケナシ

第二條 市町村醫ハ其市町村内傳染病其他公衆衛生ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

但一醫ニシテ數町村ノ町村醫タルヲ得

第三條 市町村醫ノ姓名給料若クハ報酬額ハ其市町村ヨリ縣廳ヘ届出ツヘシ

但市町村醫ヲ變更シタルトキ亦同シ

附則

第五條 市町村ニ於テハ本年五月三十一日迄ニ市町村醫ヲ定メ第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

第六條 明治十七年七月號外達町村醫設置規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

●甲第二十一號

明治廿四年四月廿八日

郡役所、市役所、町村役場

醫會準則左ノ通り相定メ候條本縣管内居住ノ醫師ニハ該準則ニ基キ本年六月中ニ組合ヲ設ケシムヘシ

醫會準則

第一條 醫會ハ醫事及衛生ニ關シ左記各項ノ目的ヲ達セシカ爲ニ設クルモノトス

一 醫風ヲ改良シ醫術ノ進歩ヲ計ル事

一 醫師業務上ニ關スル事件ヲ協議スル事

一 傳染病及地方病ノ原因ヲ探究シ之レカ豫防法ヲ講究スル事

一 地方衛生上ノ利害得失ヲ講究シ其改良進歩ヲ計ル事

第二條 醫會ハ各郡市役所部内ヲ以テ一區域トス

但土地ノ形勢及道路交通ノ便否等ニ依リ醫會ノ區域ヲ分合スルノ必要アルトハ便宜之ヲ定

メ縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 管内ニ居住シ公衆ノ診察治療ニ從事スル醫師ハ總テ醫會ニ加入スヘシ(三十年甲第八號ヲ以テ改正)

ニケ所以上ニ於テ其業務ヲ執ルモノ及他管下居住ノ醫師ニシテ本縣下ニ出張所ヲ設クルモノ

ハ各醫會ニ加入スルモノトス

第四條 醫會ニ於テハ正副會長及幹事ヲ撰舉シ其ノ人名及任期ハ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ届出ツ